

取扱説明書 - 日本語

ServerView Suite

ServerView Update Management

ServerView Operations Manager V5.0

2010年10月版

DIN EN ISO 9001:2008 に準拠した 認証を取得

高い品質とお客様の使いやすさが常に確保されるように、

このマニュアルは、DIN EN ISO 9001:2008

基準の要件に準拠した品質管理システムの規定を

満たすように作成されました。

cognitas. Gesellschaft für Technik-Dokumentation mbH

www.cognitas.de

著作権および商標

Copyright © 1998 – 2010 Fujitsu Technology Solutions.

All rights reserved.

お届けまでの日数は在庫状況によって異なります。技術的修正の権利を有します。

使用されているハードウェア名とソフトウェア名は、各メーカーの商標名および商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、および Hyper V は、米国およびその他の国における

Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Intel および Xeon は、米国 Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国にお

ける登録商標または商標です。

目次

目次	3
1 はじめに	9
1.1 コンセプト	9
1.2 前提条件	11
1.2.1 PRIMEQUEST サーバのアップデートの要件	12
1.3 管理用サーバに関する注記	12
1.3.1 シャットダウンと再起動	13
1.3.1.1 無計画なリブート後のステータス	13
1.3.1.2 エラー修復の手順	13
1.3.2 複数の管理用サーバ	13
1.4 PRIMERGY サポートパッケージ(PSP)	14
1.4.1 現在の PSP バージョン	14
1.4.2 PSP のコンポーネント	14
1.5 サーバリストからのサーバの削除に関する注記	15
1.6 表記規則	16
1.7 ServerView Suite のマニュアル	17
2 概要	19
2.1 要件	19
2.2 準備	20
2.3 一般的な使用方法	21
3 アップデート手順	25
3.1 オンラインアップデート	26
3.2 オフラインアップデート	27
3.2.1 サービスパーティションによるアップデート	28
3.2.2 PXE サーバによるアップデート	30
3.3 TFTP サーバによるアップデート	33
3.3.1 ハードウェアシステムのアップデート	34
3.4 アップデートデータへのアクセス	36
4 Update エージェントのインストール	37
4.1 管理対象サーバへのインストール	37
4.1.1 インストールの要件	37
4.1.2 詳細情報	38
4.1.3 Update エージェント V5.00 のインストール	39
4.1.3.1 Windows でのインストール	39
4.1.3.2 Linux でのインストール	42
4.2 PXE/TFTP サーバへのインストール	44
4.2.1 要件	44
4.2.2 Windows での GlobalFlash エージェント 4.71 のインストール	45
4.2.3 Linux でのインストール	46

4.3 GlobalFlash エージェント V4.71 に関する注記	47
4.3.1 複合インストール	47
4.3.2 アップデート手順の変更	48
5 ユーザーインターフェース	49
5.1 アップデートマネージャのメインウィンドウ	49
5.1.1 ツリービュー	51
5.1.2 「サーバ詳細」タブ	53
5.1.3 「アップデート詳細」タブ	61
5.1.4 「ジョブ詳細」タブ	64
5.1.5 ダイアログボックスとウィザード	68
5.1.5.1 「ログオン」ダイアログボックス	68
5.1.5.2 クリーンアップウィザード	71
5.1.5.3 PXEアドレス変更ウィザード	77
5.1.5.4 「サーバ詳細」ダイアログボックス	80
5.1.5.5 ジョブ作成ウィザード	85
5.1.5.6 「アップデート詳細」ダイアログボックス	95
5.1.5.7 「PSP詳細」ダイアログボックス	98
5.1.5.8 ジョブコピーウィザード	100
5.1.5.9 「ジョブ詳細」ダイアログボックス	110
5.2 リポジトリマネージャのメインウィンドウ	113
5.2.1 ツリービュー	113
5.2.2 「アップデート」タブ	115
5.2.3 「ユーザ定義」タブ	117
5.2.4 ダイアログボックス	119
5.2.4.1 リポジトリのインポート(ダイアログボックス)	119
5.2.4.2 アップデートのプロパティ編集(ダイアログボックス)	120
5.2.4.3 「PSP詳細」ダイアログボックス	124
5.2.4.4 ユーザ定義の作成(ダイアログボックス)	126
5.2.4.5 ユーザ定義の編集(ダイアログボックス)	128
5.3 ダウンロードマネージャのメインウィンドウ	130
5.3.1 ツリービュー	131
5.3.2 「スケジュール」タブ	132
5.3.3 「タスク」タブ	134
5.3.4 「ログ」タブ	136
5.3.5 ダイアログボックス	138
5.3.5.1 ダウンロードサーバタスクの追加ダイアログボックス	138
5.3.5.2 ダウンロードサーバタスクの編集ダイアログボックス	140
5.3.5.3 ダウンロードサーバタスクの有効化ダイアログボックス	143
5.4 設定のメインウィンドウ	145
5.4.1 「一般設定」タブ	145
5.4.2 「メール設定」タブ	148
5.4.3 「ダウンロード設定」タブ	150
5.4.4 設定ウィザード	152

5.4.4.1 「開始」ステップ(設定ウィザード)	153
5.4.4.2 「リポジトリ」ステップ(設定ウィザード)	154
5.4.4.3 「その他」ステップ(設定ウィザード)	157
5.4.4.4 「ダウンロード設定」ステップ(設定ウィザード)	158
5.4.4.5 「ダウンロードサービスのメール設定」ステップ(設定ウィザード)	161
5.4.4.6 「適用」ステップ(設定ウィザード)	163
5.5 フィルタダイアログボックス	164
5.5.1 標準(フィルタダイアログボックス)	164
5.5.2 文字列(フィルタダイアログボックス)	165
5.5.3 整数値(フィルタダイアログボックス)	166
6 アップデートの管理	167
6.1 アップデートマネージャ	167
6.1.1 アップデートマネージャを開く	167
6.1.2 アップデートマネージャを閉じる	168
6.1.3 サーバへのログオン	168
6.1.4 サーバの Update エージェントのリセット	169
6.1.5 サーバのアップデートログの表示	170
6.1.6 アップデートに関する詳細情報の表示	170
6.1.7 ジョブの管理	171
6.1.7.1 ジョブの作成	171
6.1.7.2 ジョブのコピー	173
6.1.7.3 ジョブのリリース	174
6.1.7.4 ジョブの削除	174
6.1.7.5 ジョブについての詳細情報の表示	174
6.2 リポジトリマネージャ	175
6.2.1 リポジトリマネージャを開く	175
6.2.2 リポジトリマネージャを閉じる	175
6.2.3 アップデートの編集	176
6.2.4 アップデートのリリース	176
6.2.5 ユーザ定義グループの管理(ユーザ定義)	177
6.2.5.1 ユーザ定義グループの作成	177
6.2.5.2 ユーザ定義グループの編集	177
6.2.5.3 ユーザ定義グループでのアップデートのリリース	178
6.2.5.4 ユーザ定義グループの削除	178
6.2.6 アップデートリポジトリの再初期化	179
6.3 ダウンロードマネージャ	180
6.3.1 ダウンロードサービスの設定	180
6.3.1.1 ダウンロードサービスのユーザ ID の設定	180
6.3.1.2 ダウンロードサービスの開始	181
6.3.1.3 並行ダウンロードタスクの数の調整	182
6.3.2 ダウンロードマネージャの一般情報	183
6.3.3 ダウンロードマネージャを開く	183

6.3.4 ダウンロードマネージャを閉じる.....	184
6.3.5 新しいダウンロードタスクの作成.....	184
6.3.6 ダウンロードタスクへのサーバの割り当て.....	184
6.3.7 ダウンロードタスクの編集.....	185
6.3.8 ダウンロードタスクの削除.....	185
6.3.9 ダウンロードタスクの監視.....	186
6.3.10 ログファイルの管理.....	186
6.4 設定.....	186
6.4.1 設定を開く.....	187
6.4.2 設定を閉じる.....	187
6.4.3 グローバルパラメータの設定.....	187
6.5 テーブルのフィルタリング.....	190
7 コマンドラインインターフェース.....	191
7.1 呼び出しパラメータ.....	192
7.2 StartFlash(コマンド).....	195
7.3 WaitForDone(コマンド).....	197
7.4 Reboot(コマンド).....	199
7.5 Cleanup(コマンド).....	200
7.6 Cancel(コマンド).....	202
7.7 結果ファイル.....	203
7.7.1 StartFlash(イベント).....	204
7.7.2 Ready(イベント).....	206
7.7.3 Cancel(イベント).....	207
7.7.4 SequenceError(イベント).....	207
7.7.5 ParamError(イベント).....	208
7.7.6 LogonError(イベント).....	208
7.7.7 MemoryError(イベント).....	208
7.8 バッチファイル(例).....	209
7.9 CLI スタンドアロン.....	222
8 トラブルシューティング.....	223
8.1 アップデートマネージャのエラーメッセージ.....	223
8.2 シングルサインオンの問題.....	225
9 Help のヘルプ.....	226
9.1 Help の呼び出し.....	226
9.2 ウィザード.....	226
9.3 Help の検索.....	227
9.4 お気に入りへ保存.....	227
9.4.1 トピックをお気に入りへ保存.....	227
9.4.2 検索結果をお気に入りへ保存.....	228
10 後付け.....	229
10.1 GlobalFlash エージェント V4.71 のインストール.....	229
10.1.1 Windows でのインストール.....	230

10.1.1.1 メニュー形式のインストール.....	230
10.1.1.2 コマンドラインインターフェースによるインストール.....	237
10.1.2 Linux でのインストール.....	239

1 はじめに

ServerView アップデート管理により、サーバのファームウェアおよびソフトウェアコンポーネントのアップデートを管理することができます。アップデート管理は、以下のアプリケーションで構成されています。

- **アップデートマネージャ**: オンラインアップデートを管理します。
- **リポジトリマネージャ**: アップデートリポジトリを管理します。
- **ダウンロードマネージャ**: Web サーバから管理用サーバへのダウンロードタスクを管理します。
- **設定**: これらのアプリケーションのグローバル設定を設定します。

1.1 コンセプト

アップデート管理はデータベースのコンセプトに基づいており、GUI とサービスはデータベースを通じてのみ通信します。

1. GUI を使用してサービスのジョブを定義し、これらのジョブをデータベースに書き込みます。
2. サービスはジョブをデータベースから取得し、バックグラウンドで処理して結果をデータベースに書き込みます。
3. GUI はデータベースからの結果を表示します。

さまざまなサービスによって実行されるタスクについて、以下に説明します。

インベントリサービスは PRIMERGY サーバのインベントリを読み取り、結果をデータベースに書き込みます(インベントリには、サーバのハードウェアとソフトウェアの構成全体のチェックスケジュールが含まれます)。

ダウンロードサービスはダウンロードサーバからリポジトリにアップデートをダウンロードします。

-  ダウンロードサービスによるダウンロードの他に、ServerView Suite DVD 1(バージョン 7.812 以降)またはUpdate DVDからリポジトリマネージャを使用して、リポジトリにアップデートをインポートすることもできます。Linux の場合は、DVD 10.09.09 以上が必要です。

PRIMERGY サーバを初めてアップデートする場合は、まず ServerView Suite DVD からアップデートをロードします。そうしないと、データ量が多いため、このプロセスに非常に長い時間がかかります。DVD はほぼ毎月発行されているため、最新のアップデートが収録されていないことがあります。その場合は、ダウンロードサービスを使用して最新のアップデートをダウンロードしてください。

アップデートサービスは以下のタスクを実行します。

1. インベントリとリポジトリに基づいて各 PRIMERGY サーバで使用できるアップデートを検出し、結果をデータベースに返して GUI で表示できるようにします。
2. GUI で定義したジョブを使用して、リポジトリから PRIMERGY サーバにアップデートを転送します。

この相互関係を、以下の図で示します。

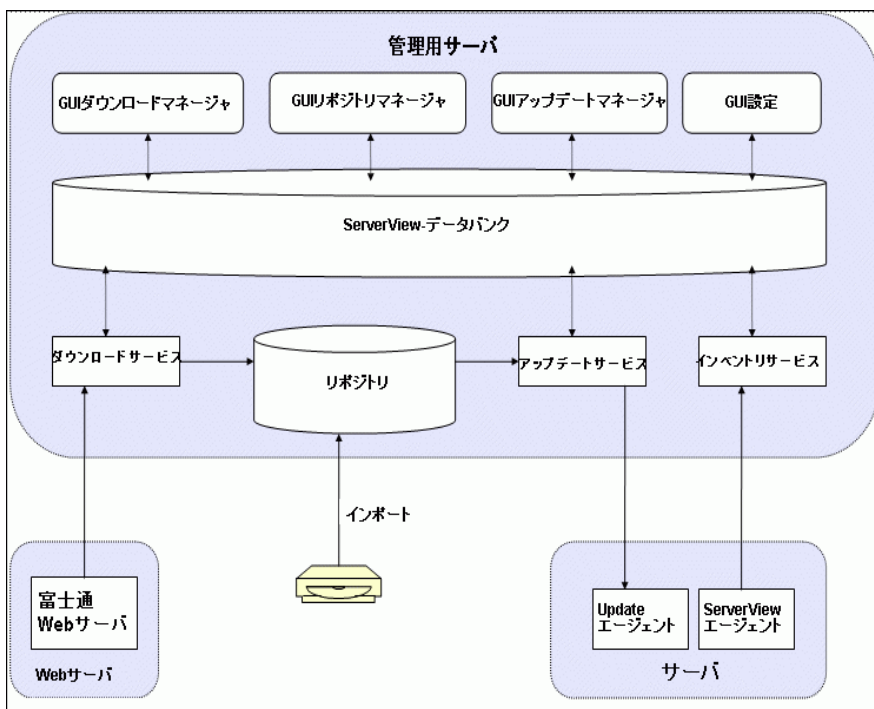


図 1: アップデート管理のさまざまなサービス間のインタラクション

1.2 前提条件

管理対象 PRIMERGY サーバは以下の前提条件を満たす必要があります。

- 対応する ServerView agents for Windows または Linux がインストールしてあること。
- オンラインサーバの場合、**ServerView Update Agent V4.80**(Windows または Linux) 以上がインストールしてあること。
- オフラインサーバの場合、**ServerView GlobalFlash Agent ≥ V4.6-0**(Windows または Linux) がインストールしてあること。

オンラインサーバ OS 実行中にのみ、コンポーネントをインストールできます。[26 ページの オンラインアップデート](#)を参照してください。

オフラインサーバ OS がシャットダウンされた後に、DOS ツールを使用してコンポーネントをインストールすることもできます。[27 ページのオフラインアップデート](#)を参照してください。

- 管理対象サーバに対して **Single Sign On** を利用するには、**ServerView Agents V5.0** および **ServerView Update Agent V5.0** がインストールされている必要があります。さらに、中央管理用サーバ(CMS)の証明書が、管理対象サーバにコピーされている必要があります。
- 管理対象サーバのファイアウォール設定において、ポート3171と3172は有効になっている必要があります。
- 中央管理用サーバ(CMS)にて、ServerView Operations Manager V5.0 がインストールされている必要があります。

1.2.1 PRIMEQUEST サーバのアップデートの要件

PRIMEQUEST サーバのアップデートの場合、以下の必要条件を管理対象サーバで満たす必要があります。

- マネジメントボードを保守モードにしないこと。
- 対象サーバのパーティションが保守モードになっていないこと。
- 対象サーバのすべてのパーティションで、TMP モードを無効にしておくこと。
- マネジメントブレードのオンラインアップデートの場合、2 台目のマネジメントブレードを取り付けること。
- オフラインアップデートの場合、対象サーバのすべてのパーティションをあらかじめシャットダウンしておくこと。
- ServerView Update Agent を管理サーバにインストールしてあること(バージョン 4.92 の時点)。

上記の要件を満たしていない場合、アップデートは中断され、対応するエラーメッセージが表示されます。

1.3 管理用サーバに関する注記

アップデート手順は各アップデートジョブを別々に制御する必要があるため、管理用サーバ自身のアップデートは、再起動が不要な場合にのみ実行できます再起動が必要なアップデートには、ServerView Update Manager Express を使用

できます。ServerView Update Manager Express は ServerView Suite DVD に収録されています。

1.3.1 シャットダウンと再起動

管理用サーバのシャットダウン/再起動は、アップデートマネージャの「**サーバ詳細**」タブでジョブステータスが「**実行中**」のサーバがない場合に実行できます。ステータスが「**待機中**」(「**ジョブ詳細**」タブ)のジョブは、管理用サーバが再起動された後、**開始時刻**に既に達していた場合に実行されます。

管理用サーバのシャットダウン/再起動は、アップデートマネージャの「**サーバ詳細**」タブでジョブステータスが「**実行中**」のサーバがある場合は、実行してはいけません。

1.3.1.1 無計画なリポート後のステータス

管理用サーバの無計画なリポート後、「**ジョブ詳細**」ダイアログボックスには以下のエントリが表示されることがあります。

- ジョブステータス:エラー
- エラーテキスト:マネージャ停止

1.3.1.2 エラー修復の手順

- 「**サーバ詳細**」タブのエージェントステータスが「**レディ**」の場合、ジョブをコピーして再生成できます(**ジョブのコピー**)。
- エージェントステータスが「**エラー**」または「**ビジー**」の場合、まずクリーンアップを実行してから、ジョブをコピーして再作成します(**ジョブのコピー**)。

1.3.2 複数の管理用サーバ

1つのネットワーク内で複数の管理用サーバを実行できますが、管理用サーバは異なるサーバを担当する必要があります。つまり、異なる管理用サーバ上のサーバリストは異なっている必要があるということです。

1.4 PRIMERGY サポートパッケージ(PSP)

PRIMERGY Support Package(PSP) は、PRIMERGY サーバ上のドライバとソフトウェア製品をインストールおよびアップデートするための基本要素です。

PSP には複数のパッケージがあり、それぞれには同じ種類の異なるバージョンのドライバまたはソフトウェア製品が含まれています。

1.4.1 現在の PSP バージョン

現在の PSP バージョンは ServerView Suite DVD 1 に収録されており、これは約 2 か月ごとにリリースされる新バージョンです。

PSP は以下からダウンロードすることもできます。

<http://support.ts.fujitsu.com/globalflash>



現在リリースされている PSP がサポートするコンポーネントとサーバモデルの概要が、該当する PSP の Readme ファイルに記載されています。

1.4.2 PSP のコンポーネント

各 PSP は以下の要素で構成されています。

- ドライバまたはソフトウェア製品、および PSP のインストールに必要なファイルを含む、zip アーカイブ
- リリースノート(*relnotes.txt*)
- PSP 記述ファイル(xml ファイル)

PSP 記述ファイル(xml ファイル)

記述ファイルには以下の情報が記載されます。

- PSP の名前
- PSP のバージョンとコンテンツの詳細
- PSP のインストール優先度についての情報
- PSP に含まれているすべてのパッケージの説明

PSP に含まれている各パッケージについて、バージョンおよびソフトウェア依存関係についての情報が提供されます。シャーシ ID、システムボード ID、PCI ID、ファームウェアまたは OS バージョンなどです。

記述ファイルに含まれる情報に基づき、アップデートツールは、ハードウェアおよびソフトウェアの依存関係の要件が満たされているかどうか、管理対象サーバをチェックできます。

1.5 サーバリストからのサーバの削除に関する注記

サーバリストからのサーバの削除は、アップデートジョブの「エージェントステータス」が「ビジー」で、「ジョブ詳細」の「ステータス」が「転送中」、「転送完了」、「アップデート中」、または「アップデート完了」の場合は、拒否されます。

サーバリストからのサーバの削除は、アップデートジョブの「エージェントステータス」が「無し」で、「ジョブ詳細」の「ステータス」が「転送中」、「転送完了」、「アップデート中」、「アップデート完了」、または「リポート中」の場合は、拒否されません。

エラーの発生を防止するには、以下の操作を実行する必要があります。

- 管理対象サーバの GlobalFlash エージェント/Update エージェントを確認し、必要に応じて再起動します。
- 管理対象サーバの LAN 接続を確認し、必要に応じて修正します。
- アップデートマネージャのコマンドラインインターフェースから、手動でクリーンアップを実行します。

条件に応じて、以下のコマンドを使用する必要があります。GFCLI -C (=クリーンアップ) または GFCLI -A -S (=強制キャンセル)

以下の場所で、クリーンアップが実行されます。

- 管理対象サーバ
- PXE サーバ(PXE ブートの場合)
- TFTP サーバ(MMB フラッシュの場合)
- 管理用サーバ(Unified Firmware コンポーネントの場合)

1.6 表記規則

この マニュアルでは以下の表記規則を使用します:

表記	説明
	データの損失やデバイスの損傷の可能性があるリスクを表示します。
	追加関連情報とヒントを表示します。
太字	インターフェイス要素の名前を示します。
<code>monospace</code>	パスおよびファイル名など、出力やシステム要素を示します。
太字の monospace	キーボードを使用して入力するテキストを示します。
青字の文字列	関連するトピックへのリンクを示します。
ピンクの文字列	既に表示したリンクを示します。
<abc>	実際の値と置き換える必要がある変数を示します。
[abc]	オプション(構文)を示します。
[key]	キーボード上のキーを示します。大文字のテキストを入力する場合、[Shift] キーを指定します。たとえば、Aを入力する場合 [SHIFT] + [A]を押します。2つのキーを同時に押す場合は、2つのキーをプラス記号で連結して示します。

画面

いくつかの画面はシステムに依存しているため、表示される詳細はシステムによって異なります。また、メニューオプションとコマンドについて、システム固有の差異がある場合があります。

1.7 ServerView Suite のマニュアル

ServerView Suite のマニュアルは、各サーバシステムに付属の ServerView Suite DVD 2 に収録されています。

マニュアルはインターネットからも無料でダウンロードできます。インターネットのオンラインドキュメントは、<http://manuals.ts.fujitsu.com> の「*Industry standard servers*」のリンク先からダウンロードできます。

2 概要

ServerView アップデート管理では、BIOS、ファームウェア、ドライバ等の最新のアップデートをリモートよりサーバに適用することができます。

この章では、アップデート管理の準備と使用方法の概要を説明します。

2.1 要件

アップデート管理機能には、以下のアプリケーションとデータが必要です。

アプリケーション

- ServerView Operations Manager (中央管理用サーバ)
- ServerView SNMP エージェント (管理対象サーバ)
- ServerView Update エージェント (管理対象サーバ)

これらのアプリケーションは、以下より入手できます。

- ServerView Suite DVD 1 (サーバ本体にバンドル)
- 富士通PRIMERGYサイトのダウンロードページ

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>

アップデートデータ

アップデートデータは、サーバ用の最新BIOS、ファームウェア、ドライバ等です。

これらのデータは以下の手段で取得できます。

- ServerView Suite DVD 1 (サーバ本体にバンドル)
- ServerView Update DVD

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>

- 富士通Web サーバの「Download」セクション

<http://support.ts.fujitsu.com/globalflash>

2.2 準備

管理対象サーバと中央管理用サーバ(CMS) の両方で、以下の準備(セットアップ) が必要です。

管理対象サーバ

管理対象サーバは、アップデート管理機能によってリモートで管理され、最新状態に維持されているサーバです。

1. ServerView SNMP エージェントをインストールします。
2. ServerView Update エージェントをインストールします。

管理対象サーバでアップデートを実行する前にセキュリティが必要な場合は、Update エージェントのインストール中またはインストール後にユーザグループを指定する必要があります。

このグループ内のユーザは、管理対象サーバにログオンして CMS からアップデートを実行できます。

- Windows サーバ: Update エージェントのインストール中にユーザグループを指定します。
 - Linux サーバ: インストール後に、ファイル *LinuxFwuAgent.cfg* を編集します。
3. ユーザグループ内にユーザを作成します。
 4. アップデート管理で使用される、以下のポートを開きます。
 - 161(snmp)
 - 3171(Update エージェント)
 - 3172(SCS)

中央管理用サーバ(CMS)

CMS は、ServerView Operation Manager のインストール先の中央管理用サーバです。

CMS から、アップデート管理は管理対象サーバのリモートアップデートを実行します。

ServerView Operation Manager のインストール中に、ダウンロードサービスを開始するための管理者権限を持つユーザアカウントを指定する必要があります。

ダウンロードサービスは、富士通Web サーバから最新の BIOS、ファームウェア、またはドライバを自動的に取得するためのものです。

2.3 一般的な使用方法

以下の手順で、PRIMERGY サーバのアップデート管理をリモートで管理できます。

1. 初期設定

以下のいずれかの方法でアップデート管理の**設定ウィザード**を開始して、アップデート管理の初期設定を行います。

- *SVOM* – 基本設定ウィザード – アップデート管理
- *SVOM* – アップデート管理 – 設定

初期設定は、主に以下の項目について指定します。

- アップデートリポジトリ
- ダウンロードサービス
- プロキシ
- メール

2. アップデートデータのインポート

設定ウィザードの最終段階で、アップデートデータはアップデートリポジトリにインポートされます。



アップデートリポジトリを最新のアップデートデータで維持するには、2つの方法があります。

- **自動保守**

ダウンロードマネージャで、ダウンロードタスクをいくつか定義します。

タスクはインターネット経由で定期的に最新のアップデートデータをチェックし、ダウンロードします。

- **手動保守**

リポジトリマネージャで、最新の ServerView Suite DVD 1 または ServerView Update DVD からアップデートデータをインポートします。

最新の Update DVD (iso-image) は、以下から手動でダウンロードできます。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>

3. 管理対象サーバを ServerView Operations Manager のサーバリストに追加します。

4. 管理対象サーバの現在のインベントリデータを、インベントリマネージャを使用して手動で収集します。

収集の後、インベントリデータとアップデートリポジトリ内のアップデートデータの比較が自動的に実行されます。結果がサーバリストのアップデートアイコン列に表示されます。

(この比較は、インベントリマネージャによる定期的なインベントリ収集の後にも実行されます)

5. 「アップデートマネージャ」の「アップデート詳細」タブで、アップデートジョブを作成します。

ユーザがアップデートジョブを明示的に作成しないと、管理対象サーバはアップデートされません。

また、Update エージェントのセキュリティ設定を定義した場合、アップデートジョブを作成する際に適切なアカウントを入力する必要があります。

6. アップデートジョブが完了した後、インベントリデータとアップデートリポジトリの比較が再度実行され、最新のアップデートデータが管理対象サーバに確実に適用されたことが確認されます。

3 アップデート手順

アップデートマネージャにより、ドライバ、ServerView エージェント、Update エージェント、ファームウェアおよび BIOS を、グローバルに、またはサーバ上でローカルにアップデートすることができます。以下に示すアップデート手順により実現します。

各サーバについて、サーバがオンラインでアップデートされるかオフラインでアップデートされるかが定義されています。管理用サーバはこの設定に従ってサーバをアップデートします。

どの特定のコンポーネントをどの手順でアップデートできるかは、ServerView Suite DVD 1 にある以下のファイルに説明されています。

Windows:

SVSSoftware¥Software¥ServerView¥Windows¥GlobalFlash¥Agents¥OnlineFlash¥primlist_win.htm (オンラインアップデート)

SVSSoftware¥Software¥ServerView¥Windows¥GlobalFlash¥Agents¥OfflineFlash¥primlist_win.htm (オフラインアップデート)

Linux:

SVSSoftware¥Software¥ServerView¥Linux¥GlobalFlash¥Agents¥OnlineFlash¥primlist_lx.htm (オンラインアップデート)

SVSSoftware¥Software¥ServerView¥Linux¥GlobalFlash¥Agents¥OfflineFlash¥primlist_lx.htm (オフラインアップデート)

3.1 オンラインアップデート

この手順によって、現在実行中の OS (Windows、Linux) 制御下において、コンポーネントをアップデートできます。この場合、アップデートマネージャはソフトウェアベンダーが提供するツールを使用します。

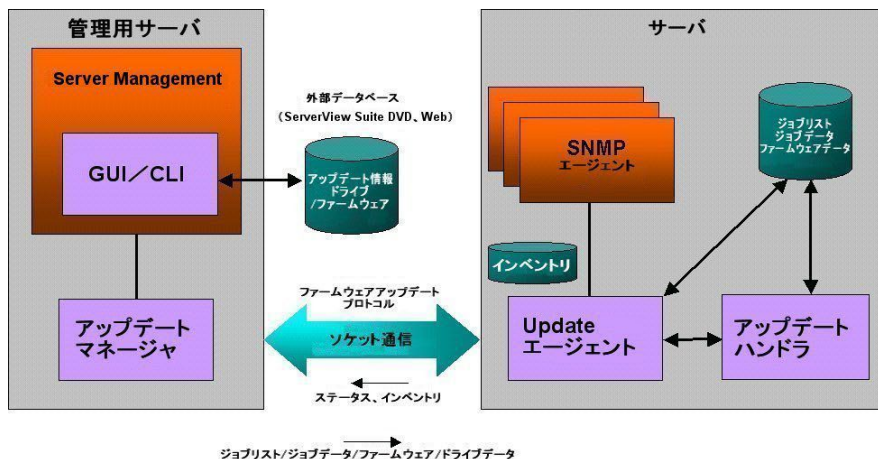


図 2: アップデート手順の図(オンライン)

1. インベントリマネージャは、サーバリスト内のすべてのサーバのインストールされたソフトウェアおよびファームウェアコンポーネントの情報を収集し、この情報をデータベースに格納してインベントリを作成します。インベントリマネージャは、インベントリをオンデマンドまたは定期的に作成できます。
2. アップデートマネージャは、データベースに格納されたインベントリをリポジトリ内のソフトウェアおよびファームウェアコンポーネントと比較します。この比較で検出された差異に基づいて、アップデートが必要なコンポーネントとサーバのリストを作成します。
3. グラフィカルユーザインターフェースからアップデートする場合は、アップデート対象のコンポーネントを選択します。CLIを使用している場合は、-U オプションを使用してアップデートデータの取得元のアップデートリポジトリを指定します。
4. アップデートマネージャは必要なアップデートデータをアップデートリポジトリから取得し、アップデートジョブを定義します。実際のアップデートデー

タの他に、オンラインアップデートジョブにはそれぞれ、対象のコンポーネントのアップデートツールと、必要なパラメータを持つジョブ制御ファイルが含まれています。

5. アップデートジョブは Update エージェントに転送されます(ソケット通信)。
6. Update エージェントはアップデートハンドラ(エージェントの補助ルーチン)を開始し、これによって対象のコンポーネントに必要なパラメータでアップデートツールが開始されます。
7. アップデートツールから返される値はハンドラによって評価され、エージェントに返されます。
8. Update エージェントはジョブステータス情報をアップデートします。
9. アップデートマネージャは現在のステータスとエラー情報を取得して、グラフィカルユーザインターフェースに表示するか、または CLI を使用している場合は結果ファイルに格納します。
10. 要求固有のパラメータによっては、アップデート動作の終了時に管理用サーバがサーバをリブートして、アップデートしたコンポーネントを有効にする必要があります。

アップデートにコマンドラインインターフェースを使用する場合、リブートは自動的に実行されません。コマンド `GFCLI -R` で明示的に実行する必要があります。

アップデート手順が完了します。

3.2 オフラインアップデート

サーバの一部のコンポーネントはオンラインではアップデートできません。つまり、このハードウェアに対して使用できる Windows または Linux ツールはありません。古い Windows サーバの場合がこれに当てはまります。このようなコンポーネントは、DOS ツールを使用してオフラインでアップデートされます。この場合、アップデートマネージャも DOS 環境の有効化と無効化を制御し、必要なリブートを実行します(DOS への切り替え、Windows または Linux への復帰)。

オフラインアップデートとして、2 つの手順があります。

- サーバのサービスパーティションを使用するアップデート
- PXE(Preboot eXecution Environment) サーバを使用するアップデート

3.2.1 サービスパーティションによるアップデート

ネットワーク内の PRIMERGY サーバのアップデートは、中央管理サーバで制御されます。OS がインストールされるときに DOS サービスパーティションが個々のサーバに設定され、実際のアップデート手順はここで実行されます。

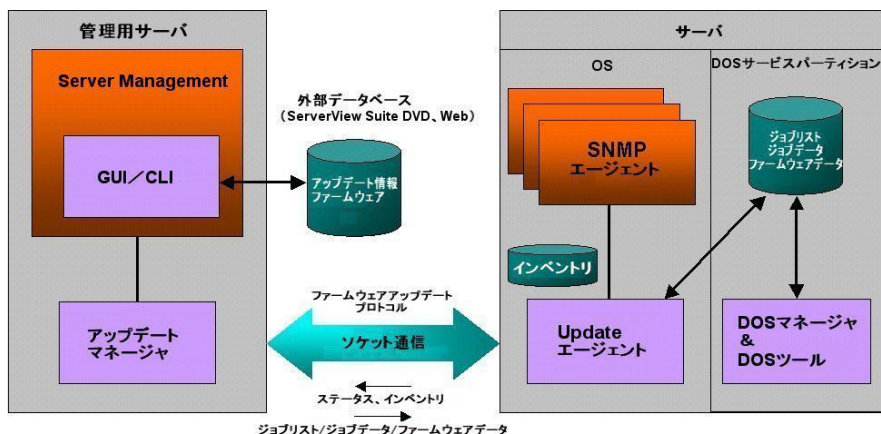


図 3: アップデート手順の図(サービスパーティションによるオフライン)

1. インベントリマネージャは、サーバリスト内のすべてのサーバのインストールされたソフトウェアおよびファームウェアコンポーネントの情報を収集し、この情報をデータベースに格納してインベントリを作成します。インベントリマネージャは、インベントリをオンデマンドまたは定期的に作成できます。
2. アップデートマネージャは、データベースに格納されたインベントリをリポジトリ内のソフトウェアおよびファームウェアコンポーネントと比較します。この比較で検出された差異に基づいて、アップデートが必要なコンポーネントとサーバのリストを作成します。
3. グラフィカルユーザインターフェースからアップデートする場合は、アップデート対象のコンポーネントを選択します。CLIを使用している場合は、-U オプションを使用してアップデートデータの取得元のアップデートリポジトリを指定します。
4. アップデートマネージャは必要なアップデートデータをアップデートリポジトリから取得し、アップデートジョブを定義します。

5. アップデートジョブとアップデートデータは管理対象サーバに転送されます(アップデートマネージャと管理対象サーバの Update エージェント間の通信)。
 -  アップデートジョブにはオンラインジョブとオフラインジョブの両方を含めることができ、既存のオンラインジョブはジョブキューの先頭に配置されるため、先に処理されます。
6. 存在するオンラインジョブが処理された後、Update エージェントはオフラインジョブとアップデートデータをサービスパーティションに配置して、サーバを DOS にリブートします。システムがブートされると、アップデートマネージャはサービスパーティションで動作して以下のタスクを実行します。
 - 実際のアップデートに対する特定の DOS ツールを呼び出して、アップデートジョブを実行します。ジョブが実行された後、リブートが必要となります。
 - アップデート結果を確認して、サービスパーティションに保存します。
 - 元の OS にリブートします。
7. Update エージェントはオフラインジョブのアップデート結果をサービスパーティションから取得し、OS の復帰後にジョブステータス情報をアップデートします。
8. アップデートマネージャは現在のステータスとエラー情報を取得して、グラフィカルユーザインターフェースに表示するか、または CLI を使用している場合は結果ファイルに格納します。

アップデート手順が完了します。

3.2.2 PXE サーバによるアップデート

ネットワーク内のサーバのアップデートは、中央管理用サーバで制御されます。PXE サーバ(通常は、アップデート対象のすべてのサーバに対して PXE サーバは 1 台)は管理対象サーバに割り当てられ、サーバはこれを使用して PXE ブートを実行します。

サーバの BIOS セットアップで、PXE ブートを有効化する必要があります。ブートシーケンスでは、ハードディスクブートの前に指定する必要があります。サーバのブートイメージが PXE サービスで有効化されている場合のみ、サーバはこのイメージを次回リブート時に自動的にブートします。それ以外の場合は、ブートシーケンスの次のデバイスからブートされます。

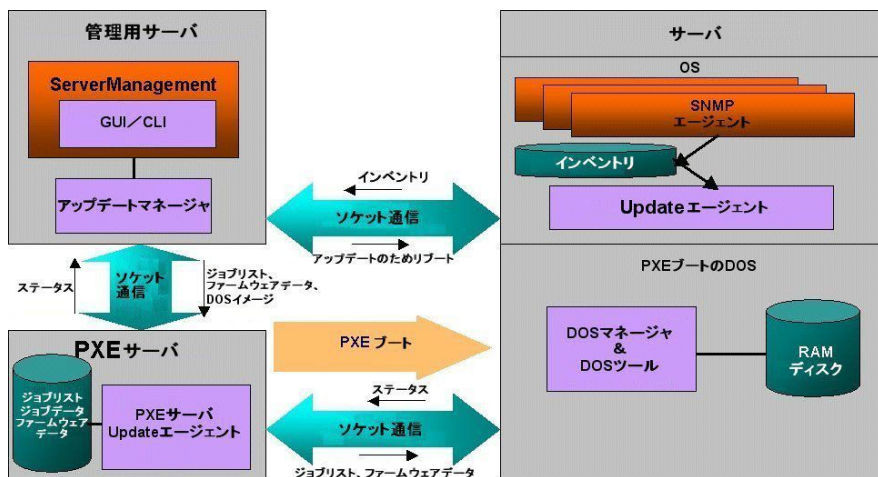


図 4: アップデート手順の図(PXE サーバによるオフライン)

1. インベントリマネージャは、サーバリスト内のすべてのサーバのインストールされたソフトウェアおよびファームウェアコンポーネントの情報を収集し、この情報をデータベースに格納してインベントリを作成します。インベントリマネージャは、インベントリをオンデマンドまたは定期的に作成できます。
2. アップデートマネージャは、データベースに格納されたインベントリをリポジトリ内のソフトウェアおよびファームウェアコンポーネントと比較します。この比較で検出された差異に基づいて、アップデートが必要なコンポーネントとサーバのリストを作成します。

さらに、アップデートマネージャは、サーバを PXE ブート手順を使用してアップデートする必要があるという情報と、PXE サーバの名前および IP アドレスを、Update エージェントから受信します。

3. グラフィカルユーザインターフェースからアップデートする場合は、アップデート対象のコンポーネントを選択します。CLI を使用している場合は、`-U` オプションを使用してアップデートデータの取得元のアップデートリポジトリを指定します。
4. アップデートマネージャは必要なアップデートデータをアップデートリポジトリから取得し、アップデートジョブを定義します。
5. オフラインジョブとアップデートデータは PXE サーバに転送されます(アップデートマネージャと PXE サーバの Update エージェント間の通信)。



アップデートジョブにはオンラインジョブとオフラインジョブの両方を含めることができ、既存のオンラインジョブはサーバに直接転送されて先に処理されます。

6. 存在するオンラインジョブが処理された後、Update エージェントは現在のサーバのブートイメージを有効にしてサーバをリブートします。
7. サーバはネットワーク(PXE) 経由でブートされます。標準 DOS イメージがブートされて RAM ディスクを構成し、PXE サーバとの通信を開始します。最初のアクションは、アップデート DOS マネージャを RAM ディスクにロードして開始することです。アップデート DOS マネージャは PXE サーバへの通信を引き継ぎます。

8. アップデート DOS マネージャは以下のタスクを実行します。
 - PXE サーバ上の Update エージェントと通信し、ジョブリストを処理し、ファームウェアと BIOS をロードし、返された情報(RAM ディスクと PXE サーバのサーバ固有の領域との比較)を保存します。
 - 実際のアップデートに対する特定の DOS ツールを呼び出して、アップデートジョブを実行します。ジョブが実行された後、リブートが必要となります。
 - アップデート結果を確認して PXE サーバに転送します。
 - PXE サーバ上の Update エージェントへアップデート手順の終了メッセージを送信します。
9. PXE サーバの Update エージェントは DOS マネージャからアップデート手順の終了メッセージを受信し、該当するサーバのブートイメージを無効にし、元の OS にリブートするよう DOS マネージャに通知し、ジョブステータス情報をアップデートします。
10. アップデートマネージャは現在のステータスとエラー情報を取得して、グラフィカルユーザインターフェースに表示するか、または CLI を使用している場合は結果ファイルに格納します。

アップデート手順が完了します。

3.3 TFTP サーバによるアップデート

Windows、Linux、または DOS で使用できるアップデート ツールではアップデートできない、またはアップデートが非常に困難な PRIMERGY システムコンポーネントのアップデートに、この手順を使用します。また、これらの 3 種類の OS のいずれも実行されていない自律的ハードウェアシステムのアップデートにも使用されます。これらのシステムコンポーネントおよびハードウェアシステムは、**TFTP サーバ**タイプの Update エージェントを使用してアップデートされます。

システムコンポーネントとハードウェアシステムは、TFTP サーバからイメージを取得できることと、自身をアップデートできることが必要です。以下の手段を提供するインターフェースを持つ必要があります。

- 構成データを読み取れる(バージョン、名前、MAC アドレスなど)。
- 必須パラメータ(IP アドレス、パス名、TFTP サーバ上のイメージ名)を設定できる。
- アップデート手順を開始できる。

このために、以下のコントロールインターフェースがアップデートマネージャに現在実装されています。

SNMP(読み取り)とHTTP(書き込み)

ハードウェアシステムのアップデートの場合(ブレードサーバ BX600 および BX900 のマネジメントブレードなど)

-  ブレードサーバの場合、2 つの代替マネジメントブレード(マスターとスレーブ)が動作していることがあり、アップデート用には共通の 1 つのアップデート IP アドレスがあります。この場合、アップデート手順が実施されると、両方のマネジメントブレードは常にこのアップデート IP アドレスを使用してアップデートされます。

3.3.1 ハードウェアシステムのアップデート

マネジメントブレードを例にしたハードウェアシステムのアップデート

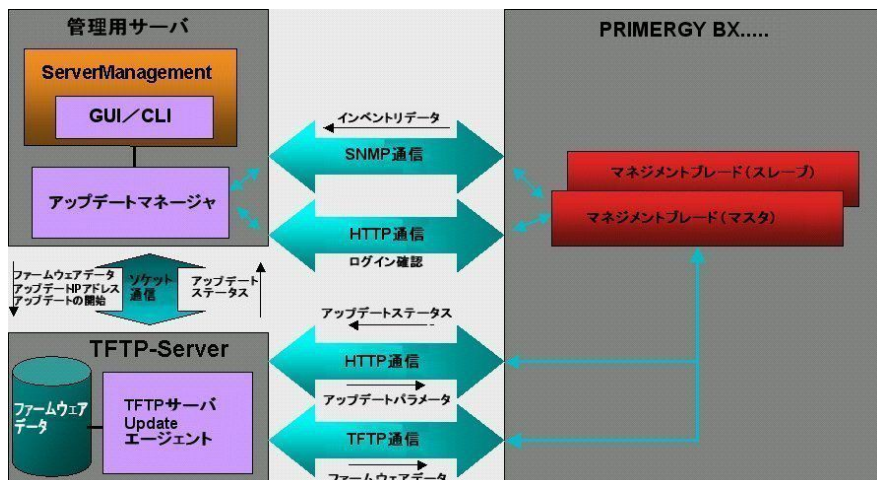


図 5: アップデート手順の図(TFTP サーバによるマネジメントブレード)

1. 管理サーバのインベントリマネージャは SNMP コマンドを使用して、必要なインベントリデータをマネジメントブレードから取得します。グラフィカルユーザインターフェースを使用してアップデートしている場合、データはグラフィカルユーザインターフェースに表示されます。
2. アップデートマネージャは、データベースに格納されたインベントリをリポジトリ内のソフトウェアおよびファームウェアコンポーネントと比較します。この比較で検出された差異に基づいて、アップデートが必要なコンポーネントとサーバのリストを作成します。
3. HTTP のログインが確認されます。これは HTTP コマンドを使用してマネジメントブレードで直接実行されます。
4. マネジメントブレードのオブジェクト固有のアップデートジョブは、アップデートマネージャによって生成されます。

5. アップデートマネージャはアップデートイメージとアップデートジョブ(アップデートハンドラとアップデートツールを含む)を TFTP サーバに転送し、アップデートジョブを開始します(アップデートマネージャと TFTP サーバ上の Update エージェントとのソケット通信)。
6. Update エージェントはアップデートハンドラを開始し、これによって指定されたジョブ制御ファイルから必要なパラメータでアップデートツールが開始されます。
7. アップデートツールはマネジメントブレードと通信し、必要なアップデートパラメータを HTTP コマンドを使用して転送します。
8. これにより、TFTP サーバからのイメージのダウンロードとアップデート手順は、マネジメントブレードによって完全に制御されます(TFTP 通信)。
9. 対象のコンポーネントから返される値は、アップデートハンドラ経由でアップデートツールから Update エージェントに、逆方向に転送されます。
10. Update エージェントはジョブステータス情報をアップデートします。
11. アップデートマネージャは現在のステータスとエラー情報を取得して、グラフィカルユーザインターフェースに表示するか、または CLI を使用している場合は結果ファイルに格納します。

アップデート手順が完了します。

3.4 アップデートデータへのアクセス

管理対象サーバをアップデートするには、アップデートマネージャに対応するアップデートデータが必要になります。このデータは、アップデートリポジトリの以下のサブディレクトリに格納されています。

<i>Agent-Win</i>	<i>Agent-Lx</i>	<i>BladeSystem</i>
<i>LanController</i>	<i>ManagementController</i>	<i>PrimSupportPack-Win</i>
<i>RemoteServiceBord</i>	<i>ScsiController</i>	<i>SystemBoard</i>
<i>Tools</i>		

以下のオプションを使用して、このデータにアクセスできます。

- ServerView Suite DVD 1 または Update DVD に格納されている、アップデートマネージャ用の「**Firmware**」ディレクトリ。
- 富士通Web サーバ。ここから、アップデートデータを管理サーバの任意のドライブに作成したアップデートマネージャディレクトリに保存できます。

このディレクトリは、ダウンロードマネージャを使用して、富士通Web サーバから定期的にアップデートすることができます。

4 Update エージェントのインストール

4.1 管理対象サーバへのインストール

4.1.1 インストールの要件

- 管理対象サーバには該当するエージェント(*ServerView SNMP Agents for MS Windows* または *ServerView SNMP Agents for Linux*)をインストールしておかないと、Update エージェントをインストールできません。エージェントは *ServerView Suite DVD 1* を使用してインストールできます。詳細については、*ServerView Installation Guide* を参照してください。
- 使用する必要があるアップデート手順は、サーバのタイプによって決まります。通常、アップデートはオンラインで実行されます。オンラインアップデートツールがない旧式のサーバの場合のみ、サービスパーティションまたは PXE ブートを使用してオフラインでアップデートが実行されます。
- オンラインアップデートの場合、機能している LAN 接続のみが必要です。
- サービスパーティションによるアップデートでは、OS をインストールしたときに管理対象サーバ上にサービスパーティションが設定してある必要があります(「PRIMERGY ServerView Suite – ServerStart」を参照)。サービスパーティションを後で作成することはできません。
 異なるシステムを起動するためにサーバ上で複数のディスクが使用され、選択されたブートディスクに Linux とサービスパーティションが格納されている場合は、その他のディスク上にサービスパーティションを設定しないでください。Linux システムの Update エージェントは、どのディスクがブートディスクであるか検出できず、誤って正しくないサービスパーティション(その他のディスクの中の 1 つ)を検出します。このため、以降のアップデート処理は失敗します。Windows を起動した場合、この問題は発生しません。
- 管理対象サーバで、ポート 3171 と 3172 をロック解除する必要があります。そうしないと、管理対象サーバにインストールされた Update エージェントを特定できず、サーバをアップデートできません。

4.1.2 詳細情報

- PXE サーバによるアップデートの場合、Update エージェントを管理対象サーバにインストールする必要があるほか、PXE サーバタイプの **GlobalFlash エージェント V4.71** を PXE サーバにインストールする必要があります。
- TFTP サーバによるアップデートの場合、PXE サーバタイプの **GlobalFlash エージェント V4.71** または **Update エージェント V5.00** を TFTP サーバにインストールする必要があります。

TFTP サーバでアップデートされるコンポーネントについて、以下の違いがあります。

Windows、Linux、または DOS OS システムが実行されていない自律的ハードウェアシステム(マネジメントブレードなど) の場合、管理対象サーバに Update エージェントをインストールする必要はありません。

 マネジメントブレードは常に TFTP サーバによってアップデートされます。

- PRIMEQUEST マネジメントブレードでは、管理用サーバは TFTP サーバとして機能し、ここに **Update エージェント V4.92** または **GlobalFlash エージェント V4.71** をインストールする必要があります。
- サポートされるサーバや各種アップデート手順によってアップデートされるシステムコンポーネントについては、ServerView Suite DVD 1 の *ServerView Suite – ServerView(Supported PRIMERGYs および Info 列)* を参照してください。

Update エージェントのインストール中、それぞれのサーバに適したアップデート手順が自動的に選択されます。

-  通常、管理対象サーバには **Update エージェント V5.00** が必要です。オンラインアップデート手順を使用できず、**Update エージェント V5.00** をインストールできない旧式のシステムの場合のみ、以前のバージョンの **GlobalFlash エージェント V4.71** をインストールする必要があります。

4.1.3 Update エージェント V5.00 のインストール

4.1.3.1 Windows でのインストール

以下の手順を使用してインストールできます。

- メニュー形式のインストール
- コマンドラインインターフェースによるインストール

メニュー形式のインストール

Update エージェントバージョン 4.80 以上は、サーバがオンラインでアップデート可能な場合、つまりファームウェアをアップデートするオンラインツールがある場合のみ、インストールされます。それ以前のシステムでは、GlobalFlash エージェント 4.71 が必要です。

FTASetup.exe ファイルを使用してインストールを開始します。このファイルは、ServerView Suite DVD 1 の *Firmware/Agent-Win/SV-Update-Agent* にあります。

以下のようにしてメニュー形式のインストールを開始します。

1. *FTASetup.exe* ファイルをダブルクリックします。
2. ライセンス条件を確認します。
3. セキュリティ設定のパラメータを定義します。



図 6: セキュリティ設定

セキュリティ設定

アカウントチェック

サーバにアクセスするときにアクセス権限を確認するかどうかを指定します。このオプションを有効にする場合、「アップデート用ユーザグループ」も指定する必要があります。

アップデート用ユーザグループ

ローカルユーザグループの名前。

このグループ内のすべてのユーザは、アップデート手順を実行する権限があります。ユーザグループ「GFUSER」が事前設定されています。GFUSERグループを使用するには、Windows でこのグループを設定する必要があります。

ただし、別のユーザグループを使用することもできます。



アップデートインストールの場合、デフォルト値が既存の設定値に割り当てられます。

コマンドラインインターフェースによるインストール

Update エージェントは以下のコマンドを使用してコマンドレベルでインストールできます。

```
FTAsetup -noaccountcheck {0|1}  
        [-flashusergroup <ユーザグループ>]
```

```
FTAsetup -GFAU
```

オプションの意味は以下のとおりです。

```
-noaccountcheck { 0 |1}
```

このオプションを使用して、パスワードクエリを有効(0)または無効(1)にします。

```
-flashusergroup <ユーザグループ>
```

パスワードクエリを有効にした場合、このオプションを使用してローカルユーザグループの名前を指定できます。このユーザグループ内のすべてのユーザは、アップデート手順を実行する権限があります。このオプションを省略すると、*GFUSER*がデフォルトになります。

```
-GFAU
```

このオプションを使用して、エージェントのアップデートインストールを開始します。まったく新規のインストール(このオプションなし)とは異なり、Update エージェントに設定済みのパラメータは維持されます。

4.1.3.2 Linux でのインストール

Update エージェントバージョン 4.80 以上は、サーバがオンラインでアップデート可能な場合、つまりファームウェアをアップデートするオンラインツールがある場合のみ、インストールされます。それ以前のシステムでは、GlobalFlash エージェント 4.71 が必要です。

インストールは、インストールパッケージ *SMAWgfa*-<リリース>-<バージョン>.rpm を使用して開始します。このパッケージは、ServerView Suite DVD 1 の *Firmware/Agent-Lx/SV-Update-Agent* にあります。

Update エージェントは以下のコマンドを使用してコマンドレベルでインストールできます。

```
rpm {-i | -U --nopreun --nopostun}  
      SMAWgfa-<リリース>-<バージョン>.rpm
```

オプションの意味は以下のとおりです。

-i

このオプションを使用して、初期インストールを開始します。

-U

このオプションを使用して、アップデートインストールを開始します。

--nopreun --nopostun (アップデートインストールの場合のみ)

これらのオプションは常に一緒に指定されますが、指定すると、アップデートインストールが実行されたときにアンインストールルーチンが実行されません。Update エージェントで設定済みのパラメータは維持されます。

コマンドを実行した後、パラメータには */opt/SMAW/SMAWgfa/cfg/LinuxFwuAgent.cfg* ファイルのデフォルト値が割り当てられ、これらを要件に応じて変更できます。

FlashUserGroup=<ユーザグループ>

ユーザの `/etc/passwd` に入力された、プライマリユーザグループの名前。このグループ内のすべてのユーザは、アップデート手順を実行する権限があります(デフォルト `GFUSER`)。

存在しない場合は、ユーザ `globalflash` とパスワード `globalflash` の `GFUSER` グループがインストール中に自動的に設定されます。

このパラメータは、`NoAccountCheck = 0` の場合にのみ評価されます。

NoAccountCheck=<n>

n = 0(パスワードクエリが有効、デフォルト値)

n = 1(パスワードクエリが無効)

TraceFile=<ファイル>

TraceLevel > 0 のときにエージェントのアクションが記録されるファイル。

TraceLevel=<n>

n = 0(トレースなし)

n = 2(エラーのトレース)

n = 3(コマンドのトレース)

n = 5(詳細トレース)

パラメータの変更は、`/etc/init.d/globalflash restart` コマンドが実行された後に反映されます。

アンインストールは `rpm -e SMAWgfa` コマンドを使用して実行されます。

4.2 PXE/TFTP サーバへのインストール

4.2.1 要件

タイプ PXE サーバの Update エージェントを PXE/TFTP サーバとして機能させるシステムにインストールする必要があります。

PXE/TFTP サーバの Update エージェントのインストールについての要件は、以下の富士通 PXE サーバパッケージのいずれかを PXE/TFTP サーバにインストールしておくことです。

- *PXE Service for GlobalFlash*



このパッケージは、アップデートマネージャが PXE サービスを使用する場合にのみ使用してください。

- *ServerView Installation Manager – Remote Installation*
- *RemoteDeploy*

4.2.2 Windows での GlobalFlash エージェント 4.71 のインストール

FTAsetup.exe を起動してライセンス条件を確認した後、PXE サーバタイプのエージェントを選択する必要があります。

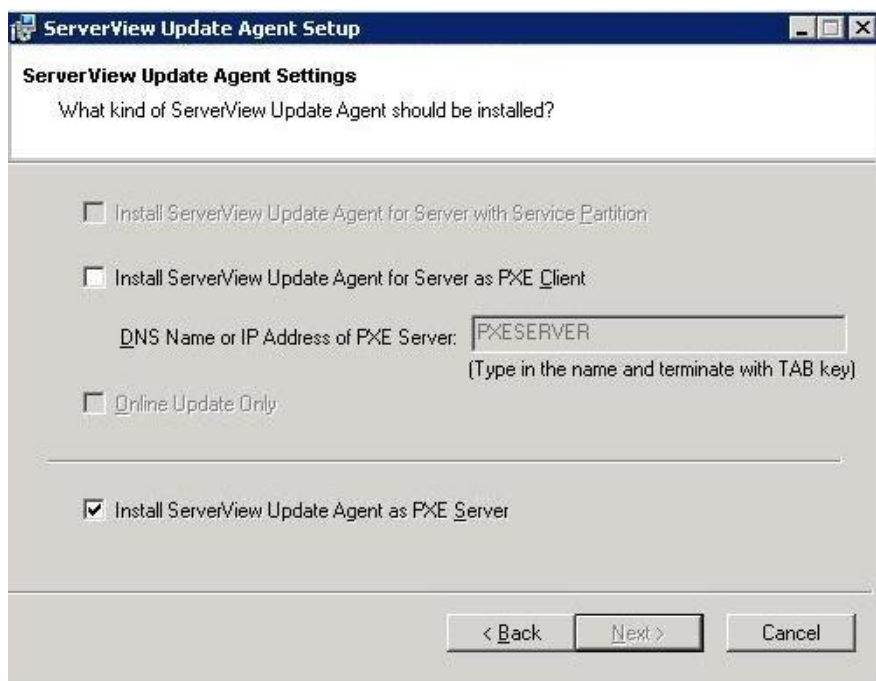


図 7: Update エージェントタイプの選択



CLI によるインストールは現在実行できません。

4.2.3 Linux でのインストール

Linux システムを PXE サーバとして使用することは、現在サポートされていません。Linux クライアントを PXE サーバでアップデートする場合、PXE サーバは Windows システムである必要があります。

クライアントの Linux TFTP サーバによるアップデートは、PRIMEQUEST マネジメントブレードのフラッシュに対してのみ実行されます。

4.3 GlobalFlash エージェント V4.71 に関する注記

4.3.1 複合インストール

システム上に異なる Update エージェントをインストールすることもできます。

このため、たとえば PRIMERGY サーバにサービスパーティションを設定して、これを通じてアップデートマネージャによるアップデートを実行できます。同時に、このサーバをサービスパーティションのないその他の PRIMERGY サーバの PXE サーバとして運用できます。このような場合、インストール中に以下のものを選択します。

- サービスパーティションを持つサーバの Update エージェント
- PXE サーバとしての Update エージェント

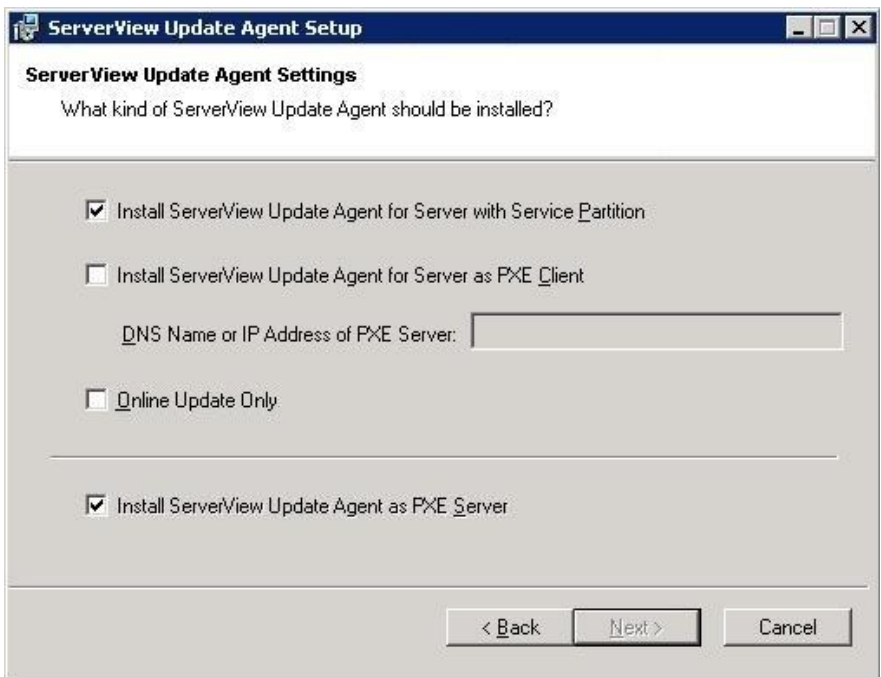


図 8: 1 つのシステム上の 2 種類の Update エージェントによる複合インストール

4.3.2 アップデート手順の変更

アップデート手順を変更する場合、対象となる 3 つのシステム(管理用サーバ、PXE/TFTP サーバ、管理対象サーバ) のすべてのジョブおよびジョブステータスが削除されていることを確認する必要があります。

管理用サーバ上の GUI または CLI も停止する必要があります。つまり、管理対象サーバ上のエージェントや PXE/TFTP サーバ上のエージェントへのオープンな接続が存在してはいけません。

さらに、管理対象サーバの BIOS のブートシーケンスを必要に応じて設定しておく必要があります(PXE ブートまたは LAN ブート)。



注意

これらの規則に従わないと、予測不可能で診断が困難なエラーが発生することがあります。

5 ユーザーインターフェース

アップデート管理のユーザーインターフェースは、個々のアプリケーションのインターフェースで構成されています。アップデート管理を最初に開いたときに、設定ウィザードが自動的に開始されます。このウィザードによって、すべてのアプリケーションのグローバル設定を指定できます。

- アップデートマネージャ
- リポジトリマネージャ
- ダウンロードマネージャ
- 設定

5.1 アップデートマネージャのメインウィンドウ

メインウィンドウには以下の要素が含まれています(上から下の順)。

- ServerView Suite ヘッダー
- ServerView Suite メニューバー
- ワークエリア。左側にツリー構造、右側にタブがあります。

5 ユーザインターフェース

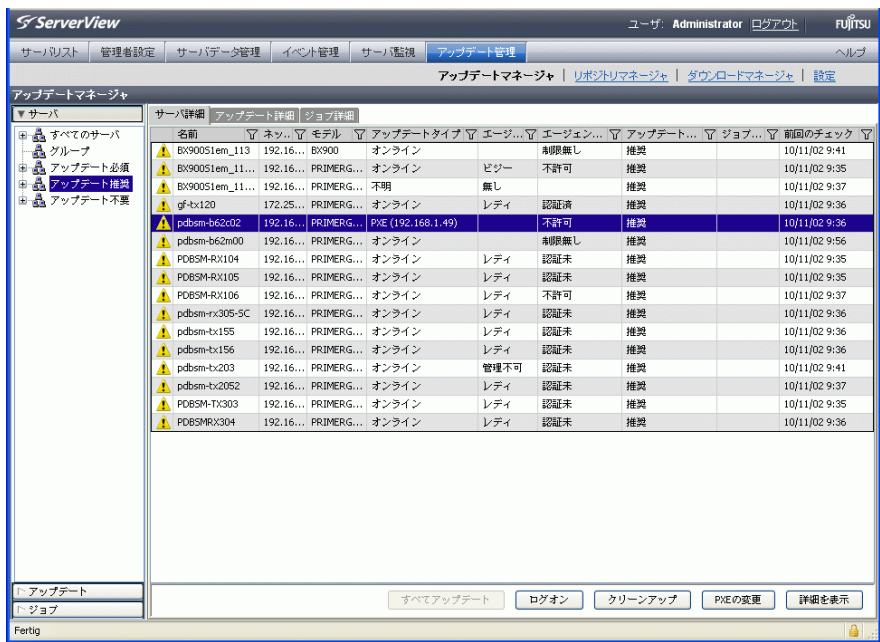


図 9: アップデートマネージャのメインウィンドウ

タブの表示方法は、ツリービューで選択したエントリによって決定されます。以下の組み合わせが可能です。

ツリービュー	ワークエリアタブ			
	サーバ詳細	アップデート詳細		ジョブ詳細
サーバ サーバの リスト	選択したサーバについての情報	ツリー構造のコンポーネントリスト(サーバリストでの選択内容による)	コンポーネントリストで選択されたコンポーネントに対するアップデート	選択したサーバについて存在するジョブの情報

ツリービュー	ワークエリアタブ			
	サーバ詳細	アップデート詳細		ジョブ詳細
アップデート アップデート のリスト	選択したコンポーネントに関連するすべてのサーバの情報	ツリー構造のサーバリスト(アップデートリストでの選択内容による)	選択したサーバに関連するすべてのコンポーネントに対するアップデート	組み合わせられません
ジョブ ジョブの リスト	選択したジョブに関連するすべてのサーバの情報	組み合わせられません		選択したジョブについての情報

5.1.1 ツリービュー

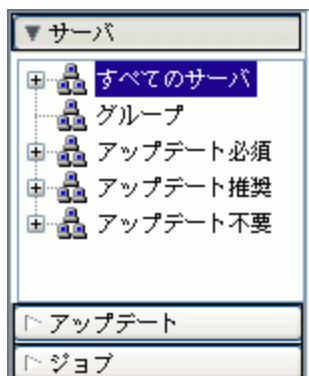


図 10: ツリービュー

ツリービューはアップデートマネージャのワークエリアの左側にあり、ドメイン内のサーバのビューを異なるグループに分割して表示します。これらのビューをオブジェクトレベルおよびコンポーネントレベルにグループ化してフィルタできます。

ツリービュー	グループ
サーバ	現在のアップデートマネージャでサポートされており、且つイベントリデータが存在するサーバ すべてのサーバグループ ドメイン内のすべてのサーバ サーバリスト アプリケーションで作成した、カスタム グループ アップデート必須 アップデートが緊急に必要なサーバ アップデート推奨 アップデートが推奨されるサーバ アップデート不要 アップデートが不要なサーバ
アップデート	サーバのソフトウェアおよびファームウェアコンポーネント すべてのコンポーネント バージョンを問わないすべてのコンポーネント アップグレード アップグレードを利用できるコンポーネント ダウングレード ダウングレードを利用できるコンポーネント インストール済アップデート サーバにインストールされたすべてのコンポーネント ユーザ定義 リポジトリマネージャで作成した、ユーザ定義のコンポーネントグループ
ジョブ	サーバのアップデートのために定義されたジョブ すべてのジョブ ステータスを問わないすべてのジョブ 待機中ジョブ 管理用サーバからサーバへのアップデート転送待ちのジョブ 進行中ジョブ 現在アップデート段階のジョブ 完了ジョブ エラーなしで実行されたジョブ (アップデート段階の後にリポートが必要な場合、このステータスはサーバがリポートされるまで表示されません) エラージョブ 失敗したジョブ

ツリービューのオブジェクトの前にあるアイコンは、ステータスを示しています。

アイコン	タブ	意味
	サーバ	サーバはエラーが発生することなく動作し、アップデートできます。
	サーバ	サーバに接続できません。
	サーバ	マネジメントブレードはエラーが発生することなく動作し、アップデートできます。
	サーバ	マネジメントブレードに接続できません。
	サーバ	サーバブレードはエラーが発生することなく動作し、アップデートできます。
	サーバ	サーバブレードに接続できません。
	アップデート	アップデートグループ
	ジョブ	完了ジョブ
	ジョブ	エラージョブ
	ジョブ	進行中ジョブ
	ジョブ	待機中ジョブ

5.1.2 「サーバ詳細」タブ

「サーバ詳細」タブには、ツリー構造で選択済みの内容に従って、サーバに関する情報が表示されます。

ツリー構造	「サーバ詳細」タブ
サーバ	選択したサーバについての情報
アップデート	選択したコンポーネントが関連するサーバ
ジョブ	選択したジョブが関連するサーバ

タブを開くには、メインウィンドウの「サーバ詳細」タブをクリックします。

5 ユーザインターフェース

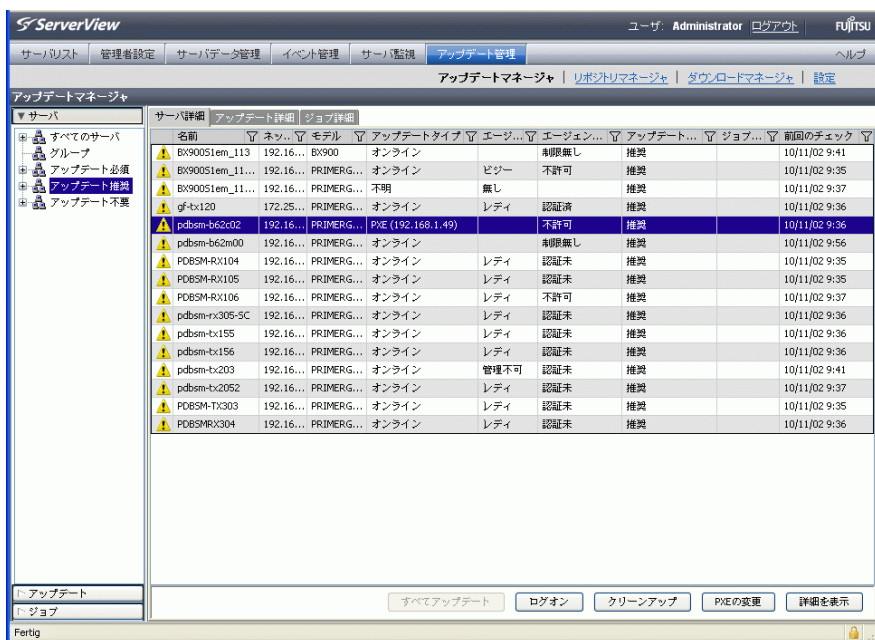


図 11:「サーバ詳細」タブ

テーブル内の列について、以下で説明します。

列	意味
アイコン	サーバの全般的なアップデートステータス - アップデートは不要です。 - アップデートが推奨されます。 - アップデートが緊急に必要です。
	「<列>のフィルタ」ダイアログボックスが開き、テーブルに表示する行を指定できます。
名前	サーバの名前
ネットワーク	サーバの IP アドレス

列	意味
モデル	サーバのモデル名
アップデートタイプ	アップデートの実行に使用される方法 オンライン アップデートは OS の実行中に 実行されます オンラインのみ アップデートは、OS が実行中にアップデートできるコンポーネントについてのみ実行されます。 Update エージェントがオフラインサーバにインストールされたときに、「オンラインのみ」オプションが選択されていました。この設定を変更するには、Update エージェントを手動でアンインストールして再インストールする必要があります。 サービスパーティション アップデートはサービスパーティションを使用して実行されます(オフラインサーバ) PXE (IP アドレス) アップデートは PXE サーバを使用して実行されます(オフラインサーバ)

列	意味
アップデートタイプ (続き)	不明 以下の理由のため、アップデートタイプを判定できませんでした。 • サーバに接続できません。 • サーバに Update エージェントがインストールされていません。 不正 • Update エージェント V4.80 以上がサポートされていないサーバタイプに手動でインストールされています(オフラインサーバなど)。 • サーバのモデル名を判定できませんでした。この場合、「モデル」列にエントリはありません。 古いエージェント GlobalFlash エージェント< V4.6x がインストールされています。 サーバに今後のアップデートを供給できるようにするには、先に GlobalFlash エージェントをアップデートする必要があります。

列	意味
エージェントステータス	サーバ上の Update エージェントのステータス
	レディ サーバはアップデート段階の準備ができています。
	エラー アップデート段階でエラーが発生しました。 Update エージェントを クリーンアップ 機能で初期化する必要があります。
	無し サーバに Update エージェントがインストールされていないか、エージェントが実行されていません。
	ビジー サーバは現在アップデート段階にあります。
	不明 エージェントステータスを判定できません。
	管理不可 現在 ServerView エージェントに SNMP を使用して接続できません。

列	意味
エージェントアクセス	サーバ上の Update エージェントのアクセスステータス
	許可 サーバへのログオンはすでに正常に完了しています。サーバにアクセスできます。
	不許可 サーバへのアクセスは現在制限されています。適切なユーザ ID とパスワードを使用してサーバにログオンする必要があります。
	制限無し サーバへのアクセスにはログオンは不要です。
	信頼 サーバにログオンの時点でアクセスできなかったため、ログオンデータは正しいものとして保存されました。
	認証済 有効な証明書がインストールされています。
	認証未 有効な証明書がインストールされていません。 管理対象サーバにシングルサインオンできません。
アップデートステータス	サーバの累積されたアップデートステータス(最も重要なステータスがそれぞれに表示されます)
	不要 アップデートは不要です。
	推奨 アップデートが推奨されます。
	必須 アップデートが緊急に必要です。

列	意味
ジョブステータス	サーバに指定された関連ジョブのステータス 完了 すべてのコンポーネントがアップデートされ、ジョブは完了しました。 待機中 ジョブは実行の待機中です(データ転送が開始される前のステータスです)。 実行中 ジョブは現在実行中です。 エラー 少なくとも1つのコンポーネントのアップデートが失敗しました。
前回のチェック	リポジトリとサーバインベントリとの前回の比較 <日付> 最後に成功したチェックの日付 失敗 前回のチェックが失敗しました。詳細を表示するには、「詳細を表示」をクリックして、表示されるダイアログボックスで「ログファイルを表示」をクリックします。 N/A このサーバに対してまだチェックが実行されていません。

ボタン

すべてアップデート

事前に選択したサーバでアップデートできるすべてのコンポーネントのリストを、自動的に設定します。ジョブ作成ウィザードが開き、ここで特定したコンポーネントのアップデートを開始します。

このボタンは、Administratorとしてログインしたときのみ有効になります。

ログオン

「ログオン」ダイアログボックスが開き、選択したサーバにログオンできます。このボタンは、テーブルで1つまたは複数のサーバを選択したときのみ有効になります。

クリーンアップ

クリーンアップ機能を使用して、サーバ上の Update エージェントを定義したステータスにリセットできます。この機能は、Update エージェントが別の管理用サーバ(不法な構成) によってアクセスされた場合、またはジョブが予期せず失敗した場合(ジョブステータス = エラー、エラーテキスト = Pending Job) などに、必要となることがあります。

PXEの変更

「PXEアドレス変更ウィザード」ダイアログボックスが開き、事前に選択したサーバに指定したPXE アドレスを変更できます。

このボタンは、アップデートの実行に PXE サーバを使用するサーバを選択した場合にのみ有効になります。

詳細を表示

「サーバ詳細」ダイアログボックスが開き、選択したサーバについての情報が表示されます。

このボタンは、サーバを選択した場合にのみ有効になります。

5.1.3 「アップデート詳細」タブ

「アップデート詳細」タブには、アップデートについての情報が表示されます。以下の要素で構成されています。

- アップデート詳細リスト(ツリー構造)
- サーバリストとアップデート詳細リストでの選択内容に一致するアップデートを含むテーブル

タブを開くには、メインウィンドウの「アップデート詳細」タブをクリックします。

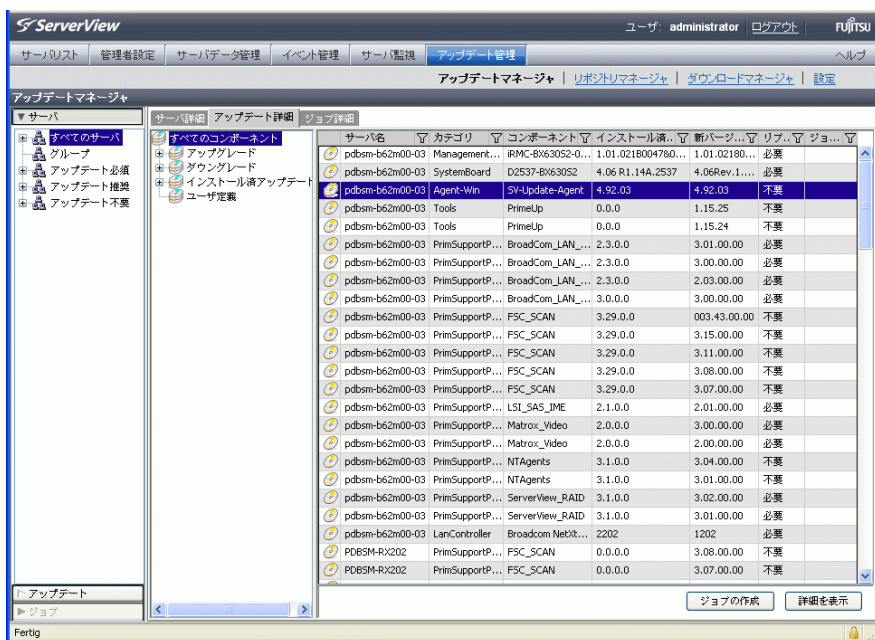


図 12: 「アップデート詳細」タブ

アップデート詳細リストの内容は、ツリー構造で選択したエントリに依存します。

ツリー構造	アップデート詳細リスト(「アップデート詳細」タブ)
サーバ	選択したサーバに属するコンポーネントが表示されます。 アップデート詳細リストで、以下のグループに従ってテーブルに表示されるコンポーネントをフィルタできます。 ● すべてのコンポーネント:サーバリストで選択したサーバに属するすべてのコンポーネントを表示します。 ● アップグレード:サーバリストで選択したサーバに関連付けられたアップグレードを表示します。 ● ダウングレード:サーバリストで選択したサーバのすべてのダウングレードを表示します。 ● インストール済アップデート:サーバリストで選択したサーバにインストールされたアップデートを表示します。 ● ユーザ定義:サーバリストで選択したサーバに対するユーザ固有のアップデートグループを表示します。  一般に、基本のリポジトリに格納されたインストール済みのアップデートバージョンのみが、テーブルに表示されます。 各アップグレードでは、最新バージョンのみがテーブルに表示され、ダウングレードの場合は、リポジトリで見つかった次に古いバージョンがテーブルに表示されます。 ただし、アップデートのバージョンは後でジョブ作成ウィザードを実行するときに選択できます。
アップデート	選択したコンポーネントを含むサーバを表示します。
ジョブ	組み合わせられません

テーブル内の列について、以下で説明します。

列	意味
アイコン	アップデートの重要性  アップデートが推奨されます。  アップデートが緊急に必要です。
	「<列>のフィルタ」ダイアログボックスが開き、テーブルに表示する行を指定できます。
サーバ名	サーバの名前
カテゴリ	コンポーネントが属するグループ。
コンポーネント	コンポーネント名
インストール済バージョン	インストールされたアップデートのバージョン
新バージョン	インストールされたバージョンを置換するアップデートバージョン
リブート	コンポーネントがアップデートされた後にサーバをリブートするかどうかを示します(はい/いいえ)
ジョブ名	アップデートがすでにジョブに割り当てられている場合、このジョブの名前がここに表示されます。

ボタン

ジョブの作成

ジョブ作成ウィザードが開き、選択したアップデートにジョブを作成できます。

詳細を表示

「アップデート詳細」ダイアログボックスを開き、選択したアップデートの詳細情報を表示します。

5.1.4 「ジョブ詳細」タブ

「ジョブ詳細」タブには、ツリー構造で選択済みの内容に従って、ジョブに関する情報が表示されます。

ツリー構造	「ジョブ詳細」タブ
サーバ	選択したサーバのジョブ情報
アップデート	組み合わせられません
ジョブ	選択したジョブについての情報

タブを開くには、メインウィンドウの「ジョブ詳細」タブをクリックします。

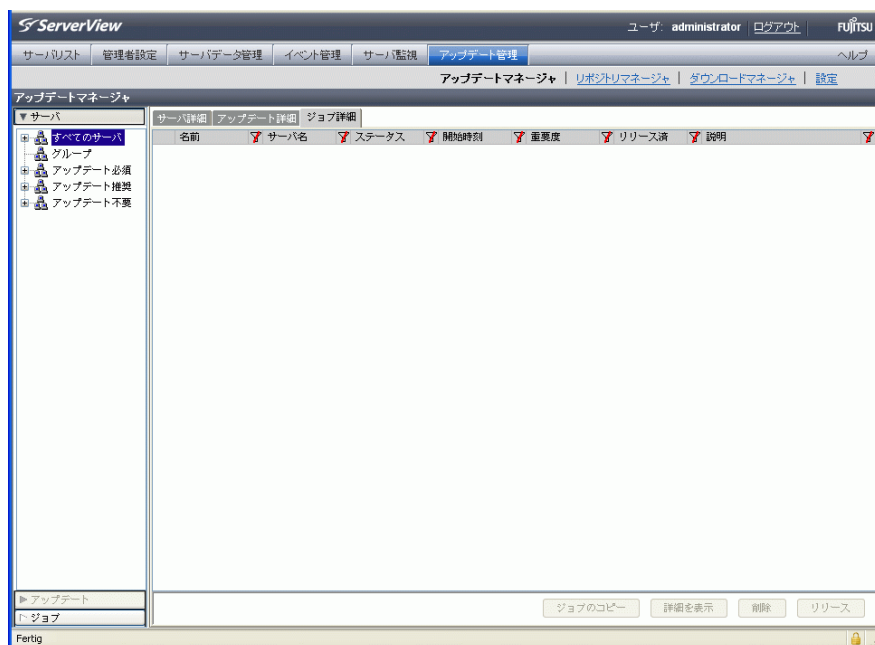


図 13: 「ジョブ詳細」タブ

テーブル内の列について、以下で説明します。

列	意味
アイコン	現在のジョブのステータス  すべてのコンポーネントがアップデートされ、ジョブは完了しました。  ジョブは実行の待機中です(データ転送が開始される前のステータスです)。  ジョブは現在実行中です。  少なくとも 1 つのコンポーネントのアップデートが失敗したか、ステータスを取得できませんでした。
	「<列>のフィルタ」ダイアログボックスが開き、テーブルに表示する行を指定できます。
名前	ジョブの名前
サーバ名	サーバの名前

列	意味
ステータス	現在のジョブステータス 待機中 ジョブは実行の待機中です(データ転送が開始される前のステータスです)。 転送中 ジョブは現在転送中です。 転送完了 ジョブは正常に転送され、アップデート手順の開始を待機しています。 アップデート中 ジョブは現在アップデート段階にあります。 アップデート完了 アップデートがサーバで正常に実行されました。 リスキャン中 サーバのインベントリが再確認されています。 リブート中 サーバは現在リブート中です。 完了 すべてのコンポーネントがアップデートされ、ジョブは完了しました。 エラー 少なくとも1つのコンポーネントのアップデートが失敗しました。
開始時刻	アップデートのフラッシュが開始される時刻
重要度	ジョブに含まれるアップデートの累積されたステータス(最も重要なステータスがそれぞれに表示されます) 推奨 アップデートが推奨されます。 必須 アップデートが緊急に必要です。
リリース済	ジョブがリリースされたか(はい)、されていないか(いいえ)を示します。
説明	ジョブの説明(コメント)

ボタン

ジョブのコピー

ジョブコピーウィザードを開き、選択したジョブをその他のサーバにコピーできます。

詳細を表示

「**ジョブ詳細**」ダイアログボックスを開き、選択したジョブの詳細情報を表示します。

削除

選択したジョブを削除します。削除を実行する前に、確認のプロンプトが表示されます。

リリース

選択したジョブをリリースして、その他の PRIMERGY サーバで実行できるようにします(たとえば、テストホスト上でエラーなしで処理された後など)。ジョブは「**リリース済**」として示されます。

5.1.5 ダイアログボックスとウィザード

アップデートマネージャには、以下のダイアログボックスとウィザードがあります。

「サーバ詳細」タブ：

- 「ログオン」ダイアログボックス
- クリーンアップウィザード
- PXEアドレス変更ウィザード
(「IPアドレスの変更」ダイアログボックスを含む)
- 「サーバ詳細」ダイアログボックス

「アップデート詳細」タブ：

- ジョブ作成ウィザード
- 「アップデート詳細」ダイアログボックス
 - 「リリースノート」ダイアログボックス
 - 「PSP詳細」ダイアログボックス

「ジョブ詳細」タブ：

- ジョブコピーウィザード
- 「ジョブ詳細」ダイアログボックス

5.1.5.1 「ログオン」ダイアログボックス

「ログオン」ダイアログボックスでは、ユーザ認証が必要なすべてのサーバにログオンできます(エージェントアクセス = 不許可)。

ダイアログボックスを開くには、「サーバ詳細」タブでサーバを選択して「ログオン」をクリックします。

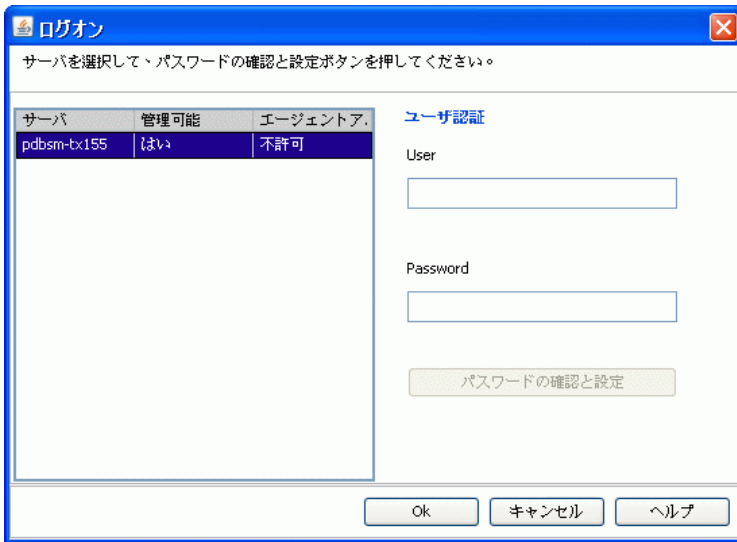


図 14:「ログイン」ダイアログボックス

ダイアログボックスのテーブルには、「**サーバ詳細**」タブで選択したすべてのサーバが表示されます。アクセスステータスが「**不許可**」のすべてのサーバが自動的に選択されます。



アクセスステータスが「**不許可**」以外のサーバを選択した場合、アップデートマネージャはこれらのサーバへのログインの試行を無視します。

列	意味
サーバ	サーバの名前
管理可能	サーバの可用性

列	意味
エージェント アクセス	サーバ上の Update エージェントのアクセスステータス
	許可 サーバへのログオンはすでに正常に完了しています。サーバにアクセスできます。
	不許可 サーバへのアクセスは現在制限されています。適切なユーザ ID とパスワードを使用してサーバにログオンする必要があります。
	制限無し サーバへのアクセスにはログオンは不要です。
	信頼 サーバにログオンの時点でアクセスできなかったため、ログオンデータは正しいものとして保存されました。
	認証済 有効な証明書がインストールされています。
	認証未 有効な証明書がインストールされていません。 管理対象サーバにシングルサインオンできません。

ユーザ認証

ユーザ ID とパスワード。

パスワードの確認と設定

ログオンデータを確認し、選択したサーバへのアクセス権を設定します(**管理可能** = はいの場合)。パスワードは現在のセッションについて有効です。

サーバにアクセスできない場合、ログオンデータは正しいものとして保存されます(**管理可能** = いいえの場合)。

5.1.5.2 クリーンアップウィザード

このウィザードを使用して、エージェントのステータスが「エラー」の場合にサーバの Update エージェントをクリーンアップします。

Update エージェントのリセットは、ジョブが**ジョブステータス = エラー**で停止してエラーテキストにメッセージ「**Pending Jobs**」が含まれている場合に必要となります。ジョブのエラーテキストは、「**ジョブ詳細**」タブを選択して「**ジョブ詳細**」ダイアログを開いて表示できます。「**Pending Jobs**」が返されるのは、Update エージェントが既に他の管理用サーバからのジョブ、またはCLI 経由で実行されたジョブの処理を行っている場合です。

クリーンアップウィザードは複数のダイアログボックスで構成され、個々のステップのガイドが表示されます。すべての必要なステップは、左側にツリー構造で表示されます。

クリーンアップウィザードを開くには、「**サーバ詳細**」タブでサーバを選択して、「**クリーンアップ**」をクリックします。

「ログオン」ステップ(クリーンアップウィザード)

「**ログオン**」はウィザードの最初のステップです。ここで、ユーザ認証が必要なすべてのサーバにログオンします(**エージェントアクセス = 不許可**)。

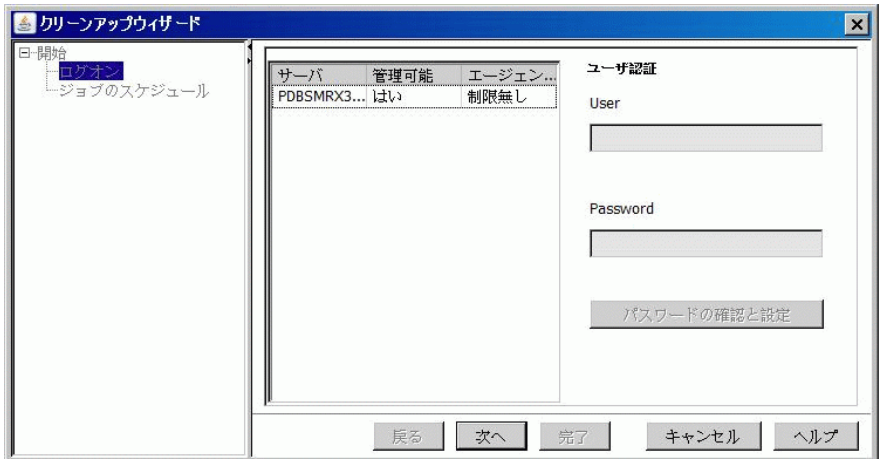


図 15: 「ログオン」ステップ

テーブルには、「サーバ詳細」タブで選択したすべてのサーバが表示されます。アクセスステータスが「不許可」のすべてのサーバが自動的に選択されます。



アクセスステータスが「不許可」以外のサーバを選択した場合、アップデートマネージャはこれらのサーバへのログオンの試行を無視します。

列	意味
サーバ	サーバの名前
管理可能	サーバの可用性
エージェント アクセス	サーバ上の Update エージェントのアクセスステータス 許可 サーバへのログオンはすでに正常に完了しています。サーバにアクセスできます。 不許可 サーバへのアクセスは現在制限されています。適切なユーザ ID とパスワードを使用してサーバにログオンする必要があります。 制限無し サーバへのアクセスにはログオンは不要です。 信頼 サーバにログオンの時点でアクセスできなかったため、ログオンデータは正しいものとして保存されました。 認証済 有効な証明書がインストールされています。 管理対象サーバにシングルサインオンできます。 認証未 有効な証明書がインストールされていません。 管理対象サーバにシングルサインオンできません。

ユーザ認証

ユーザ ID とパスワード。

パスワードの確認と設定

ログオンデータを確認し、選択したサーバへのアクセス権を設定します(**管理可能** = はいの場合)。パスワードは現在のセッションについて有効です。

サーバにアクセスできない場合、ログオンデータは正しいものとして保存されます(**管理可能** = いいえの場合)。

「TFTPの入力」ステップ(クリーンアップウィザード)

「TFTPの入力」はウィザードの 2 番目のステップです。

このステップは、クリーンアップが TFTP サーバを使用して実行される場合にのみ表示されます(マネジメントブレードの場合など)。

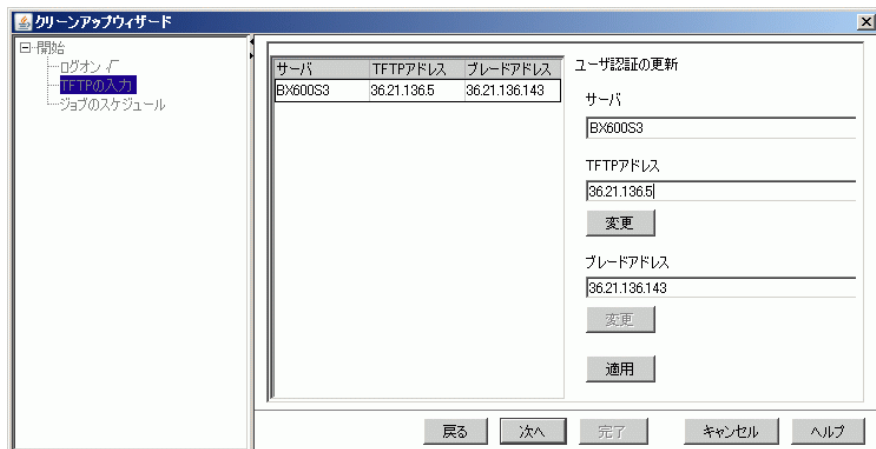


図 16: 「TFTPの入力」ステップ

テーブルには、タブで選択したサーバのサブセットが表示されます。ここで表示されたサーバに対して、クリーンアップは TFTP サーバを使用して実行されます。

列	意味
サーバ	サーバの名前
TFTPアドレス	TFTP サーバの IP アドレス
ブレードアドレス	マネジメントブレードの IP アドレス

ユーザ認証の更新

サーバ	テーブルで選択したマネジメントブレードの名前。
TFTPアドレス	TFTP サーバの IP アドレス。 設定ウィザードで TFTP サーバを構成した場合、その値がデフォルトで表示されます。値は変更することができ、選択したマネジメントブレードにのみ適用されます。
ブレードアドレス	マネジメントブレードのアップデート IP アドレス (MMBS2 のみ)。 このフィールドは、TFTP サーバでアップデートされるその他すべてのコンポーネントについては空白です。

変更

このボタンをクリックして、IP アドレスを変更します。

適用

「ユーザ認証の更新」で入力した値が適用されます。

「ジョブのスケジュール」ステップ(クリーンアップウィザード)

「ジョブのスケジュール」はウィザードの最後のステップです。ここで、クリーンアップを実行する時刻を指定します。

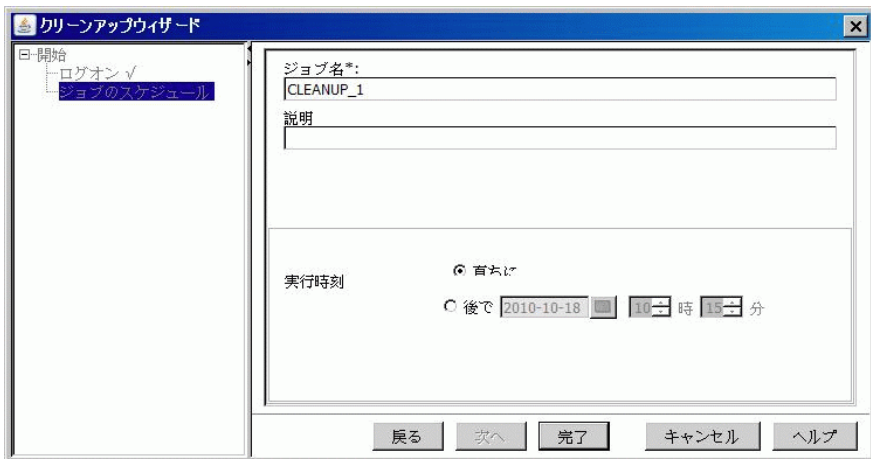


図 17:「ジョブのスケジュール」ステップ

 クリーンアップを実行するサーバが、実行する時点で稼動していることを確認してください。

ジョブ名

ジョブの一意の名前

デフォルト :CLEANUP_<連番、1 から開始>

説明

コメントとしてのジョブの説明(オプション)

実行時刻

ジョブを実行する開始時刻

直ちに 「完了」をクリックしてウィザードを終了した直後に、ジョブを開始します。

後で ジョブを指定された時刻に開始します。
日付、時間、分を選択します。

5.1.5.3 PXEアドレス変更ウィザード

このウィザードを使用して、選択したサーバの PXE アドレスを変更できます。
このウィザードは、アップデートの実行に PXE サーバを使用するサーバを選択した場合にのみ使用できます。

「PXEアドレス変更」ステップ(PXEアドレス変更ウィザード)

「変更」をクリックするとダイアログボックスが開き、ここに PXE アドレスを入力して、対応するサーバへの接続を確立できるかどうかをテストします。

新しい PXE アドレスをテーブルに適用するには、「適用」をクリックします。

次のステップへ続行するには、「次へ」をクリックします。

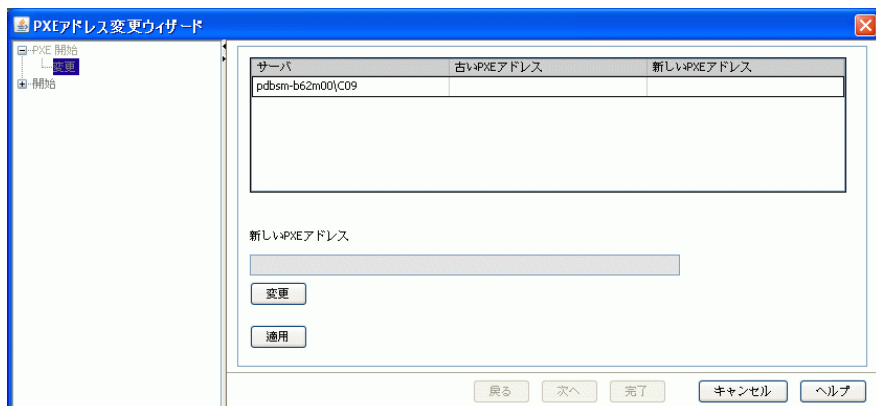


図 18:「PXEの変更」ステップ

列	意味
サーバ	サーバの名前
古いPXEアドレス	以前の PXE アドレス
新しいPXEアドレス	入力された新しい PXE アドレス

新しいPXEアドレス(出力フィールド)

「IPアドレスの変更」ダイアログボックスに入力された新しい PXE アドレスを表示します。

変更

「IPアドレスの変更」ダイアログボックスが開きます。ここで新しい PXE アドレスを入力して、新しい PXE アドレスへの接続の確立をテストできます。

適用

「IPアドレスの変更」ダイアログボックスに入力された新しい PXE アドレスを現在のダイアログボックスに適用します。

「ジョブのスケジュール」ステップ(PXEアドレス変更ウィザード)

「ジョブのスケジュール」ダイアログボックスで、新しい PXE アドレスを即座に適用するか、後で特定の時刻に適用するかを定義します。

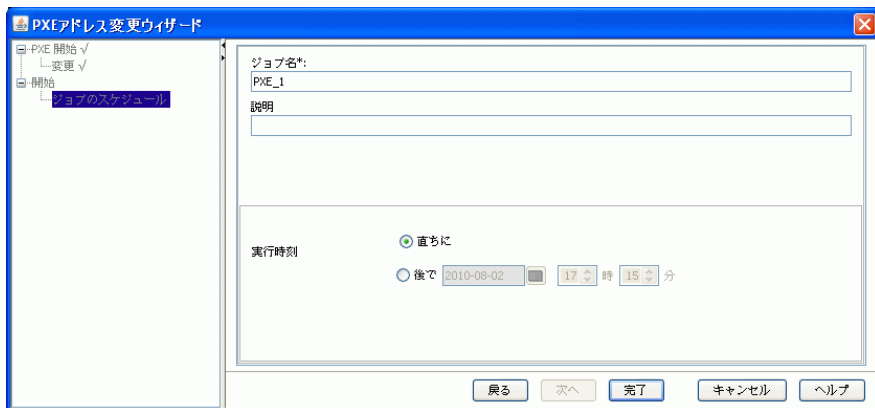


図 19: 「ジョブのスケジュール」ステップ

ジョブ名

ジョブの一意の名前

デフォルト :PXE_<連番、1 から開始>

説明

コメントとしてのジョブの説明の入力フィールド(オプション)

実行時刻

ジョブを実行する開始時刻

- 直ちに** 「完了」をクリックしてウィザードを終了した直後に、ジョブを開始します。
- 後で** ジョブを指定された時刻に開始します。
日付、時間、分を選択します。

完了

手順を終了します。ジョブが作成され、指定された時刻に実行されます。

「IPアドレスの変更」ダイアログボックス

「IPアドレスの変更」ダイアログボックスで、使用するサーバの IP アドレスを入力します。

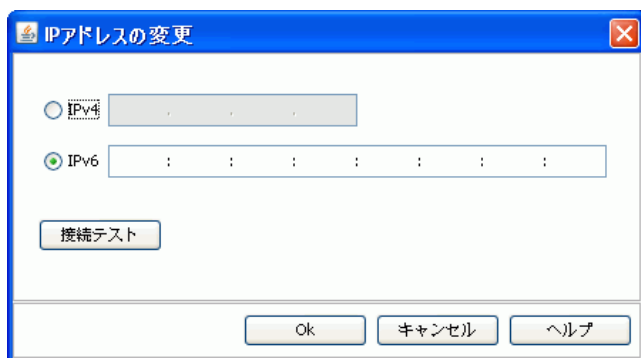


図 20: 「IPアドレスの変更」ダイアログボックス

IPv4

Internet Protocol Version 4 フォーマットの IP アドレス。

IPv6

Internet Protocol Version 6 フォーマットの IP アドレス。

接続テスト

“ping” 機能を使用して、指定された IP アドレスへの接続を確立できるかどうかをテストします。

5.1.5.4 「サーバ詳細」ダイアログボックス

「サーバ詳細」ダイアログボックスには、「サーバ詳細」タブで選択したサーバに関する詳細情報が表示されます。

このダイアログボックスを開くには、「サーバ詳細」タブの「詳細を表示」をクリックします。

The screenshot shows a dialog box titled "サーバ詳細" (Server Details). It contains a table of server information with three columns: Name, Network, and Model. Below the table are buttons for "強制チェック" (Force Check), "ログファイルを表示" (Show Log File), "履歴" (History), "Ok", and "ヘルプ" (Help).

名前	ネットワーク	モデル
pdbsm-b62m00-09	192.168.1.84	PRIMERGY CPU BLADE D2000
アップデートタイプ	エージェントステータス	エージェントアクセス
PXE (192.168.1.49)	レディ	不許可
アップデートステータス	ジョブステータス	チェックステータス
推奨		OK
前回のチェック	前回のインベントリ	前回のリポジトリ
10/08/02 9:00:12	10/08/02 6:12:07	10/07/30 14:19:05
管理可能	OS	
はい	Windows Server 2003 Service Pack 2	

強制チェック ログファイルを表示 履歴

Ok ヘルプ

図 21: 「サーバ詳細」ダイアログボックス

名前

サーバの名前

ネットワーク

サーバの IP アドレス

モデル

サーバのモデル名

アップデートタイプ

アップデートの実行に使用される方法

オンライン	アップデートは OS の実行中に 実行されます。
オンラインのみ	アップデートは、OS が実行中にアップデートできるコンポーネントについてのみ実行されます。 Update エージェントがオフラインサーバにインストールされたときに、「オンラインのみ」オプションが選択されていました。この設定を変更するには、Update エージェントを手動でアンインストールして再インストールする必要があります。
サービスパーティション	アップデートはサービスパーティションを使用して実行されます (オフラインサーバ)
PXE (IP アドレス)	アップデートは PXE サーバを使用して実行されます (オフラインサーバ)
不明	以下の理由のため、アップデートタイプを判定できませんでした。 • サーバに接続できません。 • サーバに Update エージェントがインストールされていません。
不正	• Update エージェント V4.80 以上がサポートされていないサーバタイプに手動でインストールされています(オフラインサーバなど)。 • サーバのモデル名を判定できませんでした。この場合、「モデル」列にエントリはありません。
古いエージェント	GlobalFlash エージェント < V4.6x がインストールされています。 サーバに今後のアップデートを供給できるようにするには、先に GlobalFlash エージェントをアップデートする必要があります。

エージェントステータス

サーバ上の Update エージェントのステータス

レディ	サーバはアップデート段階の準備ができています。
エラー	アップデート段階でエラーが発生しました。 失敗したジョブについての診断を保存する必要があります。 この後、Update エージェントをクリーンアップ機能で初期化する必要があります。
無し	サーバに Update エージェントがインストールされていないか、エージェントが実行されていません。
ビジー	サーバは現在アップデート段階にあります。
不明	エージェントステータスを判定できません。
管理不可	現在 ServerView エージェントに SNMP を使用して接続できません。

エージェントアクセス

サーバ上の Update エージェントのアクセスステータス

許可	サーバへのログオンはすでに正常に完了しています。 サーバにアクセスできます。
不許可	サーバへのアクセスは現在制限されています。適切なユーザ ID とパスワードを使用してサーバにログオンする必要があります。
制限無し	サーバへのアクセスにはログオンは不要です。
信頼	サーバにログオンの時点でアクセスできなかったため、ログオンデータは正しいものとして保存されました。
認証済	有効な証明書がインストールされています。 管理対象サーバにシングルサインオンできます。
認証未	有効な証明書がインストールされていません。 管理対象サーバにシングルサインオンできません。

アップデートステータス

サーバの累積されたアップデートステータス(最も重要なステータスがそれぞれに表示されます)

不要	アップデートは不要です。
推奨	アップデートが推奨されます。
必須	アップデートが緊急に必要です。

ジョブステータス

サーバに指定された関連ジョブのステータス

完了	すべてのコンポーネントがアップデートされ、ジョブは完了しました。
待機中	ジョブは実行の待機中です(データ転送が開始される前のステータスです)。
実行中	ジョブは現在実行中です。
エラー	少なくとも1つのコンポーネントのアップデートが失敗しました。

チェックステータス

前回のチェックのステータス

OK	前回のチェックは正常に実行されました。
失敗	前回のチェックが失敗しました。 詳細情報を表示するには、「ログファイルを表示」をクリックしてください。

前回のチェック

リポジトリとサーバインベントリとの前回の比較結果

日付	最後に成功したチェックの日付
失敗	前回のチェックが失敗しました。 詳細情報を表示するには、「ログファイルを表示」をクリックしてください。
N/A	このサーバに対してまだチェックが実行されていません。

前回のインベントリ

インベントリがサーバに作成された時刻

前回のリポジトリ

リポジトリが前回インポートされた時刻

管理可能

サーバの可用性

はい	ServerView エージェントに SNMP で接続できます。
いいえ	ServerView エージェントに接続できません。

OS

OS についての情報

ボタン

履歴

選択したサーバのアップデートログを表示する Web ページを開きます。

強制チェック

名前「Check_xx」(xx = 連番) のジョブが作成されます。サーバインベントリとリポジトリの比較(チェック)を、もう一度実行します。このジョブは「**ジョブ詳細**」タブに表示されます。ダイアログボックスは自動的に閉じます。

ログファイルを表示

現在選択されているサーバのログファイルを表示します。

5.1.5.5 ジョブ作成ウィザード

このウィザードでは、新しいアップデートジョブを作成できます。ウィザードは複数のダイアログボックスで構成され、個々のステップのガイドが表示されます。すべての必要なステップは、左側にツリー構造で表示されます。

ウィザードを開くには、「**アップデート詳細**」タブでサーバとアップデートを選択して「**ジョブ作成**」をクリックします。

「ログオン」ステップ(ジョブ作成ウィザード)

「ログオン」はウィザードの最初のステップです。ここで、ユーザ認証が必要なすべてのサーバにログオンします(エージェントアクセス = 不許可)。

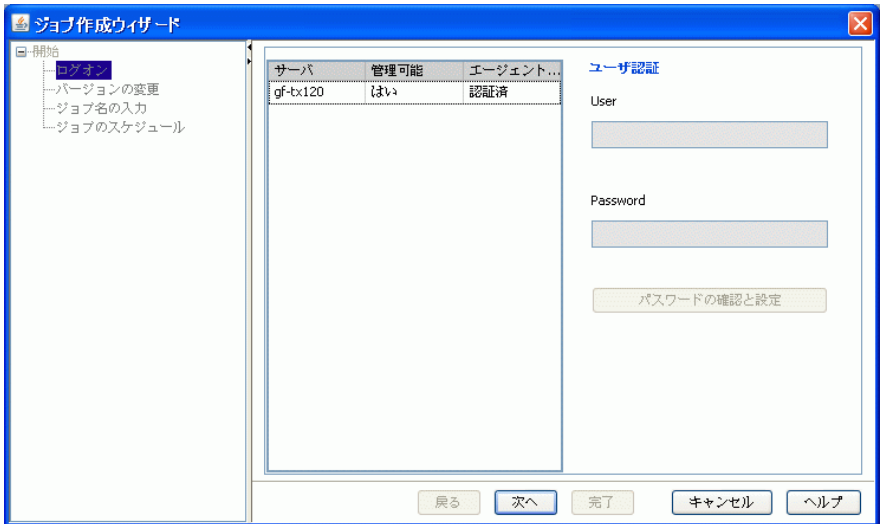


図 22: 「ログオン」ステップ

テーブルには、「**アップデート詳細**」タブで選択したアップデートの対象となる、すべてのサーバが表示されます。アクセスステータスが「**不許可**」のすべてのサーバが自動的に選択されます。



アクセスステータスが「**不許可**」以外のサーバを選択した場合、アップデートマネージャはこれらのサーバへのログオンの試行を無視します。

列	意味
サーバ	サーバの名前
管理可能	サーバの可用性
エージェント アクセス	サーバ上の Update エージェントのアクセスステータス 許可 サーバへのログオンはすでに正常に完了しています。サーバにアクセスできます。 不許可 サーバへのアクセスは現在制限されています。適切なユーザ ID とパスワードを使用してサーバにログオンする必要があります。 制限無し サーバへのアクセスにはログオンは不要です。 信頼 サーバにログオンの時点でアクセスできなかったため、ログオンデータは正しいものとして保存されました。 認証済 有効な証明書がインストールされています。 管理対象サーバにシングルサインオンできます。 認証未 有効な証明書がインストールされていません。 管理対象サーバにシングルサインオンできません。

ユーザ認証

ユーザ ID とパスワード。

パスワードの確認と設定

ログオンデータを確認し、選択したサーバへのアクセス権を設定します(**管理可能** = はいの場合)。パスワードは現在のセッションについて有効です。

サーバにアクセスできない場合、ログオンデータは正しいものとして保存されます(**管理可能** = いいえの場合)。

「バージョンの変更」ステップ(ジョブ作成ウィザード)

「バージョンの変更」はウィザードの2番目のステップです。テーブルには、「アップデート詳細」タブで選択したすべてのアップデートが表示されます。

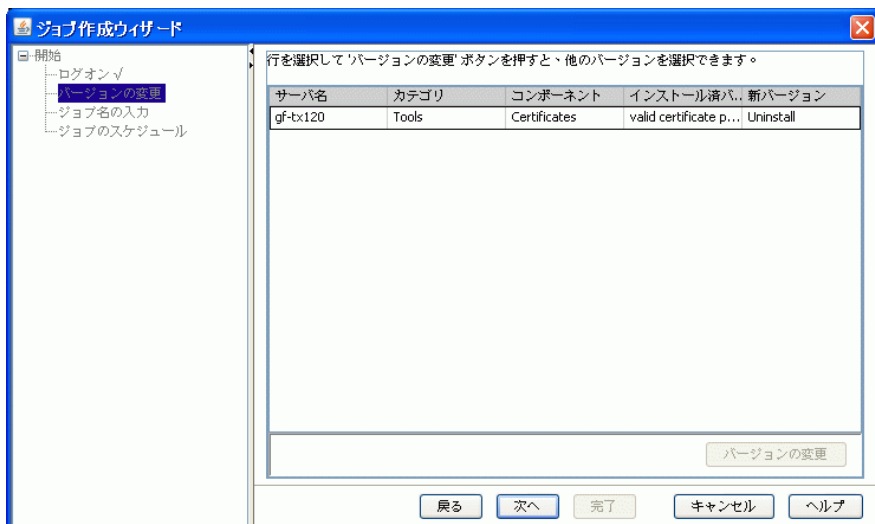


図 23: 「バージョンの変更」ステップ

列	意味
サーバ名	サーバの名前
カテゴリ	コンポーネントが属するグループ
コンポーネント	コンポーネント名
インストール済バージョン	現在インストールされているバージョン
新バージョン	インストールされたバージョンを置換するバージョン

バージョンの変更

「アップデート詳細」ダイアログボックスが開き、別のバージョンを新しいバージョンとして選択できます。

「ジョブ名の入力」ステップ(ジョブ作成ウィザード)

「ジョブ名の入力」はウィザードの 3 番目のステップです。ここでは、ジョブに名前を割り当てます。

図 24:「ジョブ名の入力」ステップ

ジョブ名

ジョブの一意の名前

デフォルト :JOB_<連番、1 から開始>

説明

コメントとしてのジョブの説明(オプション)

Web ユーザ

Web サーバのユーザ名(中央管理用サーバ)
(PRIMEQUEST サーバのみ)

Web パスワード

Web サーバのパスワード(中央管理用サーバ)
(PRIMEQUEST サーバのみ)

以下のフィールドの目的は、情報提供のみです。値は変更できません。



複数のサーバにジョブを同時に作成する場合、同じフィールドに表示されるパラメータの値が異なる場合があります。この場合、文字列「---」がこのフィールドに表示されます。

例：

ジョブが入力されたサーバでは、アップデート後にリブートが必要です(リブート=はい)。その他のサーバではリブートは不要です(リブート=いいえ)。この場合、「リブート」フィールドには文字列「---」が表示されます。

同じフィールドに表示されるパラメータに同じ値が指定される場合は、この値が表示されます。

サーバ

アップデート対象のサーバ名

重要度

アップデートの重要性

推奨 アップデートが推奨されます。

必須 アップデートが緊急に必要です。

1 台のサーバに対してジョブを作成する場合、ジョブに含まれるアップデートの最高重要度が表示されます(必須 > 推奨)。

リブート

ジョブの実行後にリブートが必要か(リブート=はい)、または不要か(リブート=いいえ)を示します。

1 台のサーバについてジョブを作成した場合、少なくとも 1 つのアップデートでリブートが必要な場合はリブートが必要です。

ダウンロードサイズ(MB)

該当するサーバへのアップデートのインストールに必要な、空きメモリ容量

インストール時間(分)

すべてのアップデートを該当するサーバにインストールするために必要な時間

「TFTPの入力」ステップ(ジョブ作成ウィザード)

「TFTPの入力」はウィザードの 4 番目のステップです。

このステップは、アップデートが TFTP サーバを使用して実行される場合にのみ表示されます(マネジメントブレードの場合など)。

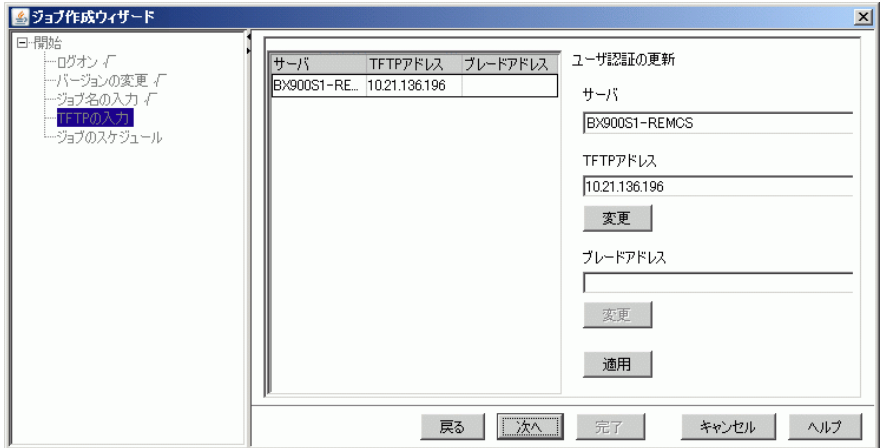


図 25: 「TFTPの入力」ステップ

テーブルには、タブで選択したサーバのサブセットが表示されます。ここで表示されたサーバに対して、アップデートは TFTP サーバを使用して実行されます。

列	意味
サーバ	サーバの名前
TFTPアドレス	TFTP サーバの IP アドレス
ブレードアドレス	マネジメントブレードの IP アドレス

ユーザ認証の更新

サーバ	テーブルで選択したマネジメントブレードの名前。
TFTPアドレス	TFTP サーバの IP アドレス。 設定ウィザードで TFTP サーバを構成した場合、その値がデフォルトで表示されます。値は変更することができ、選択したマネジメントブレードにのみ適用されます。
ブレードアドレス	マネジメントブレードのアップデート IP アドレス(MMBS2 のみ)。 このフィールドは、TFTP サーバでアップデートされるその他すべてのコンポーネントについては空白です。

変更

このボタンをクリックして、IP アドレスを変更します。

適用

「ユーザ認証の更新」で入力した値が適用されます。

「ジョブのスケジュール」ステップ(ジョブ作成ウィザード)

「ジョブのスケジュール」はウィザードの最後のステップです。ここで、ジョブを実行する時刻を指定します。

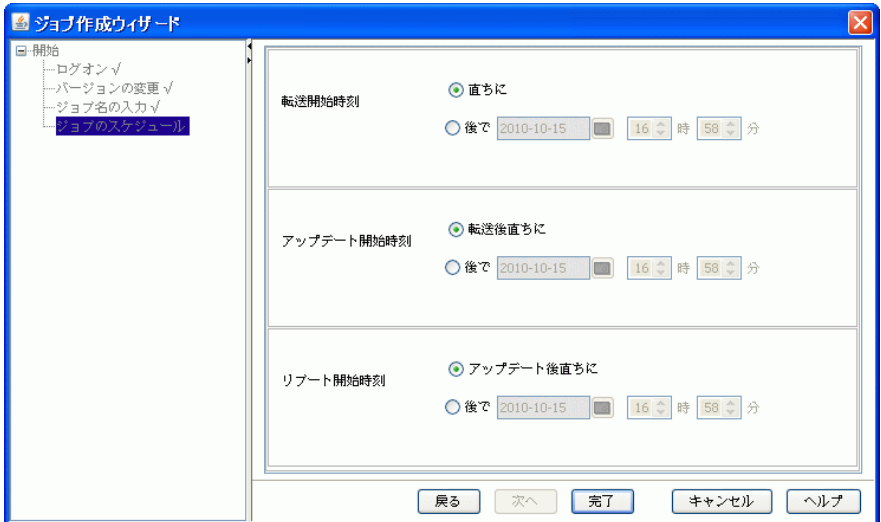


図 26:「ジョブのスケジュール」ステップ



管理用サーバとジョブを実行するサーバが、実行時に稼動していることを確認してください。

転送開始時刻

ジョブのサーバへの転送開始時刻。

直ちに 「完了」をクリックしてウィザードを終了した直後に、転送を開始します。

後で 転送を指定された時刻に開始します。
日付、時間、分を選択します。

アップデート開始時刻

サーバでのアップデート段階の開始時刻。

転送後直ちに 転送直後にアップデートを開始します。

後で アップデート段階を指定された時刻に開始します。転送段階が指定した時刻で終了していない場合、転送段階の終了直後にアップデートを開始します。

リブート開始時刻

サーバリブートの開始時刻(**リブート = はい** の場合のみ)。

ジョブに含まれるすべてのコンポーネントでリブートが不要の場合は、以下のオプションは無効になります(**グレー** 表示)。

アップデート後直ちに アップデート段階の終了直後にリブートが開始されます。

後で リブートを指定された時刻に開始します。アップデート段階が指定した時刻で終了していない場合、アップデート段階の終了直後にリブートを開始します。

5.1.5.6 「アップデート詳細」ダイアログボックス

「アップデート詳細」ダイアログボックスには、「アップデート詳細」タブのテーブルで選択したアップデートに関する追加情報が表示されます。このダイアログボックスに表示されるパラメータは、「利用可能バージョン」以外は変更できません。

このダイアログボックスを開くには、「アップデート詳細」タブの「詳細を表示」タブをクリックします。

図 27: 「アップデート詳細」ダイアログボックス

サーバ名

アップデート対象のサーバ名

ダウンロードサイズ

アップデートに必要なメモリ量(MB 単位)

カテゴリ

コンポーネントが属するグループ

インストール時間

アップデートのインストール時間(分単位)

コンポーネント

コンポーネント名

インストール済バージョン

現在インストールされているバージョン

重要度

アップデートの重要度

推奨 アップデートが推奨されます。

必須 アップデートが緊急に必要です。

インストール済バージョンとの比較

「新バージョン」フィールドに表示されるバージョンを評価します。

最も新しい	表示されたバージョンはインストール済みバージョンよりも新しく、リポジトリ内で最新です。
最も古い	表示されたバージョンはインストール済みバージョンよりも古く、リポジトリ内で最も古いものです。
新しい	表示されたバージョンはインストール済みバージョンよりも新しいものです。
同一	表示されたバージョンはインストール済みバージョンと同じものです。
古い	表示されたバージョンはインストール済みバージョンよりも古いものです。

リポート

はい	ジョブの実行後、サーバをリポートする必要があります。
いいえ	サーバをリポートする必要はありません。

新バージョン

インストールされたバージョンを置換するバージョン

利用可能バージョン

リポジトリ内のアップデートのすべてのバージョンが表示されます。

リリースノートを表示

規定のブラウザが開き、最新のリリースノートが表示されます。

PSP詳細

選択したアップデートの詳細なパッケージプロパティを表示します。

依存関係

アップデートに関して注意が必要な依存関係を表示します。

5.1.5.7 「PSP詳細」ダイアログボックス

PRIMERGY Support Package(PSP) は、PRIMERGY サーバ上のドライバとソフトウェア製品をインストールおよびアップデートするための基本要素です。

PSP は、同種のドライバやソフトウェア製品について、それぞれ異なるバージョンを含む複数のパッケージにより構成されています。

このダイアログを開くには、「**アップデート詳細**」ダイアログまたは「**アップデートのプロパティ編集**」ダイアログの「**PSP詳細を表示**」をクリックします。

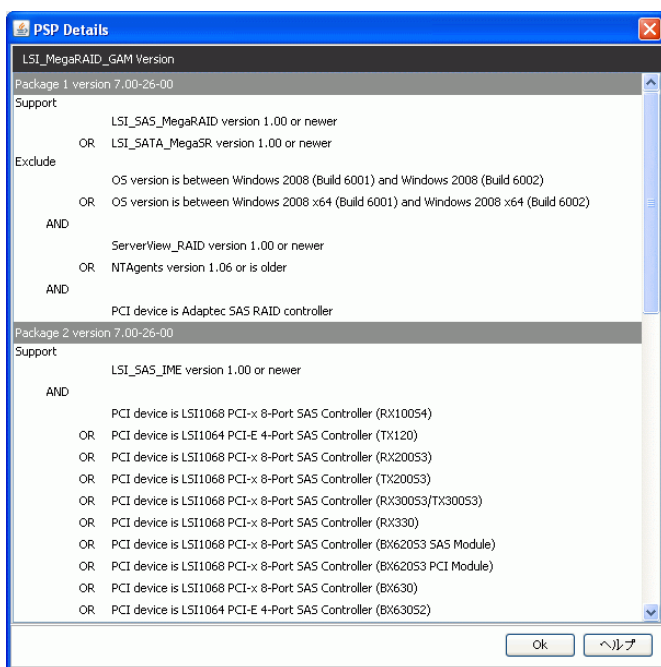


図 28: 「PSP詳細」ダイアログボックス

「PSP詳細」ダイアログには、個々のパッケージについての情報とその他のコンポーネントとの依存関係が表示されます。

ヘッダーには、PSP に含まれるコンポーネントの名前とバージョンが表示されます。

その下には、個々のパッケージの情報とその他のコンポーネントとの依存関係のブロックがあります。パッケージには PSP 内での連番が付けられ、バージョンとともに表示されます。

依存関係

パッケージをインストールするには、すべての依存関係の要件を満たす必要があります。



インストールするパッケージについて、表示されるすべての依存関係を満たす必要があります。

各 PSP について、すべての依存関係が満たされる最初のパッケージがインストールされます。

Support

各コンポーネントグループについて、指定されたコンポーネントの少なくとも 1 つがターゲットシステム上に存在する必要があります。

OR 演算子で連結されたすべてのコンポーネントは、コンポーネントグループに属します。

個々のコンポーネントグループは **AND** 演算子で連結されます。

Exclude

除外手順

「**Exclude**」でマークされたコンポーネントは、ターゲットシステムにひとつも存在してはいけません。

除外されるすべてのコンポーネントは **OR** 演算子で連結されます。

Required

「**Required**」でマークされたコンポーネントは、ターゲットシステムにすべて存在する必要があります。

すべての必要なコンポーネントは **AND** 演算子で連結されます。

5.1.5.8 ジョブコピーウィザード

このウィザードを使用して、ジョブをドメイン内の任意のサーバにコピーできます。ウィザードは複数のダイアログボックスで構成され、個々のステップのガイドが示されます。すべての必要なステップは、左側にツリー構造で表示されます。

ウィザードを開くには、「**ジョブ詳細**」タブでコピーするジョブを選択し、「**ジョブのコピー**」をクリックします。

「サーバの選択」ステップ(ジョブコピーウィザード)

「**サーバの選択**」はウィザードの最初のステップです。ここで、ジョブをコピーする先のサーバを選択します。

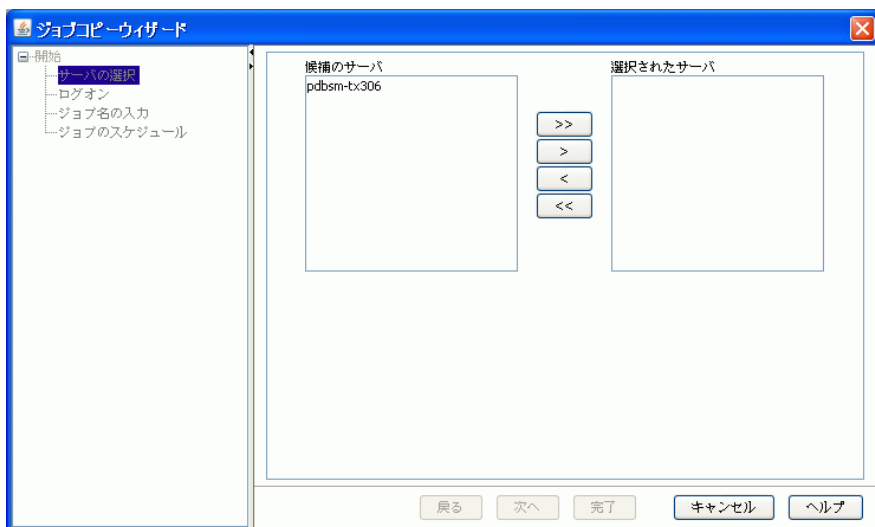


図 29: 「サーバの選択」ステップ

候補のサーバ

ジョブのコピー先として利用可能なサーバのリスト。

選択されたサーバ

ジョブのコピー先として選択されたサーバ。

>>

「候補のサーバ」リストのすべてのサーバを「選択されたサーバ」リストにコピーします。

>

「候補のサーバ」リストから選択したサーバを「選択されたサーバ」リストにコピーします。

<

「選択されたサーバ」リストから選択したサーバを「候補のサーバ」リストに移動します。

<<

「選択されたサーバ」リストのすべてのサーバを「候補のサーバ」リストに移動します。

「ログオン」ステップ(ジョブコピーウィザード)

「ログオン」はウィザードの2番目のステップです。ここで、ユーザ認証が必要なすべてのサーバにログオンします(エージェントアクセス = 不許可)。

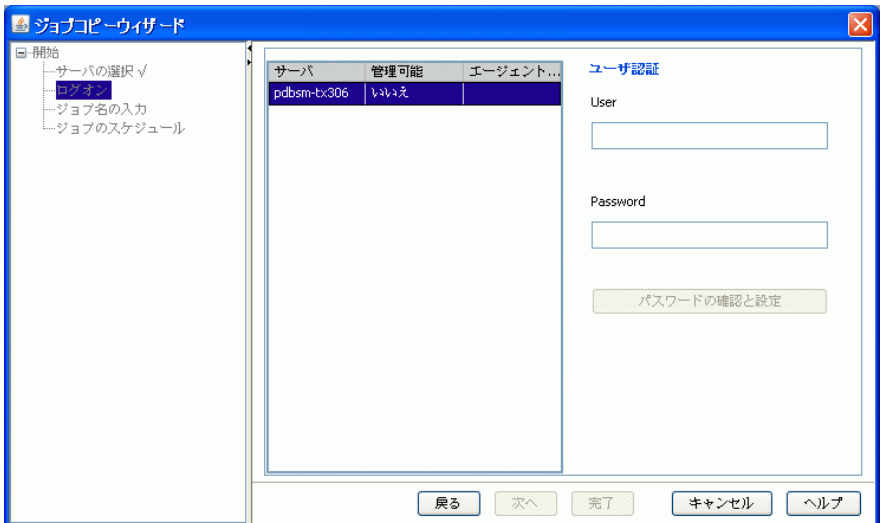


図 30: 「ログオン」ステップ

テーブルには、「**サーバの選択**」ステップで選択したすべてのサーバが表示されます。



アクセスステータスが「**不許可**」以外のサーバを選択した場合、アップデートマネージャはこれらのサーバへのログオンの試行を無視します。

列	意味
サーバ	サーバの名前
管理可能	サーバの可用性
エージェント アクセス	サーバ上の Update エージェントのアクセスステータス 許可 サーバへのログオンはすでに正常に完了しています。サーバにアクセスできます。 不許可 サーバへのアクセスは現在制限されています。適切なユーザ ID とパスワードを使用してサーバにログオンする必要があります。 制限無し サーバへのアクセスにはログオンは不要です。 信頼 サーバにログオンの時点でアクセスできなかったため、ログオンデータは正しいものとして保存されました。 認証済 有効な証明書がインストールされています。 管理対象サーバにシングルサインオンできます。 認証未 有効な証明書がインストールされていません。 管理対象サーバにシングルサインオンできません。

ユーザ認証

ユーザ ID とパスワード。

パスワードの確認と設定

ログオンデータを確認し、選択したサーバへのアクセス権を設定します(**管理可能** = はいの場合)。パスワードは現在のセッションについて有効です。

サーバにアクセスできない場合、ログオンデータは正しいものとして保存されます(**管理可能** = いいえの場合)。

「ジョブ名の入力」ステップ(ジョブコピーウィザード)

「ジョブ名の入力」はウィザードの 3 番目のステップです。ここでは、ジョブに名前を割り当てます。

図 31:「ジョブ名の入力」ステップ

ジョブ名

ジョブの一意の名前

デフォルト :JOB_<連番、1 から開始>

説明

コメントとしてのジョブの説明(オプション)

Web ユーザ

Web サーバのユーザ名(中央管理用サーバ)
(PRIMEQUEST サーバのみ)

Web パスワード

Web サーバのパスワード(中央管理用サーバ)
(PRIMEQUEST サーバのみ)

以下のフィールドの目的は、情報提供のみです。値は変更できません。



複数のサーバにジョブを同時に作成する場合、同じフィールドに表示されるパラメータの値が異なる場合があります。この場合、文字列「---」がこのフィールドに表示されます。

例：

ジョブが入力されたサーバでは、アップデート後にリポートが必要です(**リポート=はい**)。その他のサーバではリポートは不要です(**リポート=いいえ**)。この場合、「リポート」フィールドには文字列「---」が表示されます。

同じフィールドに表示されるパラメータに同じ値が指定される場合は、この値が表示されます。

サーバ

アップデート対象のサーバ名

重要度

アップデートの重要性

推奨 アップデートが推奨されます。

必須 アップデートが緊急に必要です。

1 台のサーバに対してジョブを作成する場合、ジョブに含まれるアップデートの最高重要度が表示されます(**必須** > **推奨**)。

リポート

ジョブの実行後にリポートが必要か(**リポート=はい**)、または不要か(**リポート=いいえ**)を示します。

1 台のサーバについてジョブを作成した場合、少なくとも 1 つのアップデートでリポートが必要な場合はリポートが必要です。

ダウンロードサイズ(MB)

該当するサーバへのアップデートのインストールに必要な、空きメモリ容量

インストール時間(分)

すべてのアップデートを該当するサーバにインストールするために必要な時間

「TFTPの入力」ステップ(ジョブコピーウィザード)

「TFTPの入力」はウィザードの4番目のステップです。ここでは、サーバに Update エージェントがインストールされていない場合に、TFTP サーバのアドレスを入力します。このステップは、該当するサーバに Update エージェントがインストールされている場合には表示されません。

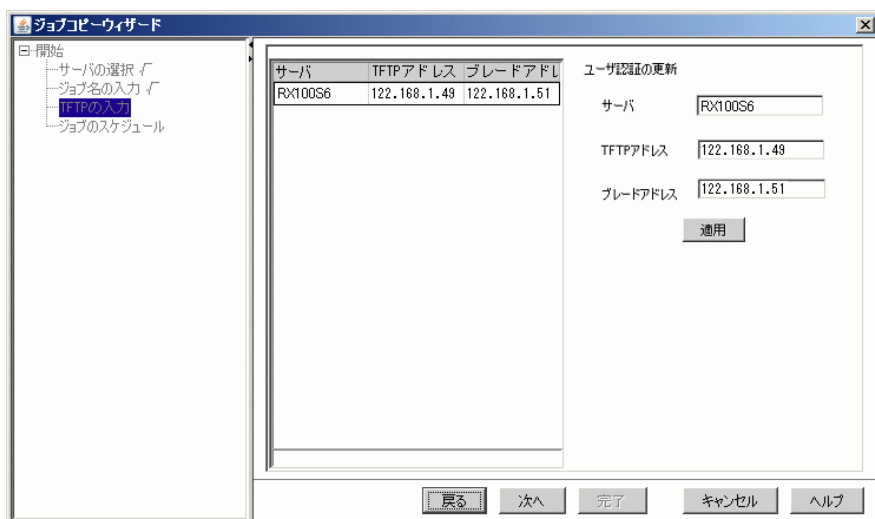


図 32: 「TFTPの入力」ステップ

テーブルには、タブで選択したサーバのサブセットが表示されます。

ユーザ認証の更新

サーバ	テーブルで選択したマネジメントブレードの名前。
TFTPアドレス	TFTP サーバの IP アドレス。 設定ウィザードで TFTP サーバを構成した場合、その値がデフォルトで表示されます。値は変更することができ、選択したマネジメントブレードにのみ適用されます。
ブレードアドレス	マネジメントブレードのアップデート IP アドレス (MMBS2 のみ)。 このフィールドは、TFTP サーバでアップデートされるその他すべてのコンポーネントについては空白です。

適用

「**ユーザ認証の更新**」で入力した値が適用されます。

「ジョブのスケジュール」ステップ(ジョブコピーウィザード)

「ジョブのスケジュール」はウィザードの最後のステップです。ここで、ジョブを実行する時刻を指定します。

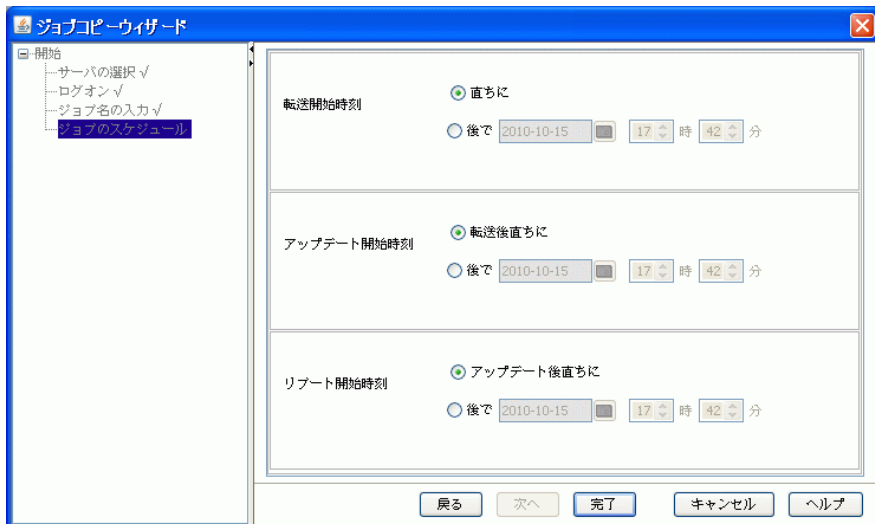


図 33:「ジョブのスケジュール」ステップ



管理用サーバとジョブを実行するサーバが、実行時に稼働していることを確認してください。

転送開始時刻

ジョブのサーバへの転送開始時刻。

直ちに

「完了」をクリックしてウィザードを終了した直後に、転送を開始します。

後で

転送を指定された時刻に開始します。
日付、時間、分を選択します。

アップデート開始時刻

サーバでのアップデート段階の開始時刻。

転送後直ちに 転送直後にアップデートを開始します。

後で アップデート段階を指定された時刻に開始します。転送段階が指定した時刻で終了していない場合、転送段階の終了直後にアップデートを開始します。

リブート開始時刻

サーバリブートの開始時刻(リブート = はいの場合のみ)。

ジョブに含まれるすべてのコンポーネントでリブートが不要の場合は、以下のオプションは無効になります(グレー表示)。

アップデート後直ちに アップデート段階の終了直後にリブートが開始されます。

後で リブートを指定された時刻に開始します。アップデート段階が指定した時刻で終了していない場合、アップデート段階の終了直後にリブートを開始します。

5.1.5.9 「ジョブ詳細」ダイアログボックス

「ジョブ詳細」ダイアログボックスには、「ジョブ詳細」タブで選択したジョブに関連する、明確で詳細な概要情報が提示されます。

このダイアログボックスを開くには、「ジョブ詳細」タブの「詳細を表示」をクリックします。

ジョブ詳細

ジョブ名	重要度	転送開始時刻
JOB_Yoshi_2	推奨	10/12/31 17:13
サーバ	レポート	実行時刻
PDBSMRX304	必要	10/12/31 17:13
ジョブステータス	リリース済	レポート開始時刻
レディ	いいえ	10/12/31 17:13
インストール時間(分)	説明	
3		
エラーテキスト		

カテゴリ	コンポーネント	旧バージョン	新バージョン	ステータス
PrimSupportPack-Win4	LSI_SAS_IME_E	3.0.0.0	3.00.00.00	waiting

ログファイルを表示

Ok キャンセル ヘルプ

図 34: 「ジョブ詳細」ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、「リリース済」パラメータのみを変更できます。その他のパラメータは変更できません。

ジョブ名

選択したジョブの名前

重要度

ジョブに含まれるアップデートの、累積した重要度。アップデートの最高の重要度が表示されます(必須 > 推奨)。

推奨	アップデートが推奨されます。
必須	アップデートが緊急に必要です。

転送開始時刻

アップデートを管理用サーバから PRIMERGY サーバに転送する開始時刻

サーバ

サーバの名前

リブート

この設定は、ジョブが実行された後、少なくとも 1 台のアップデートされたサーバをリブートするか(はい)、またはどのサーバもリブートする必要がない(いいえ) かを示します。

実行時刻

アップデート段階の開始時刻

ジョブステータス

現在のジョブステータス

待機中	ジョブは実行の待機中です(データ転送が開始される前のステータスです)。
転送中	ジョブは現在転送中です。
転送完了	ジョブは正常に転送され、アップデート手順の開始を待機しています。
アップデート中	ジョブは現在アップデート段階にあります。
アップデート完了	アップデートがサーバで正常に実行されました。
リスクキャン中	サーバのインベントリが再確認されています。
リブート中	サーバは現在リブート中です。

完了	すべてのコンポーネントがアップデートされ、ジョブは完了しました。
エラー	少なくとも 1 つのコンポーネントのアップデートが失敗しました。
マネージャ停止	管理用サーバがジョブの実行中にリポートされました。 12 ページの 管理用サーバに関する注記 を参照してください。

リリース済

この設定は、その他の PRIMERGY サーバで実行するために、ジョブがリリースされたか(はい)、リリースされていないか(いいえ)を指定します。

リブート開始時刻

ブートプロセスの開始時刻(Reboot = yes の場合)

インストール時間(分)

分単位でのインストール時間

説明

ジョブの説明(コメント)

エラーテキスト

エラーが発生した場合、このフィールドには発生したエラーのエラーメッセージが表示されます。

エラーメッセージについては、[223 ページのトラブルシューティング](#)の項で説明しています。

カテゴリ/コンポーネント/旧バージョン/新バージョン/ステータス

ジョブに含まれるアップデートについてのバージョンおよびステータス情報を含むテーブル

ボタン

ログファイルを表示

選択したジョブのログファイルを表示します。

このボタンは、完了または処理中のジョブに対してのみ有効になります。

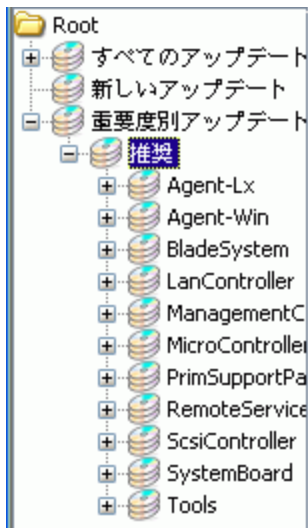
5.2 リポジトリマネージャのメインウィンドウ

リポジトリマネージャでは、管理用サーバ上のアップデートリポジトリを管理できます。

リポジトリマネージャのメインウィンドウには、アップデートリポジトリの現在のコンテンツが表示され、以下の要素が含まれています(上から下の順)。

- ServerView Suite ヘッダー
- ServerView Suite メニューバー
- ワークエリア。左側にツリー構造、右側に各種タブがあります

5.2.1 ツリービュー



ツリービューは左側に表示され、リポジトリマネージャで利用できるアップデートが表示されます。ツリービューで、「アップデート」タブおよび「ユーザ定義」タブのテーブルに表示するデータを選択します。

ツリービューには以下のグループが表示され、関連するコンポーネントが一覧表示されます。

すべてのアップデート

アップデートリポジトリ内のすべてのアップデート。

新しいアップデート

ダウンロードマネージャがダウンロードした、アップデートリポジトリ内の新しいアップデート。これらのアップデートは、2 週間経過すると「**新しいアップデート**」グループから自動的に削除されます。

重要度別アップデート

推奨される(**推奨**) または緊急に必要な(**必須**)、すべてのアップデート。

リリース済アップデート

ユーザによって**明示的**にリリースされたアップデート。このグループは、少なくとも 1 つの「リリース済」アップデートがある場合にのみ表示されます。

ユーザ定義

「**ユーザ定義**」タブで作成して管理できる、カスタマイズしたグループ。

このノードは、カスタマイズしたグループを定義していない場合には表示されません。

5.2.2 「アップデート」タブ

ツリー構造で選択したグループに属するすべてのエントリが、「アップデート」タブのテーブルに表示されます。

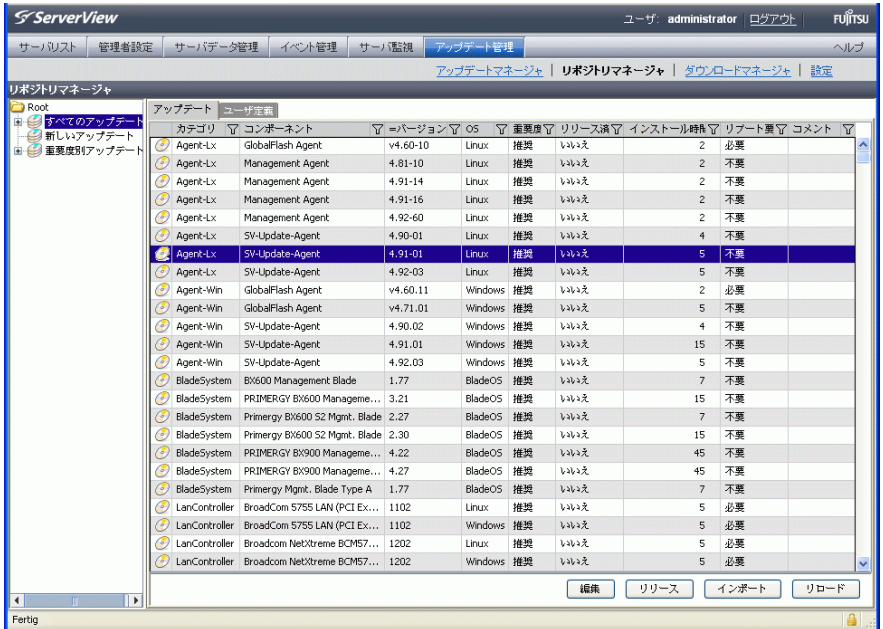


図 35: 「アップデート」タブ

テーブル内の列について、以下で説明します。

列	意味
アップデートステータス (アイコン)	アップデートの緊急度  アップデートが推奨されます。  アップデートが緊急に必要です。
カテゴリ	コンポーネントグループの名前

列	意味
	「<列>のフィルタ」ダイアログボックスが開き、テーブルに表示する行を指定できます。
コンポーネント	コンポーネント名
バージョン	アップデートのバージョン
OS	OS の種類
重要度	アップデートの緊急度 推奨 アップデートが推奨されます。 必須 アップデートが緊急に必要です。
リリース済	アップデートがその他の PRIMERGY サーバで実行できるようにリリースされたか(はい)、リリースされていないか(いいえ)を示します。
インストール時間	アップデートのインストール時間(分単位)
リブート要	アップデート後にサーバリブートが必要か(はい)、または不要か(いいえ)を示します。

ボタン

編集

「アップデートのプロパティ編集」ダイアログボックスが開き、アップデートの「重要度」、「リリース済」、「コメント」パラメータを編集できます。

リリース

選択したアップデートをリリースして、その他の PRIMERGY サーバで実行できるようにします(たとえば、テストホスト上でエラーなしで処理された後など)。

インポート

「リポジトリのインポート」ダイアログボックスが開き、Firmware ファイルディレクトリを ServerView Suite DVD 1 または Update DVD からアップデートリポジトリにインポートできます。DVD をインポートするとアップデートリポジトリが再度初期化され、既存のすべてのエントリが上書きされます。

リロード

リポジトリをリロードし、データベースエントリをアップデートします。バックグラウンドで、すべてのサーバに対してインベントリデータの再収集が実行されます。



リポジトリは、アップデートが手動で追加された場合にのみリロードする必要があります。

5.2.3 「ユーザ定義」タブ

「ユーザ定義」タブにある機能によって、カスタマイズしたアップデートグループを作成して管理できます。ここで作成したグループは、ツリー構造の「ユーザ定義」に表示されます。

グループを作成していない場合は、ツリー構造には「ユーザ定義」のノードはなく、タブも空白です。

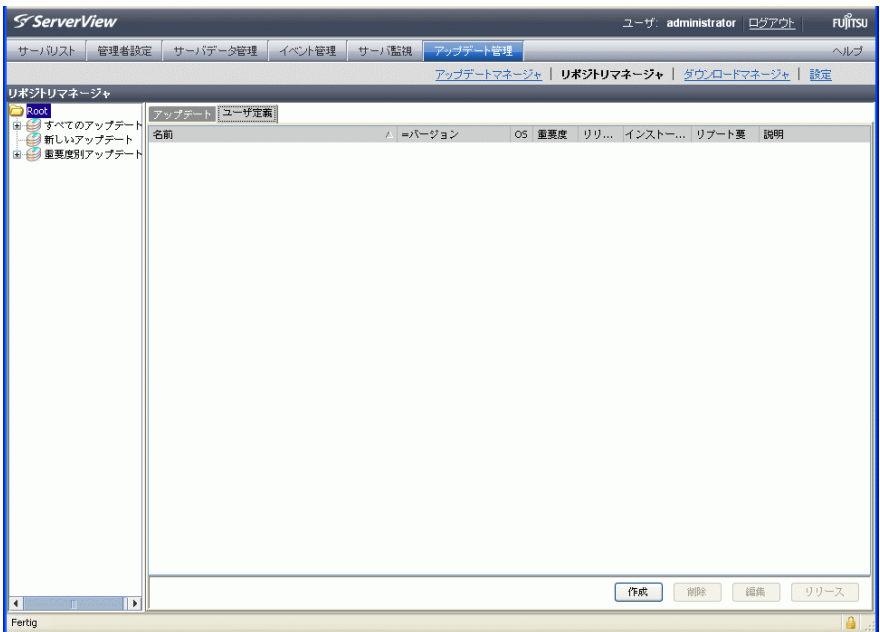


図 36: 「ユーザ定義」タブ

列	意味
名前	コンポーネント名
バージョン	アップデートのバージョン
OS	OS の種類
重要度	アップデートの緊急度 推奨 アップデートが推奨されます。 必須 アップデートが緊急に必要です。
リリース済	アップデートがその他の PRIMERGY サーバで実行できるようにリリースされたか(はい)、リリースされていないか(いいえ)を示します。
インストール時間	アップデートのインストール時間(分単位)
リブート要	アップデート後にサーバリブートが必要か(はい)、または不要か(いいえ)を示します。

ボタン

作成

「ユーザ定義の作成」ダイアログボックスが開き、カスタマイズしたグループを作成できます。

削除

タブで選択したグループを削除します。

編集

「ユーザ定義の編集」ダイアログボックスが開き、選択したグループの設定を編集できます。

リリース

今後使用する選択したグループをリリースします。

5.2.4 ダイアログボックス

リポジトリマネージャには、以下のダイアログボックスがあります。

- 「リポジトリのインポート」ダイアログボックス
- 「アップデートのプロパティ編集」ダイアログボックス
 - 「リリースノート」ダイアログボックス
 - 「PSP詳細」ダイアログボックス
- 「ユーザ定義の作成」ダイアログボックス
- 「ユーザ定義の編集」ダイアログボックス

5.2.4.1 リポジトリのインポート(ダイアログボックス)

「リポジトリのインポート」ダイアログボックスで、Firmwareファイルディレクトリを ServerView Suite DVD 1(バージョン 7.812以降)または Update DVDからインポートして、管理用サーバのアップデートリポジトリをアップデートできます。



DVD をインポートするとアップデートリポジトリが初期化され、既存のすべてのエントリが上書きされます。インポートの後、ユーザによる変更内容はすべて失われます。

このダイアログボックスを開くには、「アップデート」タブの「インポート」をクリックします。



図 37: 「リポジトリのインポート」ダイアログボックス

メディアのパス

DVD 上の firmware ディレクトリの絶対パス。

例 :<ドライブ>/Firmware

リポジトリのパス

管理用サーバ上のリポジトリの絶対パス。

5.2.4.2 アップデートのプロパティ編集(ダイアログボックス)

「アップデートのプロパティ編集」ダイアログボックスには、「アップデート」タブで選択したジョブに関連する、明確で詳細な概要情報が提示されます。このダイアログボックスのほとんどのパラメータは変更できません。アップデートの以下のプロパティは変更できます。

- リリース済
- 重要度
- コメント

このダイアログボックスを開くには、「アップデート」タブの「編集」をクリックします。

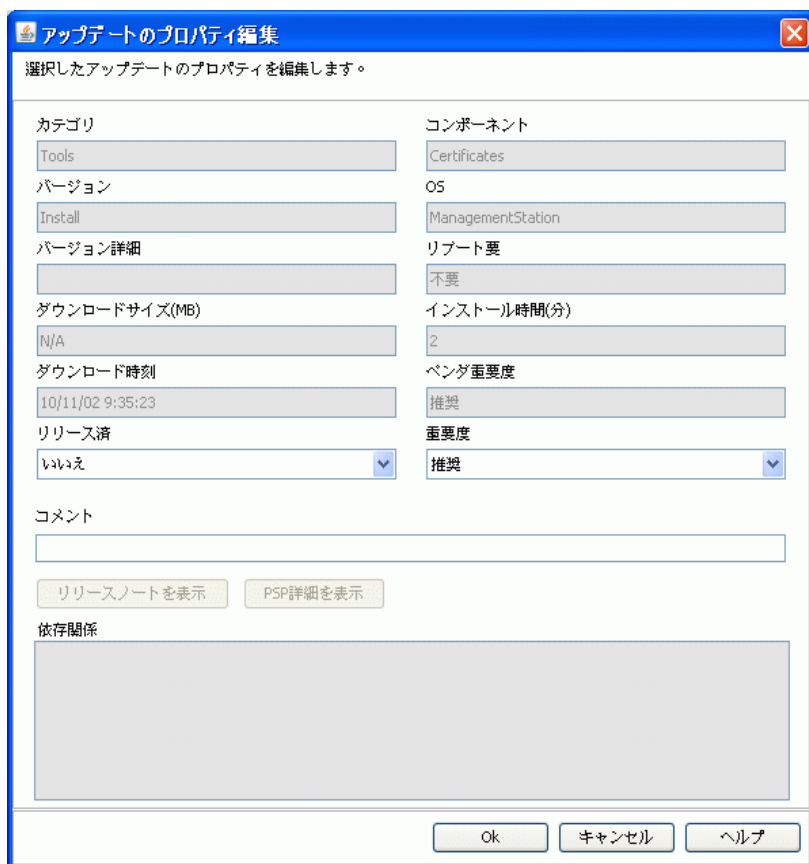


図 38:「アップデートのプロパティ編集」ダイアログボックス

カテゴリ

コンポーネントが属するグループ。

コンポーネント

コンポーネント名。

バージョン

アップデートバージョン。

OS

該当する OS。

バージョン詳細

アップデートバージョンの詳細。

リポート要

アップデート後にサーバリポートが必要か(はい)、または不要か(いいえ)を示します。

ダウンロードサイズ(MB)

アップデートに必要なメモリ量(MB 単位)。

インストール時間(分)

アップデートのインストール時間(分単位)。

ダウンロード時刻

アップデートが Web サーバからリポジトリに転送される時刻。

ベンダ重要度

各ベンダが指定したアップデートの重要度。

推奨 アップデートが推奨されます。

必須 アップデートが緊急に必要です。

リリース済

選択したアップデートをリリースして(はい)、その他の PRIMERGY サーバで実行できるようにするか(たとえば、テストホスト上でエラーなしで処理された後など)、またはリリースしないか(いいえ)を指定します。

重要度

ユーザが指定したアップデートの重要度。このパラメータを使用して「ベンダ重要度」設定を上書きできます。

コメント

アップデートの説明(コメント)。

リリースノートを表示

規定のブラウザが開き、最新のリリースノートが表示されます。

PSP詳細を表示

(PSP = PRIMERGY Support Package)

選択したアップデートに含まれるパッケージの情報を表示します。

依存関係

アップデートに関して注意が必要な依存関係。

5.2.4.3 「PSP詳細」ダイアログボックス

PRIMERGY Support Package(PSP) は、PRIMERGY サーバ上のドライバとソフトウェア製品をインストールおよびアップデートするための基本要素です。

PSP は、同種のドライバやソフトウェア製品について、それぞれ異なるバージョンを含む複数のパッケージにより構成されています。

このダイアログを開くには、「**アップデート詳細**」ダイアログまたは「**アップデートのプロパティ編集**」ダイアログの「**PSP詳細を表示**」をクリックします。

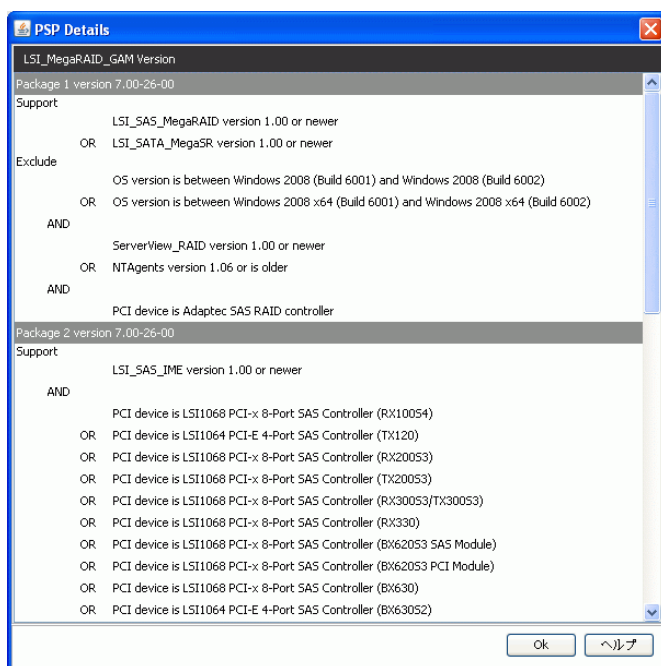


図 39: 「PSP詳細」ダイアログボックス

「PSP詳細」ダイアログには、個々のパッケージについての情報とその他のコンポーネントとの依存関係が表示されます。

ヘッダーには、PSP に含まれるコンポーネントの名前とバージョンが表示されます。

その下には、個々のパッケージの情報とその他のコンポーネントとの依存関係のブロックがあります。パッケージには PSP 内での連番が付けられ、バージョンとともに表示されます。

依存関係

パッケージをインストールするには、すべての依存関係の要件を満たす必要があります。



インストールするパッケージについて、表示されるすべての依存関係を満たす必要があります。

各 PSP について、すべての依存関係が満たされる最初のパッケージがインストールされます。

Support

各コンポーネントグループについて、指定されたコンポーネントの少なくとも 1 つがターゲットシステム上に存在する必要があります。

OR 演算子で連結されたすべてのコンポーネントは、コンポーネントグループに属します。

個々のコンポーネントグループは **AND** 演算子で連結されます。

Exclude

除外手順

「**Exclude**」でマークされたコンポーネントは、ターゲットシステムにひとつも存在してはいけません。

除外されるすべてのコンポーネントは **OR** 演算子で連結されます。

Required

「**Required**」でマークされたコンポーネントは、ターゲットシステムにすべて存在する必要があります。

すべての必要なコンポーネントは **AND** 演算子で連結されます。

5.2.4.4 ユーザ定義の作成(ダイアログボックス)

「**ユーザ定義の作成**」ダイアログボックスで、カスタマイズしたアップデートグループを作成できます。これはアップデートマネージャ画面の「**アップデート詳細**」タブ内「**ユーザ定義**」下に表示されます。

このダイアログボックスを開くには、「**ユーザ定義**」タブの「**作成**」をクリックします。

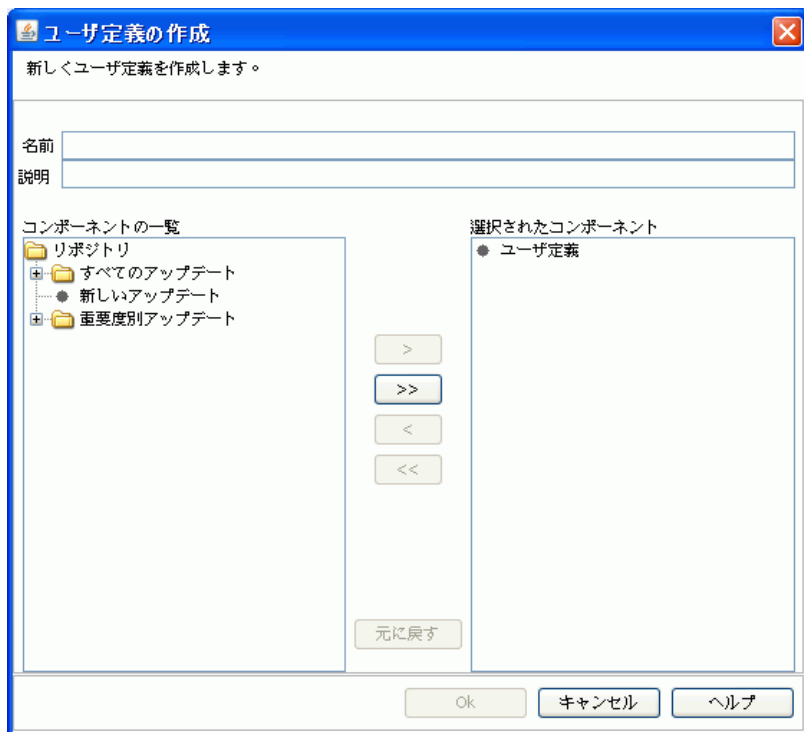


図 40:「**ユーザ定義の作成**」ダイアログボックス

名前

カスタマイズしたアップデートグループの名前。

説明

カスタマイズしたアップデートグループの説明(コメント)。

コンポーネントの一覧

選択できるコンポーネントグループ。

選択されたコンポーネント

ユーザ定義のグループにコピーされたコンポーネントグループ。

>>

すべてのコンポーネントグループをユーザ定義のグループに転送します。

>

選択したコンポーネントグループをユーザ定義のグループに転送します。

<

選択したコンポーネントグループをユーザ定義のグループから削除します。

<<

すべてのコンポーネントグループをユーザ定義のグループから削除します。

元に戻す

ダイアログボックスで最後に実行した操作を元に戻します。

5.2.4.5 ユーザ定義の編集(ダイアログボックス)

「**ユーザ定義の編集**」ダイアログボックスで、カスタマイズしたアップデートグループを選択して編集できます。

このダイアログボックスを開くには、「**ユーザ定義**」タブの「**編集**」をクリックします。

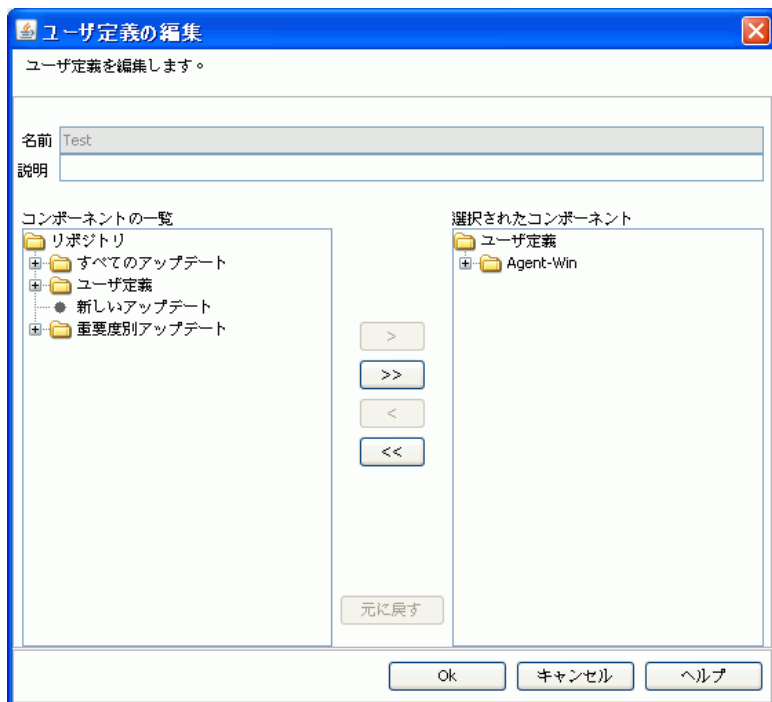


図 41:「ユーザ定義の編集」ダイアログボックス

名前

カスタマイズしたアップデートグループの名前(変更できません)

説明

カスタマイズしたアップデートグループの説明(コメント)。

コンポーネントの一覧

選択できるコンポーネントグループ。

選択されたコンポーネント

ユーザ定義のグループにコピーされたコンポーネントグループ。

>>

すべてのコンポーネントグループをユーザ定義のグループに転送します。

>

選択したコンポーネントグループをユーザ定義のグループに転送します。

<

選択したコンポーネントグループをユーザ定義のグループから削除します。

<<

すべてのコンポーネントグループをユーザ定義のグループから削除します。

元に戻す

ダイアログボックスで最後に実行した操作を元に戻します。

5.3 ダウンロードマネージャのメインウィンドウ

ダウンロードマネージャでは、ダウンロードタスクを定義します。タスクを実行する日時と頻度を設定し、選択したサーバを割り当ててダウンロードタスクを有効化します。すでに実行したダウンロードタスクについての情報も表示できます。

ダウンロードサービスは定義されたダウンロードタスクを使用して割り当てられたサーバへのアップデートを検索し、アップデートをデフォルトリポジトリにロード

し、ダウンロードタスクが有効にされているサーバ上でアップデートを実行する必要があるかどうかを確認します。

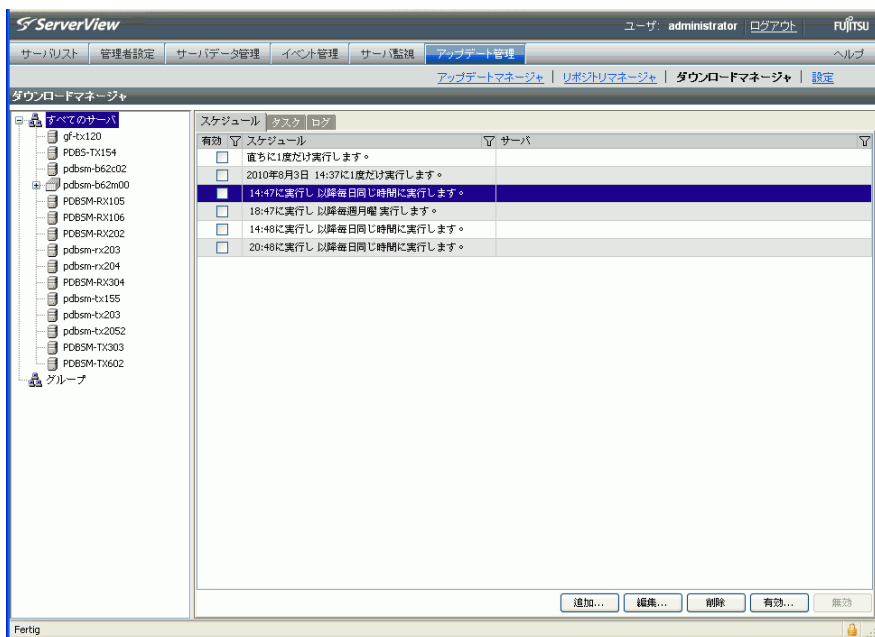


図 42: ダウンロードマネージャのメインウィンドウ

ダウンロードマネージャのメインウィンドウには、上から下に向かって以下のセクションがあります。

- ServerView Suite ヘッダー
- ServerView Suite メニューバー
- ワークエリア。左側にツリー構造、右側に各種タブがあります。

5.3.1 ツリービュー

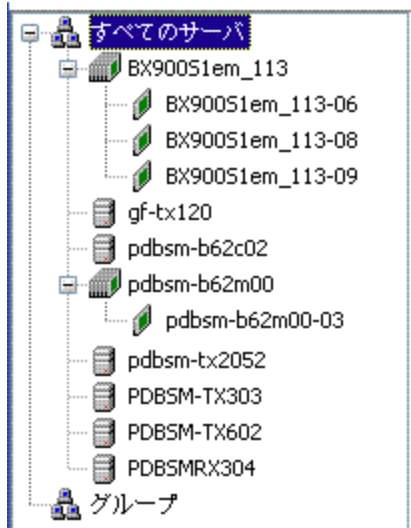


図 43: ダウンロードマネージャのツリー構造

ダウンロードマネージャの左側の領域には、ツリー構造があります。ドメイン内およびカスタマイズされたグループ内のすべてのサーバが、ツリー構造に表示されます。

すべてのサーバ

アップデイトマネージャがサポートする、ドメイン内のサーバを表示します。

グループ

ユーザが定義したグループを表示します。

5.3.2 「スケジュール」タブ

「スケジュール」タブには、現在使用できるすべてのダウンロードタスクが表示されます。新しいダウンロードタスクの作成、既存のダウンロードタスクの変更、削除、有効化、無効化を実行できます。

ダウンロードタスクを作成する際、ダウンロードタスクの実行日時と頻度、保存する関連ログファイルの数を定義します。ダウンロードタスクを使用するには、「有効」ボタンによりサーバをタスクに割り当てます。タスクに割り当てられたサーバに対するアップデートの検索が後で実行されます。

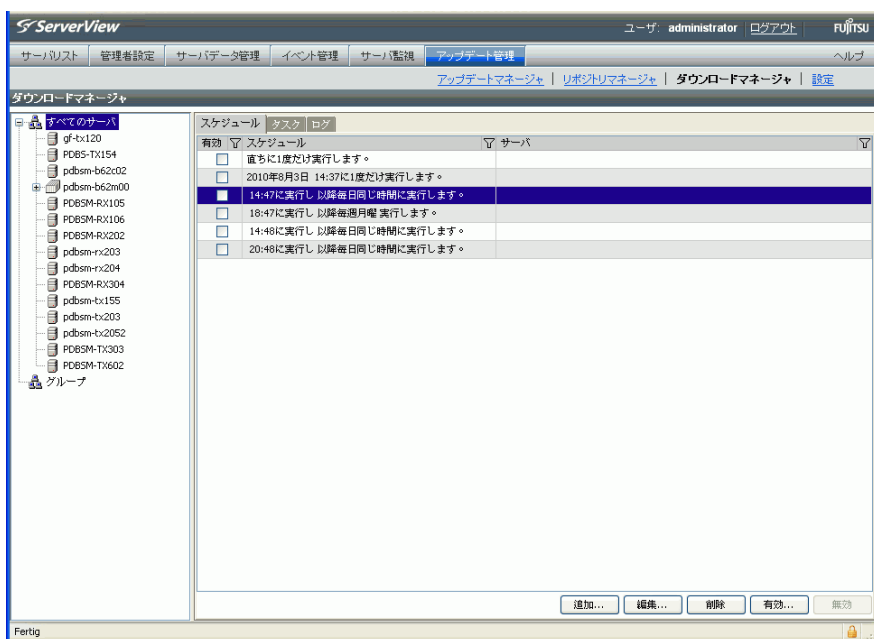


図 44: 「スケジュール」タブ

有効

ダウンロードタスクに少なくとも 1 台のサーバが割り当てられているかどうかを示します。

スケジュール

ダウンロードタスクに指定されたダウンロードスケジュールのサマリを表示します。

サーバ

ダウンロードタスクに割り当てられたサーバの名前を表示します。

ボタン

追加...

ダイアログボックスが開き、新しいダウンロードタスクを指定します。

編集...

ダイアログボックスが開き、テーブルで選択したダウンロードタスクを変更できます。

削除

テーブルで選択したダウンロードタスクを削除します。

ただし、サーバが割り当てられていない場合にのみ、ダウンロードタスクを削除できます。

有効...

ダイアログボックスが開き、テーブルで選択したダウンロードタスクに 1 台以上のサーバを割り当てられます。

無効

テーブルで選択したダウンロードタスクを停止します。すべてのサーバがダウンロードタスクから削除されます。

5.3.3 「タスク」タブ

このタブには、ドメイン内の使用できるサーバの概要が表示されます。「スケジュール」列には、サーバがダウンロードタスクに割り当てられているかどうかと、割り当てられている場合は対応するタスクが表示されます。

特定のサーバまたはグループをツリー構造(左側)から選択すると、このタブに表示するサーバ数を制限できます。

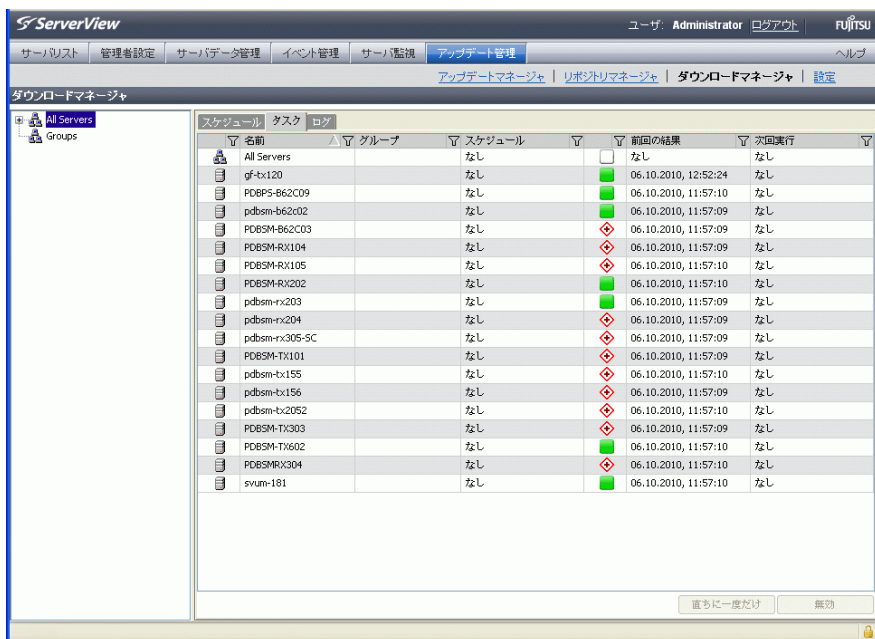


図 45: 「タスク」タブ

サーバアイコン

最初の列のアイコンは、対応するサーバのステータスを示します。



サーバは使用可能です。



サーバは使用できません。



ブレードシステムは使用可能です。



ブレードシステムは使用できません。



クラスタは使用可能です。



クラスタは使用できません。

名前

サーバの名前を表示します。

グループ

サーバグループの名前を表示します。

スケジュール

ダウンロードタスクのダウンロードスケジュールのサマリを表示します。

ステータスアイコン



白:タスクが実行されていない、またはステートメントがありません。



緑:チェックが正常に実行され、ダウンロードは不要です。



赤:エラーが発生しました。



チェックが正常に実行され、ダウンロードは成功しました。



チェックまたはダウンロードの実行中です。

前回の結果

アップデートの検索が最後に正常に実行された日時を表示します。

次回実行

アップデートの検索が次に実行される日時を表示します。

ボタン

直ちに一度だけ

このボタンをクリックすると、テーブルで選択したサーバのアップデートの検索が開始します。

無効

テーブルで選択したサーバを、割り当てられたダウンロードタスクから除外します。

5.3.4 「ログ」タブ

このタブには、すでに完了したダウンロードタスクについての情報が表示されます。

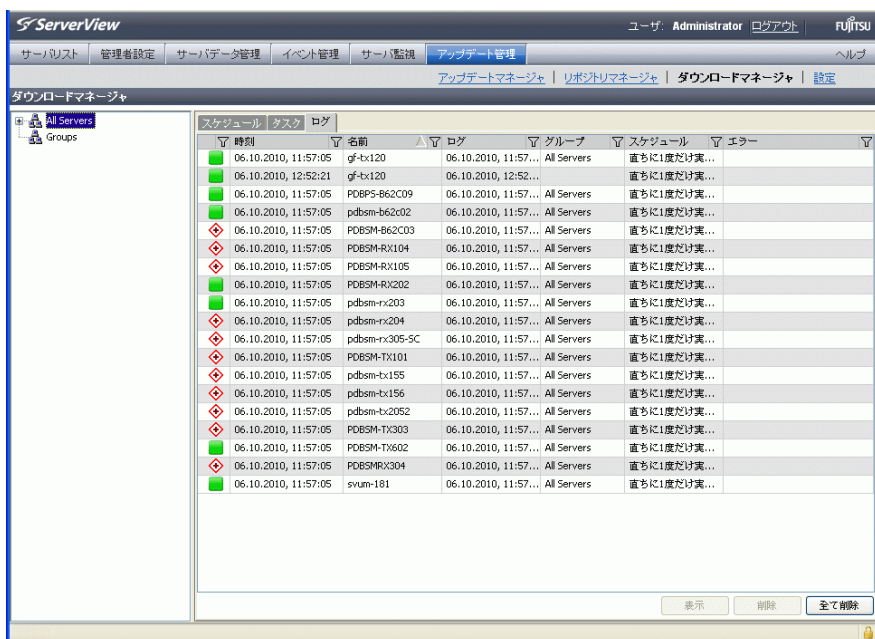


図 46: 「ログ」タブ

ステータスアイコン



緑:チェックが正常に実行され、ダウンロードは不要です。



赤:エラーが発生しました。



チェックが正常に実行され、ダウンロードは成功しました。

時刻

ダウンロードタスクの開始時刻を示します。

名前

サーバの名前を表示します。

ログ

ログファイルの作成時刻を表示します。

グループ

グループタスクのサーバグループ名を表示します。

スケジュール

このエントリに属するダウンロードタスクの説明が表示されます。

ダウンロードタスクのプロパティが変更されたり、ダウンロードタスクが削除されたりすると、説明は変化します。

エラー

エラーが発生した場合に、ダウンロードタスクのエラー原因を表示します。

ボタン

表示

テーブルで選択したダウンロードタスクのログファイルを表示します。

削除

テーブルで選択したダウンロードタスクのログファイルを削除します。

全て削除

すべてのログファイルを削除します。

5.3.5 ダイアログボックス

ダウンロードマネージャには、以下のダイアログボックスがあります。

- ダウンロードサーバタスクの追加ダイアログボックス
- ダウンロードサーバタスク設定の編集ダイアログボックス
- ダウンロードサーバタスクの有効化ダイアログボックス

5.3.5.1 ダウンロードサーバタスクの追加ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、ダウンロードタスクを実行する日時と頻度、関連するログファイルを保存するかどうかを指定します。

ダイアログボックスは「スケジュール」タブで「追加...」をクリックすると開きます。



図 47: ダウンロードサーバタスクの追加ダイアログボックス

開始日時選択

ダウンロードタスクを実行する日時をここで指定します。

直ちに実行 ダウンロードタスクが有効にされたら直ちに開始します。

実行時刻設定 ダウンロードタスクを指定された時刻に開始します。
日付、時間、分を選択します。

実行間隔

ダウンロードタスクを実行する頻度をここで指定します。

1度だけ実行 ダウンロードタスクを1度だけ実行します。

時・分単位で指定 ダウンロードタスクを1時間ごとに実行します。
(このオプションは現在使用できません)

日単位で指定 ダウンロードタスクを1日ごとに実行します。

週単位で指定 ダウンロードタスクを1週間ごとに実行します。

月単位で指定 ダウンロードタスクを1か月ごとに実行します。

ログデータの履歴

ここでは、ログファイルを保存するかどうか、保存する場合はファイル数を指定します。

前回分のみ 最新のログファイルを保存します。
保存する最新のログファイル数を指定できます。

なし ログファイルを保存しません。

全て すべてのログファイルを保存します。

サマリ

指定された値のサマリがこの出力フィールドに表示されます。

ボタン

作成

ダウンロードタスクに入力された値を保存し、ダイアログボックスを閉じます。

閉じる

入力された値を破棄し、ダイアログボックスを閉じます。

ヘルプ

現在のダイアログボックスのヘルプを開きます。

5.3.5.2 ダウンロードサーバタスクの編集ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、ダウンロードタスクが実行される日時と保存する関連ログファイル数の設定を変更できます。

このダイアログボックスを表示するには、「スケジュール」タブで編集するダウンロードタスクを選択し、「編集...」をクリックします。

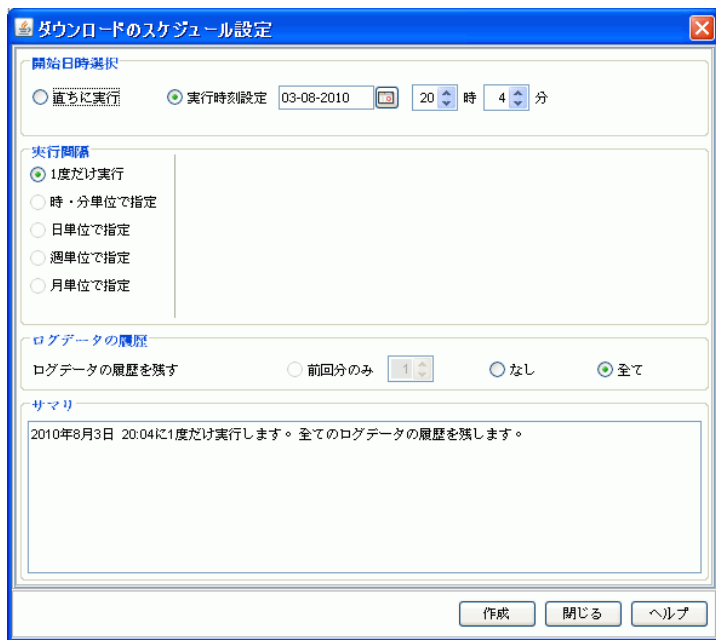


図 48: ダウンロードサーバタスクの編集ダイアログボックス

開始日時選択

ダウンロードタスクを実行する日時をここで指定します。

直ちに実行	ダウンロードタスクが有効にされたら直ちに開始します。
実行時刻設定	ダウンロードタスクを指定された時刻に開始します。 日付、時間、分を選択します。

実行間隔

ダウンロードタスクを実行する頻度がここに表示されます。

表示された値は変更できません。

1度だけ実行	ダウンロードタスクを1度だけ実行します。
時・分単位で指定	ダウンロードタスクを1時間ごとに実行します。 (このオプションは現在使用できません)
日単位で指定	ダウンロードタスクを1日ごとに実行します。
週単位で指定	ダウンロードタスクを1週間ごとに実行します。
月単位で指定	ダウンロードタスクを1か月ごとに実行します。

ログデータの履歴

ここでは、ログファイルを保存するかどうか、保存する場合はファイル数を指定します。

前回分のみ	最後のログファイルのみを保存します。 ログファイルの個数を指定できます。
なし	ログファイルを保存しません。
全て	すべてのログファイルを保存します。

サマリ

指定された値のサマリがこの出力フィールドに表示されます。

ボタン

作成

ダウンロードタスクに入力された値を保存し、ダイアログボックスを閉じます。

閉じる

入力された値を破棄し、ダイアログボックスを閉じます。

ヘルプ

現在のダイアログボックスのヘルプを開きます。

5.3.5.3 ダウンロードサーバタスクの有効化ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、ダウンロードタスクに 1 つまたは複数のサーバを割り当てます。

このダイアログボックスを表示するには、「スケジュール」タブで編集するダウンロードタスクを選択し、「有効...」をクリックします。

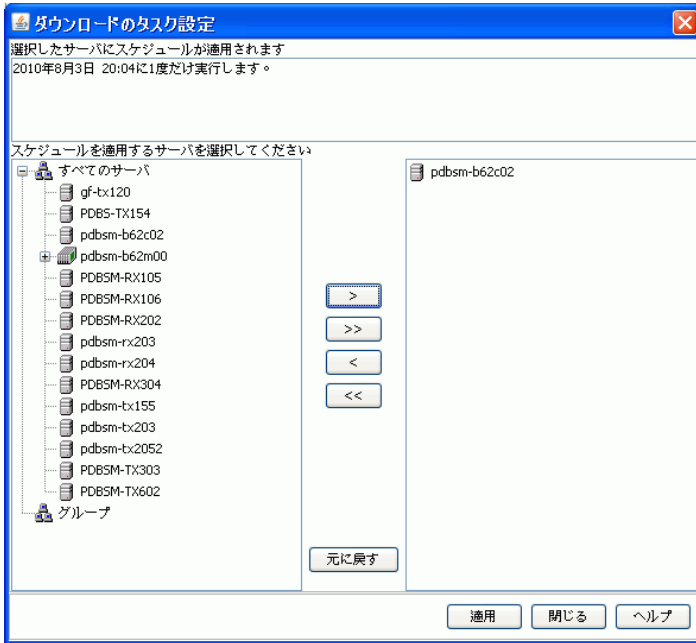


図 49: ダウンロードサーバタスクの有効化ダイアログボックス

ウィンドウ上部の出力フィールドには、ダウンロードタスクに指定された値の概要が表示されます。

ウィンドウの左側にはツリー構造があり、ドメインおよびカスタマイズされたグループでの使用できるすべてのサーバが表示されます。ダウンロードタスクに割り当てるサーバをここで選択します。

ウィンドウの右側には、ダウンロードタスクに割り当てられたサーバのリストがあります。

ボタン

>>

左側のリストから、右側のダウンロードタスクに割り当てられたサーバのリストに、すべてのサーバをコピーします。

>

左側のリストで選択されたサーバを、右側のダウンロードタスクに割り当てられたサーバのリストにコピーします。

<

右側のリストで選択されたエントリを、ダウンロードタスクに割り当てられたサーバのリストから削除します。

<<

ダウンロードタスクに割り当てられたサーバのリストからのすべてのエントリを右側のウィンドウから削除します。

元に戻す

ダイアログボックスで最後に実行した操作を元に戻します。

適用

現在の設定を保存してダイアログボックスを閉じます。

閉じる

すべての変更内容を破棄してダイアログボックスを閉じます。

ヘルプ

現在のダイアログボックスのヘルプを開きます。

5.4 設定のメインウィンドウ

メインウィンドウには、以下の要素があります(上から下の順)。

- ServerView Suite ヘッダー
- ServerView Suite メニューバー
- タブ付きのワークエリア



「メール設定」および「ダウンロード設定」タブは、ソフトウェアのアップデートにリモートリポジトリを設定している場合には、無効(グレー表示)となります。

これらのタブは、ソフトウェアをダウンロードサービス(ダウンロードマネージャ)経由でアップデートする際のみ、必要です。

5.4.1 「一般設定」タブ

以下に示す設定パラメータが「一般設定」タブに表示されます。

プロパティを変更するには、「設定変更」をクリックします。

5 ユーザーインターフェース

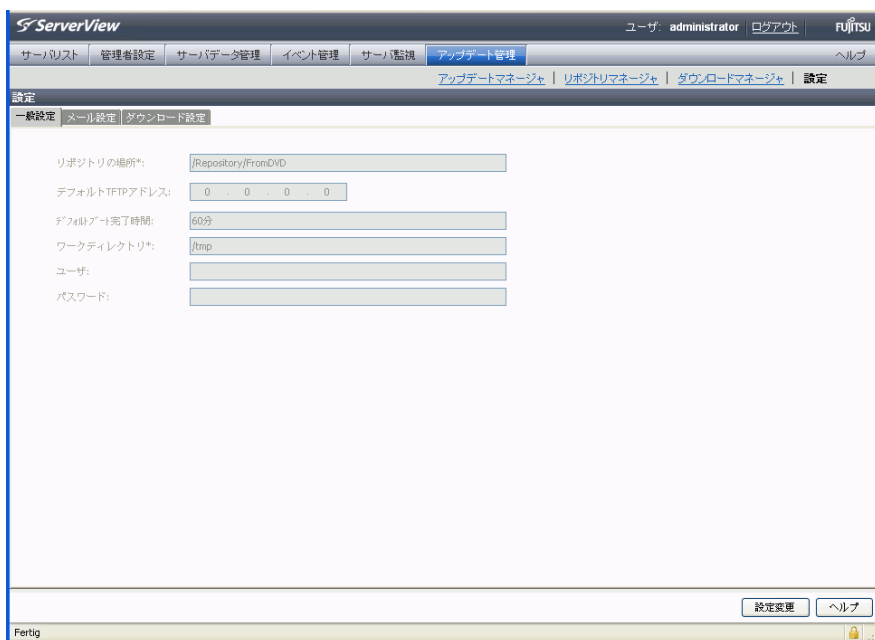


図 50: 「一般設定」タブ

リポジトリの場所

リポジトリの絶対パス。

デフォルトTFTPアドレス

TFTP サーバの IP アドレス(マネジメントブレードなど、TFTP サーバ経由でアップデートされるコンポーネント用)。

デフォルトブート完了時間

アップデートされたサーバがリブート後に再起動するまでにアップデートマネージャが待機する時間。ここに入力した時間は、アップデート中にサーバを使用できなくなる時間に加算されます。この時間を超過した場合、ジョブのステータスは「エラー」に設定されます。

ワークディレクトリ

ワークディレクトリの名前。ワークディレクトリには、ログファイルと一時的な情報ファイルが含まれます。各サーバに対して、ワークディレクトリ内の `versionviewsav` ディレクトリ配下にディレクトリが作成されます。

メモリ要件は、アクティブ化されるトレースレベルに応じて異なります。デフォルト設定の場合、各サーバに 30 MB が必要です。

-  ワークディレクトリは、ServerView Operations Manager のアップデートインストールまたはアンインストール時を除き、自動的にクリーンアップされません。定期的に手動で削除する必要があります。クリーンアップは、ServerView サービスおよびダウンロードサービスが停止されたときのみ実行してください。

Windows 管理用サーバの場合のみ:

リポジトリがローカル管理用サーバではなくネットワーク内の別のシステム上にある場合:

ユーザ

リポジトリが存在する、ネットワーク内のシステムでのユーザ名。

パスワード

リポジトリが存在する、ネットワーク内のシステムでのパスワード。

ボタン

設定変更

設定ウィザードを開始します。

5.4.2 「メール設定」タブ

 「メール設定」タブは、ソフトウェアのアップデートにリモートリポジトリを設定している場合には、無効(グレー表示)となります。

このタブは、ソフトウェアをダウンロードサービス(ダウンロードマネージャ)経由でアップデートする場合のみ、必要です。

「メール設定」タブには、ダウンロードサービス経由でダウンロードされた新規のアップデートについて通知を受けるユーザのメール設定が表示されます。

プロパティを変更するには、「設定変更」をクリックします。

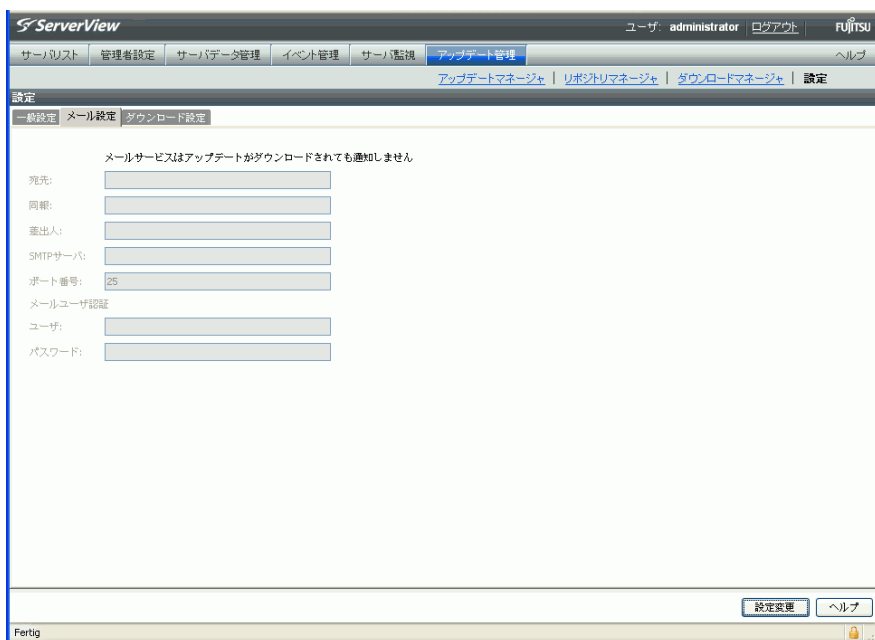


図 51: 「メール設定」タブ

コメントには、現在のダウンロードサービスのメール設定に関するメッセージが表示されます。

以下のいずれかのメッセージが表示されます。

- メールサービスはアップデートがダウンロードされても通知しません
- 以下の設定でメールサービスはアップデートがダウンロードされたときに通知します:

宛先

電子メールの受信者のアドレス。

複数のアドレスを入力した場合、これらはカンマで区切られます。

同報

追加の受信者アドレス。

複数のアドレスを入力した場合、これらはカンマで区切られます。

差出人

送信者の電子メールアドレス。

SMTPサーバ

SMTP サーバの IP アドレス。

ポート番号

SMTP サーバのポート番号。

ユーザ

メールサーバにログオンするためのユーザ ID。

パスワード

メールサーバにログオンするためのパスワード。

ボタン

設定変更

設定ウィザードを開始します。

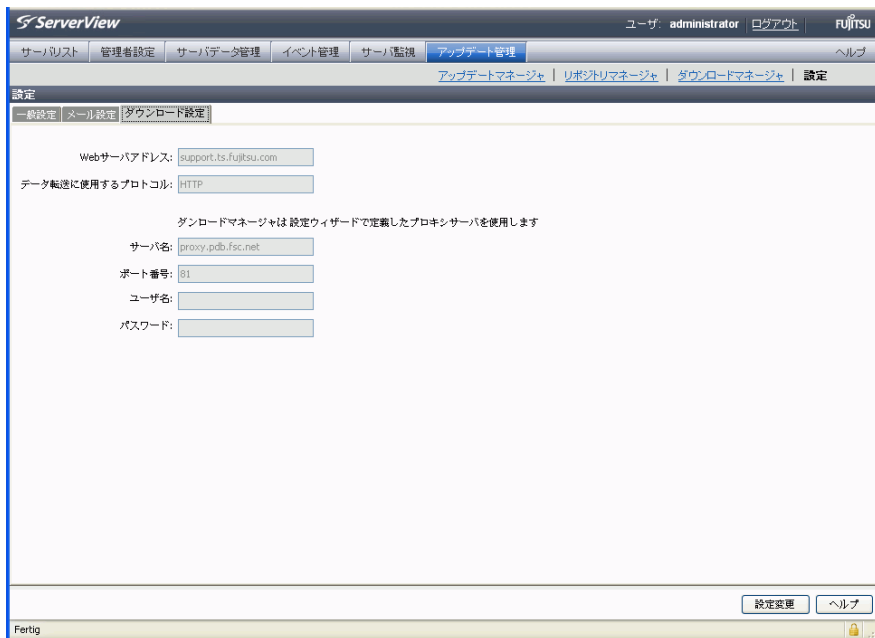
5.4.3 「ダウンロード設定」タブ

 「ダウンロード設定」タブは、ソフトウェアのアップデートにリモートリポジトリを設定している場合には、無効(グレー表示)となります。

このタブは、ソフトウェアをダウンロードサービス(ダウンロードマネージャ)経由でアップデートする際のみ、必要です。

「ダウンロード設定」タブには、富士通Webサーバへの接続の詳細が表示されます。このサーバを使用して、ダウンロードサービスは新しいアップデートをダウンロードします。

表示された設定を変更するには、「設定変更」をクリックします。



ServerView ユーザ: administrator ログアウト FUJITSU

サーバリスト 管理者設定 サーバデータ管理 イベント管理 サーバ監視 アップデート管理 ヘルプ

アップデートマネージャ | リポジトリマネージャ | ダウンロードマネージャ | 設定

設定

一般設定 メール設定 **ダウンロード設定**

Webサーバアドレス: support.ts.fujitsu.com

データ転送に使用するプロトコル: HTTP

ダウンロードマネージャは 設定ウィザードで定義したプロキシサーバを使用します

サーバ名: proxy.pdb.fsc.net

ポート番号: 81

ユーザ名:

パスワード:

設定変更 ヘルプ

Fertig

図 52: 「プロキシ設定」タブ

Webサーバアドレス

ダウンロードサービスで使用する Web サーバの URL。デフォルトは Fujitsu Technology Solutions の Web サーバです。

データ転送に使用されるプロトコル

Webサーバからのデータ転送に使用するプロトコルのタイプ

コメントには、現在の接続の種類が表示されます。

以下のいずれかのメッセージが表示されます。

- ダウンロードマネージャは管理用サーバで定義されているプロキシ設定を使用します。
- ダウンロードマネージャは設定ウィザードで定義したプロキシサーバを使用します。
- ダウンロードマネージャのプロキシは現在設定されていません。

Windows 管理用サーバで事前定義されているプロキシ設定を検索する例：

「スタート」-「コントロールパネル」-「インターネットオプション」-「接続」-「LAN の設定」の順にクリックします。

サーバ名

プロキシサーバの名前または IP アドレス

ポート番号

プロキシサーバで使用されるポートの番号

ユーザ名

プロキシサーバにログオンするためのユーザ名 (ID)

パスワード

プロキシサーバにログオンするためのパスワード

ボタン

設定変更

設定ウィザードを開始します。

5.4.4 設定ウィザード

このウィザードを使用して、アップデート管理のグローバルパラメータを設定します。ウィザードには複数のステップがあります。必要なすべてのステップが、左側にツリー構造で表示されます。

「次へ」または「戻る」を選択して、ウィザードのステップ間を移動できます。ステップに必須パラメータがある場合、必須の値を入力するまで「次へ」は無効になっています。

このウィザードは、アップデート管理に最初にアクセスしたときに自動的に開きます。

このウィザードは「**設定変更**」をクリックしていつでも開くことができます。

5.4.4.1 「開始」ステップ(設定ウィザード)

「開始」はウィザードの最初のステップです。

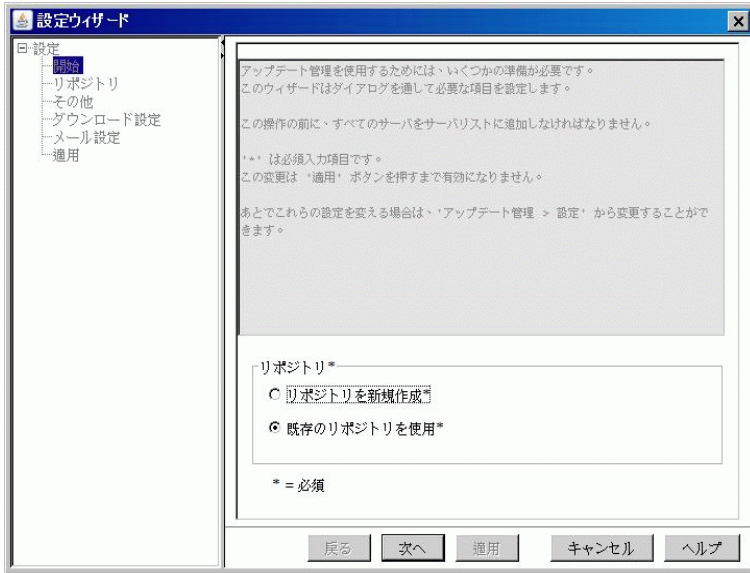


図 53:「開始」ステップ

リポジトリ

次のいずれかを指定します。

- 新しいリポジトリを作成する
- 既存のリポジトリを使用する

5.4.4.2 「リポジトリ」ステップ(設定ウィザード)

「開始」ステップでの選択内容(「**既存のリポジトリを使用**」または「**リポジトリを新規作成**」)に応じて、このダイアログに表示されるフィールドは異なります。

既存のリポジトリを使用

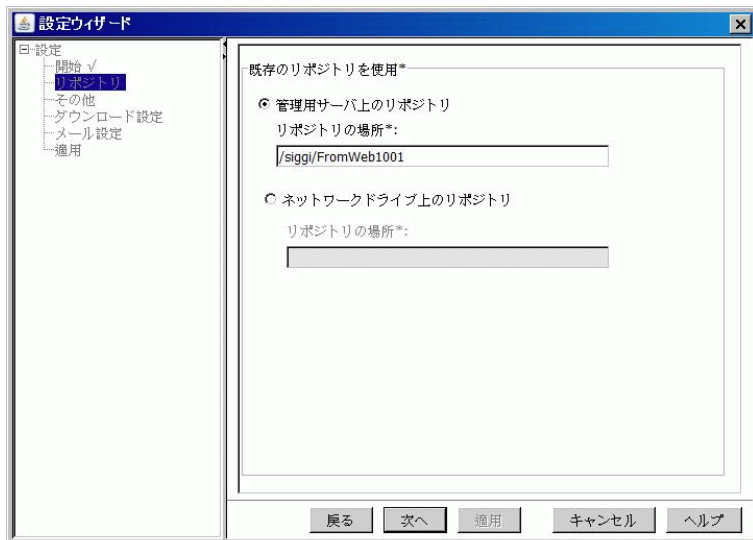


図 54: 「既存のリポジトリを使用」ステップ

管理用サーバ上のリポジトリ

リポジトリはローカル管理用サーバ上にあります。

リポジトリの場所

管理用サーバ上のリポジトリの絶対パス。

Windows の場合の形式 :<ドライブ文字>:\<ディレクトリ名>¥...

Linux の場合の形式 :/<ディレクトリ名>/...

リポジトリがある **globalflash** ディレクトリは、このパスには指定されていません。

ネットワークドライブ上のリポジトリ

リポジトリはネットワーク内の別のシステム上にあります。

リポジトリの場所(UNC パス)

ネットワークドライブ上のリポジトリの絶対パス。

Windows :

UNC 表記を使用します。

¥¥<サーバ名>¥<共有名>¥<パス>

ユーザ

リポジトリが存在する、ネットワーク内のシステムでのユーザ名。

パスワード

リポジトリが存在する、ネットワーク内のシステムでのパスワード。

接続テスト

ネットワーク内のシステムへの接続をテストします。

Linux :

リブートのたびに、管理者が手動でリモートドライブをマウントする必要があります。

//<絶対パス名>



マウントポイント自体とそのディレクトリには、ユーザ *svuser* に対する読み取り/**実行**アクセス権が必要です。

リポジトリを新規作成

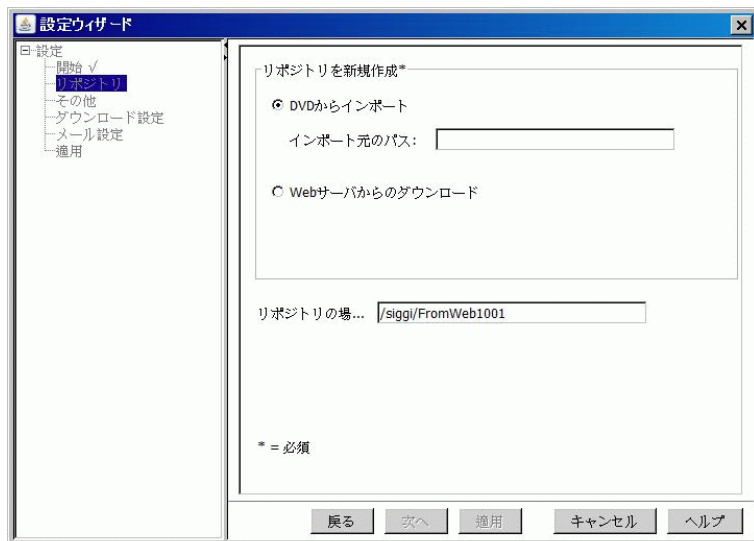


図 55: 「リポジトリを新規作成」ステップ

DVDからインポート

ServerView Suite DVD 1 またはUpdate DVDからリポジトリをインポートします。

インポート元のパス

インポートするリポジトリのDVD上での絶対パス。

例:

Windows : E:¥Firmware

Linux : /media/Firmware

Webサーバからのダウンロード

富士通Web サーバからリポジトリをロードします。

リポジトリの場所

管理用サーバ上のリポジトリの絶対パス。

指定したディレクトリが存在しない場合は、作成されます。

指定したディレクトリがすでに存在している場合は、警告が発行されます。続行すると、指定したディレクトリ内のすべてのファイルとディレクトリが削除されます。次に、指定したディレクトリ内にリポジトリが作成されます。



Linux:

ユーザ **svuser** には、リポジトリディレクトリとその下のサブディレクトリを作成する権限が必要です。

5.4.4.3 「その他」ステップ(設定ウィザード)

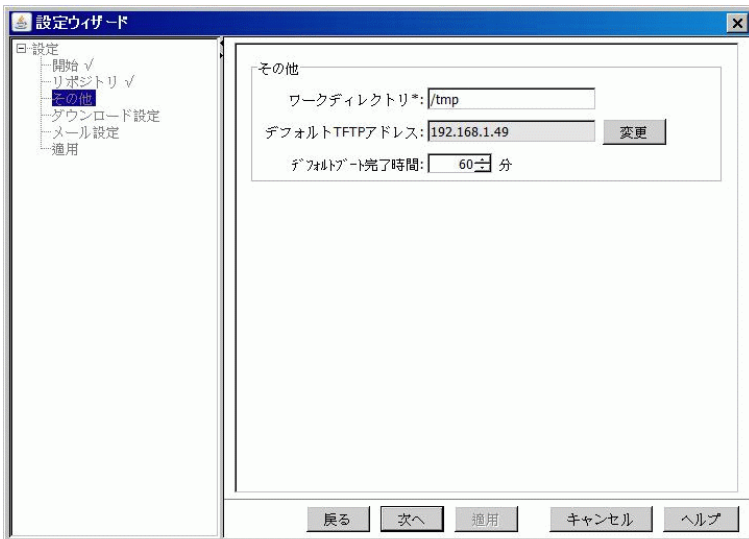


図 56: 「その他」ステップ

ワークディレクトリ

ワークディレクトリの名前。

ワークディレクトリの絶対パスを入力します。

次のいずれかの操作を行います。

- 既存のワークディレクトリ名を入力します。
- 新しいワークディレクトリを指定します。この場合、ディレクトリは自動的に作成されます。

ワークディレクトリにはローカルディレクトリが作成され、各管理対象サーバのログ ファイルおよび情報ファイル用のサブディレクトリがここに作成されます。

ワークディレクトリの名前を以下の形式で入力します。

Windows :

<ドライブ文字>:\<ディレクトリパス>\<ディレクトリ名>

Linux :

/<ディレクトリパス>/<ディレクトリ名>

ユーザ **svuser** には、ワークディレクトリの下にサブディレクトリを作成する権限が必要です。

デフォルトTFTPアドレス

TFTP サーバの IP アドレス(マネジメントブレードなど、TFTP サーバ経由でアップデートされるコンポーネント用)。

変更

「**IP アドレスの変更**」ダイアログボックスが開きます。ここで新しい TFTP アドレスを入力して、新しい TFTP アドレスへの接続の確立をテストできます。

デフォルトブート完了時間

アップデートされたサーバがリブートするまでにアップデートマネージャが待機する時間。ここに入力した時間は、アップデート中にサーバを使用できなくなる時間に加算されます。

5.4.4.4 「ダウンロード設定」ステップ(設定ウィザード)

このダイアログでは、**ダウンロードサービス**のプロキシ設定を定義します。

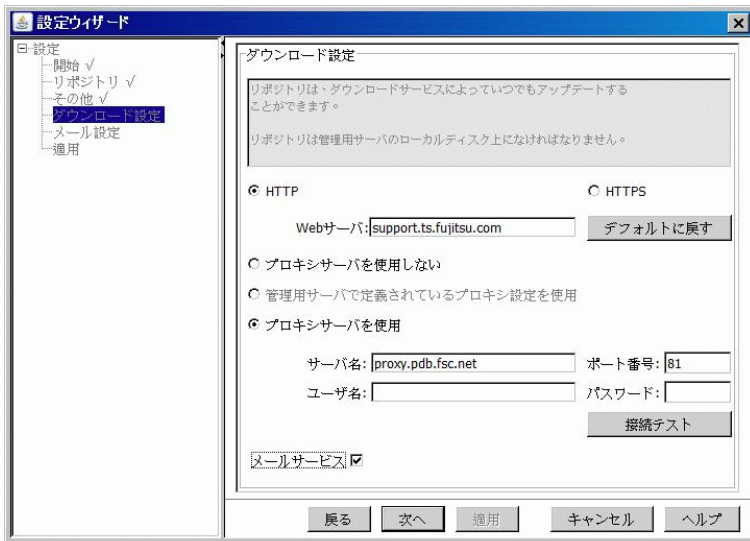


図 57:「ダウンロード設定」ステップ

HTTP/HTTPS

富士通Webサーバとの通信に使用するプロトコルを選択します。

Webサーバ

ダウンロードサービスの Web サーバの URL を入力します。デフォルトは 富士通Web サーバです。

デフォルトに戻す

Web サーバのアドレスをデフォルト値の富士通Webサーバにリセットします。これは、ユーザが自分の Web サーバをテストするために値を変更した場合などに役立ちます。

プロキシサーバを使用しない

このオプションは、プロキシサーバを使用せずに**ダウンロードマネージャ**を使用する場合に有効にします。**ダウンロードマネージャ**はすべてのプロキシ設定を無視します。

管理用サーバで定義されているプロキシ設定を使用

このオプションは、管理用サーバで定義されているプロキシ設定を使用する場合に有効にします。

このオプションは、Windows の場合にのみ使用できます。

Windows 管理用サーバで事前定義されているプロキシ設定を検索する例：

「スタート」-「コントロールパネル」-「インターネットオプション」-「接続」-「LAN の設定」の順にクリックします。

プロキシサーバを使用

このオプションは、**ダウンロードマネージャ**に対してのみ定義されたプロキシサーバを使用する場合に有効にします。

プロキシサーバの**ポート**の詳細については、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

サーバ名

使用するプロキシサーバの名前または IP アドレス

ポート番号

プロキシサーバで使用されるポートの番号

ユーザ名

プロキシサーバにログオンするためのユーザ名 (ID)

パスワード

プロキシサーバにログオンするためのパスワード

接続テスト

Web サーバへの接続をテストします。

メール設定

このオプションを有効にすると、次のステップは「**メール設定**」になります。

「**メール設定**」ステップでは、ダウンロードサービスによってダウンロードされた新しいアップデートについてメール通知したい人を登録できます。

このオプションを無効にすると、次のステップは「**適用**」になります。

5.4.4.5 「ダウンロードサービスのメール設定」ステップ(設定ウィザード)

このステップは、前のステップで「メール設定」オプションを選択した場合にのみ表示されます。ここでは、ダウンロードサービスでダウンロードした新しいアップデートについて電子メールで通知されるユーザを定義します。

図 58: 「メール設定」ステップ

宛先

電子メールの受信者のアドレス。

複数のアドレスを入力した場合、これらはカンマで区切られます。

同報

追加の受信者アドレス。

複数のアドレスを入力した場合、これらはカンマで区切られます。

差出人

送信者の電子メールアドレス。

SMTPサーバ

SMTP サーバの IP アドレス。

ポート番号

SMTP サーバのポート番号。

ユーザ

メールサーバにログオンするためのユーザ ID。

パスワード

メールサーバにログオンするためのパスワード。

パスワード確認

確認のために、同じパスワードを入力します。

接続テスト

SMTP サーバへの接続をテストします。

5.4.4.6 「適用」ステップ(設定ウィザード)

「適用」はウィザードの最後のステップです。

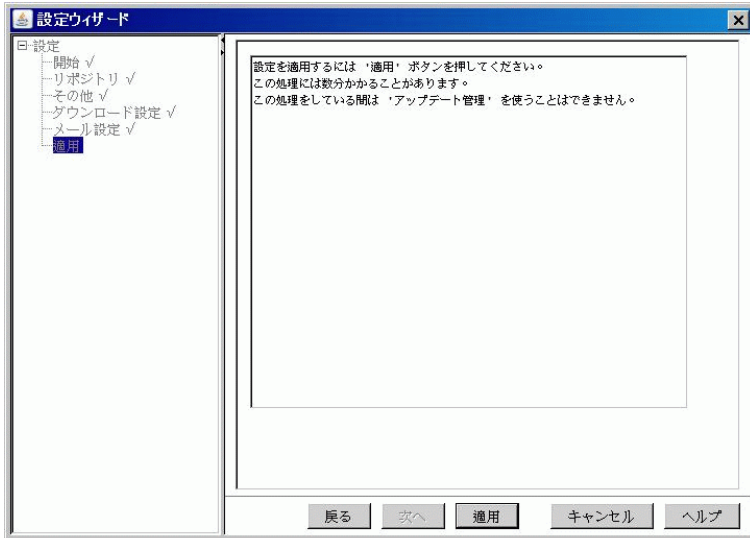


図 59: 「適用」ステップ

適用

データベースのパラメータ変更を適用します。リポジトリを変更した場合は、すべてのサーバのインベントリデータが再作成されます。新しいリポジトリデータがデータベースに読み込まれます。リモートリポジトリの使用を選択した場合は、時間がかかります(ネットワークに依存します)。

5.5 フィルタダイアログボックス

「<列名> 列のフィルタ」ダイアログボックスのタブを使用して、テーブルに表示するテーブルエントリを指定できます。テーブルにはデフォルトですべての行が表示されます。テーブルは、列および以下の基準でフィルタできます。

- 特定の値(「**標準**」タブ)
- 値範囲。複数の値を指定できます(「**カスタマイズ**」タブ)

ダイアログボックスを開くには、テーブルヘッダーのフィルタアイコン  をクリックします。フィルタを実行できる各列に対してフィルタアイコンが表示されます。

5.5.1 標準(フィルタダイアログボックス)

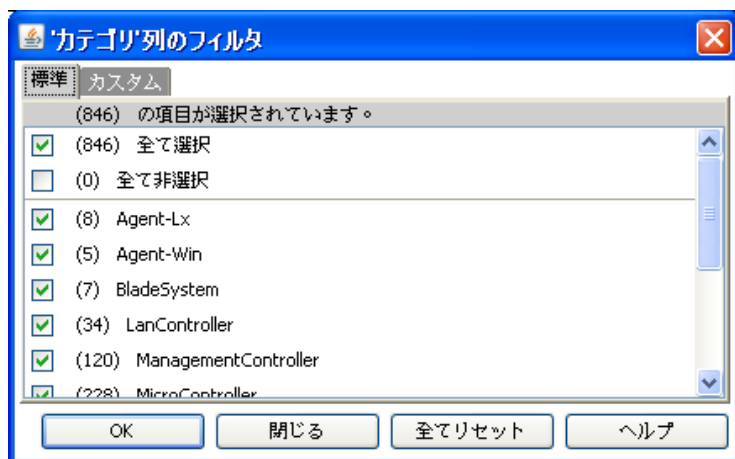


図 60: フィルタダイアログボックスの「標準」タブ

「標準」タブでは、すべての値と選択した列での発生頻度を表示します。

全て選択	表示するすべてのテーブル行を選択します
全て非選択	すべてのテーブル行を選択解除します
<値>	選択した値を持つすべてのテーブル行を表示します

5.5.2 文字列(フィルタダイアログボックス)

「カスタム」タブに、文字列を入力できます。選択した列において、この文字列と一致するテーブル行が表示されます

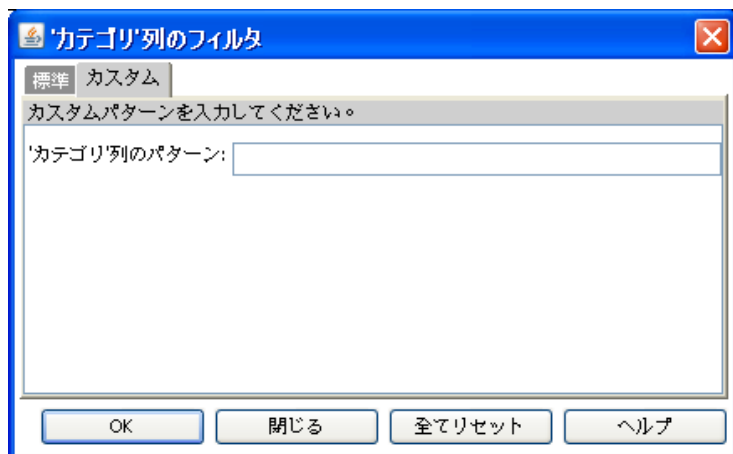


図 61: フィルタダイアログボックスの文字列タブ

＜列名＞ 列のパターン

文字列はフィルタ条件として機能します。文字列には任意の英数字と、以下のプレースホルダを使用できます。

- ? 1 文字を表します
- * 任意の数の文字を表します
- ¥ 文字*と?を使用してフィルタリングできるワイルドカード文字です

例:

¥* は、フィルタリングされた列にアスタリスクを 1 文字含むすべての行を示します。

フィルタ条件として、任意の文字数を入力できます。正規表現によるフィルタリングは実行できません。

5.5.3 整数値(フィルタダイアログボックス)

「カスタム」タブに、特定の数値範囲を入力できます。選択した列において、この数値範囲と一致するテーブル行が表示されます。

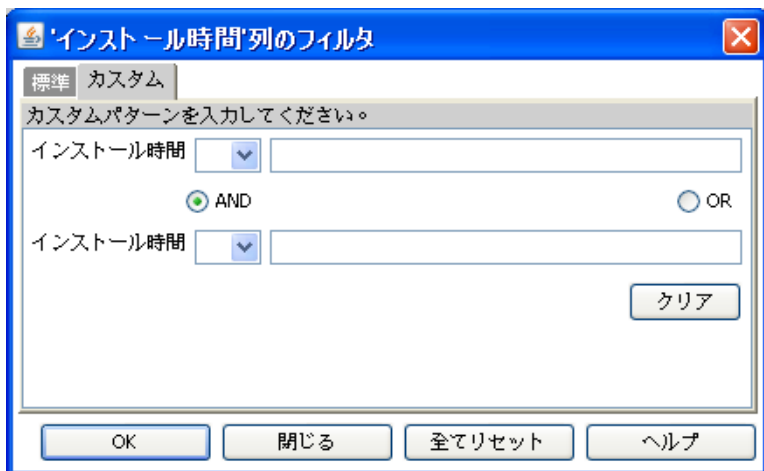


図 62: フィルタダイアログボックスの整数値タブ

<列名>

論理演算子のリストと、範囲の開始値の入力フィールドがあり、条件の作成に使用できます。

論理演算子 AND または OR

AND 両方の条件を満たす必要があります

OR 片方の条件を満たす必要があります

<列名>

論理演算子のリストと、範囲の終了値の入力フィールドがあり、条件の作成に使用できます。

6 アップデートの管理

アップデート管理のアプリケーションを使用して、サーバとコンポーネントのアップデートを効率的に管理できます。

6.1 アップデートマネージャ

アップデートマネージャにより、中央管理用サーバを利用した、サーバドメイン内のファームウェアおよびソフトウェアコンポーネントのインストールおよびアップデートを実施することができます。

ドライバと追加プロダクトについては、初回インストールが可能です。

以下のコンポーネントについてはアップデートが可能です。

- ファームウェア
- BIOS
- ドライバ
- ServerView エージェント
- ServerView Update エージェント
- 追加プロダクト



管理用サーバ自体は、アップデートでリブートが必要な場合、アップデートマネージャを使用してアップデートできません。この場合、ServerView Suite DVD 1(バージョン 7.812以降)またはUpdate DVDに収録されている Update Manager Express を使用できます。

(注意記号)

サーバリスト上の管理対象サーバのうち、アップデート対象外のサーバ(Updateエージェント未サポート)は、アップデートマネージャ画面に表示されません。

6.1.1 アップデートマネージャを開く

アップデートマネージャを ServerView Operations Manager で開く方法は 2 つあります。

- ServerView Operations Manager の開始ページで、「**アップデート管理**」の「**アップデートマネージャ**」を選択します。

- ServerView メニューバーで、「アップデート管理」の「アップデートマネージャ」を選択します。

メインウィンドウにアップデートマネージャが開きます。

6.1.2 アップデートマネージャを閉じる

メインウィンドウを閉じると、アップデートマネージャが終了します。

- アップデートマネージャのメインウィンドウを閉じるには、ブラウザウィンドウの「閉じる」アイコンをクリックします。

6.1.3 サーバへのログオン

サーバにアクセスするには、アクセスステータスが「不許可」のサーバにログオンする必要があります。

1. 「サーバ詳細」タブで、ログオンするサーバを選択します。[53 ページの「サーバ詳細」タブ](#)を参照してください。
2. 「ログオン」をクリックします。
「ログオン」ダイアログボックスが開きます。
3. このダイアログボックスの左側のテーブルで、選択内容をさらに絞り込みます。



アクセスステータスが「不許可」以外のサーバも選択した場合、これらもテーブルに表示されます。ただし、これらのサーバへログオンしても何も起こりません。

4. 「ユーザ認証」にユーザ ID とパスワードを入力します。
5. 「パスワードの確認と設定」をクリックします。

結果:

サーバへの接続が確立すると、**管理可能** = はいとして示されます。この場合、ログオンデータがチェックされ、選択されたサーバについてアクセス権限が設定されます。アクセスステータスが「不許可」から「許可」に変更され、パスワードが現在のセッションで有効になります。

サーバへの接続が確立できない場合、**管理可能** = いいえとして示されます。この場合、ログオンデータは正しいものとして保存されます。アクセスステータスは「不許可」から「信頼」に変更されます。サーバに再度アクセスできるよう

になると、ステータスは「信頼」から「許可」に変更され、パスワードは現在のセッションで有効になります。

6.1.4 サーバの Update エージェントのリセット

サーバの Update エージェントが不明なステータスで終了した場合、**クリーンアップ**機能を使用してエージェントをリセットする必要がある場合があります。

Update エージェントは、ジョブがエラー「**Pending Jobs**」で終了した場合などはリセットする必要があります。

クリーンアップが正常に実行された後、Update エージェントは正常に動作するようになり、新しいアップデートジョブを実行できます。

1. 「**サーバ詳細**」タブで、該当するサーバを選択します。53 ページの「**サーバ詳細**」タブを参照してください。
2. 「**クリーンアップ**」をクリックします。クリーンアップウィザードが開き、最初のステップ「**ログオン**」が表示されます。
サーバにアクセスするには、アクセスステータスが「**不許可**」のサーバにログオンする必要があります。
3. このダイアログボックスの左側のテーブルにあるタブで、選択内容をさらに絞り込みます。



アクセスステータスが「**不許可**」以外のサーバも選択した場合、これらもテーブルに表示されます。ただし、これらのサーバへログオンしても何も起こりません。

4. 「**ユーザ認証**」にユーザ ID とパスワードを入力します。
5. 「**パスワードの確認と設定**」をクリックします。
 - サーバへの接続が確立すると、**管理可能** = はいとして示されます。この場合、ログオンデータがチェックされ、選択されたサーバについてアクセス権限が設定されます。アクセスステータスは「**不許可**」から「**許可**」に変更されます。
 - サーバへの接続が確立できない場合、**管理可能** = いいえとして示されます。この場合、ログオンデータは正しいものとして保存されます。アクセスステータスは「**不許可**」から「**信頼**」に変更されます。
6. 「**次へ**」をクリックします。「**TFTPの入力**」ステップが開きます。
このステップは、クリーンアップが TFTP を使用して実行される場合にのみ表示されます。
7. テーブルでマネジメントブレードを選択します。

8. TFTP サーバの IP アドレスを「**TFTPアドレス**」フィールドに入力します。
9. MMBS2 の場合のみ：
必要に応じて、「**ブレードアドレス**」フィールドでマネジメントブレードに別の IP アドレスを入力します。**設定ウィザード**を使用して設定した値がデフォルトで表示されます。この値は変更することができ、選択したマネジメントブレードにのみ適用されます。TFTP サーバを使用してアップデートされるその他すべてのコンポーネントについては、このフィールドには何も入力しないでください。
10. 「**適用**」をクリックして、値を受け入れます。
11. テーブルに複数のマネジメントブレードがある場合、各マネジメントブレードについてステップ 7 ~ 10 を繰り返します。
12. 「**次へ**」をクリックします。「**ジョブのスケジュール**」ステップが開きます。
13. 「**実行時刻**」フィールドに、クリーンアップジョブを実行する時刻を指定します。
14. 「**完了**」をクリックしてクリーンアップジョブを完了します。



Update エージェントをクリーンアップすると、すでに サーバに転送されていたすべてのアップデートは削除されます。

6.1.5 サーバのアップデートログの表示

1. 「**サーバ詳細**」タブで、該当するサーバを選択します。[53 ページの「サーバ詳細」タブ](#)を参照してください。
2. 「**詳細を表示**」をクリックします。
3. 「**履歴**」をクリックします。Web ページが開き、サーバで実行されたすべてのジョブについての情報が表示されます。

6.1.6 アップデートに関する詳細情報の表示

1. 「**アップデート詳細**」タブで、詳細情報が必要なアップデートを選択します。[61 ページの「アップデート詳細」タブ](#)を参照してください。
2. 「**詳細を表示**」をクリックします。「**アップデート詳細**」ダイアログボックスが開き、選択したアップデートに関する追加情報が表示されます。[95 ページの「アップデート詳細」ダイアログボックス](#)を参照してください。

6.1.7 ジョブの管理

以下の手順では、ジョブの管理方法について説明します。

6.1.7.1 ジョブの作成

1. 「**アップデート詳細**」タブに移動します。[61 ページの「アップデート詳細」タブ](#)を参照してください。
2. ツリービューの「**サーバ**」タブまたは「**アップデート**」タブで、新しいジョブを作成するグループを選択します。
3. 「**アップデート詳細**」タブの左側で、新しいジョブを作成するコンポーネントグループまたはサーバを選択します。
4. 「**アップデート詳細**」タブの右側で、新しいジョブを作成するサーバ固有のアップデートを選択します。
5. 「**ジョブの作成**」をクリックします。**ジョブ作成ウィザード**が開き、最初のステップ「**ログオン**」が表示されます。サーバにアクセスするには、アクセスステータスが「**不許可**」のサーバにログオンする必要があります。
6. このダイアログボックスの左側のテーブルにあるタブで、選択内容をさらに絞り込みます。



アクセスステータスが「**不許可**」以外のサーバも選択した場合、これらもテーブルに表示されます。ただし、これらのサーバへログオンしても何も起こりません。

7. 「**ユーザ認証**」にユーザ ID とパスワードを入力します。
8. 「**パスワードの確認と設定**」をクリックします。
 - サーバへの接続が確立すると、**管理可能** = はいとして示されます。この場合、ログオンデータがチェックされ、選択されたサーバについてアクセス権限が設定されます。アクセスステータスは「**不許可**」から「**許可**」に変更されます。
 - サーバへの接続が確立できない場合、**管理可能** = いいえとして示されます。この場合、ログオンデータは正しいものとして保存されます。アクセスステータスは「**不許可**」から「**信頼**」に変更されます。
9. 「**次へ**」をクリックします。「**バージョンの変更**」ステップが開きます。

10. 必要に応じて、別のバージョンのアップデートを選択します。
「バージョンの変更」をクリックします。
「アップデート詳細」ダイアログボックスが開きます。
「利用可能バージョン」リストから別のバージョンを選択します。
「閉じる」をクリックします。
11. 「次へ」をクリックします。「ジョブ名の入力」ステップが開きます。
12. 「ジョブ名」フィールドで、新しいジョブに名前を割り当てます。
13. 「説明」フィールドでジョブに説明を割り当てます(オプション)。
14. 「次へ」をクリックします。「TFTPの入力」ステップが開きます。このステップは、TFTP サーバを使用してアップデートされるコンポーネントに対してのみ表示されます。
15. テーブルでマネジメントブレードを選択します。
16. TFTP サーバの IP アドレスを「TFTPアドレス」フィールドに入力します。
17. MMBS2 の場合のみ:
必要に応じて、「ブレードアドレス」フィールドでマネジメントブレードに別のアップデート IP アドレスを入力します。設定ウィザードを使用して設定した値がデフォルトで表示されます。この値は変更することができ、選択したマネジメントブレードにのみ適用されます。TFTP サーバを使用してアップデートされるその他すべてのコンポーネントについては、このフィールドには何も入力しないでください。
18. 「適用」をクリックして、値を受け入れます。
19. テーブルに複数のマネジメントブレードがある場合、各マネジメントブレードについてステップ 15 ~ 18 を繰り返します。
20. 「次へ」をクリックします。「ジョブのスケジュール」ステップが開きます。
21. 「転送開始時刻」フィールドに、ジョブをサーバに転送する時刻を指定します。
22. 「アップデート開始時刻」フィールドに、アップデート段階をサーバで開始する時刻を指定します。
23. システムのリポートが必要なアップデートの場合のみ
(リポート = はいで示される):
「リポート開始時刻」フィールドに、サーバをリポートする時刻を入力します。
24. 「完了」をクリックして新しいジョブを作成します。

6.1.7.2 ジョブのコピー

この手順を使用して、ジョブを選択したサーバにコピーします。

1. 「**ジョブ詳細**」タブで、コピーするジョブを選択します。[64 ページの「ジョブ詳細」タブ](#)を参照してください。
2. 「**ジョブのコピー**」を選択します。**ジョブのコピー**ウィザードが開き、最初の手順「**サーバの選択**」が表示されます。
3. ジョブのコピー先のサーバを「**候補のサーバ**」リストから選択します。
4. 「>」をクリックします。選択したサーバは「**選択されたサーバ**」リストにコピーされます。
5. ジョブのコピー先の各サーバについて、手順 3 と 4 を繰り返します。
6. 「**次へ**」をクリックします。「**ログオン**」ステップが開きます。
7. ユーザ認証が必要なすべてのサーバにログオンします(**エージェントアクセス = 不許可**)。
8. 「**次へ**」をクリックします。「**ジョブ名の入力**」ステップが開きます。
9. 「**ジョブ名**」フィールドで、ジョブに名前を割り当てます。
10. 必要に応じて、「**説明**」フィールドでジョブに説明を割り当てます。
11. 「**次へ**」をクリックします。最後のステップ「**ジョブのスケジュール**」が開きます。
12. 「**転送開始時刻**」フィールドに、ジョブをサーバに転送する時刻を指定します。
13. 「**アップデート開始時刻**」フィールドに、アップデート段階をサーバで開始する時刻を指定します。
14. 「**リブート開始時刻**」フィールドで、サーバをリブートする時刻を指定します(**リブート = はいの場合のみ**)。
15. 「**完了**」をクリックしてコピープロセスを開始します。

6.1.7.3 ジョブのリリース

エラーが発生せずに処理できるジョブを確立した場合（テストコンピュータ上でのテスト実行後など）、これらのジョブを「リリース済」と指定できます。この情報は通知目的のみで、ジョブが各 PRIMERGY サーバで正常に実行できることを示します。

1. 「**ジョブ詳細**」タブで、リリースするジョブを選択します。[64 ページの「ジョブ詳細」タブ](#)を参照してください。
2. 「リリース」をクリックします。「確認」ダイアログボックスが開きます。
3. 「はい」をクリックすると、ジョブのリリースが確定します。

6.1.7.4 ジョブの削除

1. 「**ジョブ詳細**」タブで、削除するジョブを選択します。[64 ページの「ジョブ詳細」タブ](#)を参照してください。
2. 「削除」をクリックします。
「確認」ダイアログボックスが開き、削除するジョブを確認する必要があります。
3. 「はい」をクリックすると、ジョブの削除が確定します。

6.1.7.5 ジョブについての詳細情報の表示

1. 「**ジョブ詳細**」タブで、詳細情報が必要なジョブを選択します。[64 ページの「ジョブ詳細」タブ](#)を参照してください。
2. 「詳細を表示」をクリックします。「**ジョブ詳細**」ダイアログボックスが開きます。

ここでは、失敗したジョブの診断データも表示されます。

6.2 リポジトリマネージャ

リポジトリマネージャには、以下の特徴があります。

- アップデートリポジトリ内の該当するアップデート情報を認識します。
- アップデート情報のプロパティ(重要度など)を変更できます。
- アップデートをリリースできます。
- **Firmware** ファイルディレクトリを ServerView Suite DVD 1(バージョン 7.812以降) または Update DVD からインポートできます。

6.2.1 リポジトリマネージャを開く

リポジトリマネージャを ServerView Operations Manager で開く方法は 2 つあります。

- ServerView Operations Manager の開始ページで、「**アップデート管理**」の「**リポジトリマネージャ**」を選択します。
- ServerView メニューバーで、「**アップデート管理**」の「**リポジトリマネージャ**」を選択します。

メインウィンドウにリポジトリマネージャが開きます。

6.2.2 リポジトリマネージャを閉じる

メインウィンドウを閉じると、リポジトリマネージャが終了します。

- リポジトリマネージャのメインウィンドウを閉じるには、ブラウザウィンドウの「閉じる」アイコンをクリックします。

6.2.3 アップデートの編集

個々のアップデートを編集できます。

1. ツリービューでグループを選択します。
2. リポジトリマネージャの「**アップデート**」タブに移動します。[115 ページの「アップデート」タブ](#)を参照してください。
3. 編集するアップデートを選択します。
4. 「**編集**」をクリックします。
「**アップデートのプロパティ編集**」ダイアログボックスが開きます。
5. アップデートの必要なプロパティを変更します。
6. 「**OK**」をクリックして変更を確定します。ダイアログボックスが閉じて、変更されたプロパティがアップデートに適用されます。

6.2.4 アップデートのリリース

1 つ以上のコンポーネントでテストアップデートが正常な結果で完了したら、アップデートをリリースできます。



このコマンドは元に戻せません。リリースを元に戻すには、各アップデートを編集する必要があります。

1. ツリービューで該当するグループを選択します。
2. リポジトリマネージャの「**アップデート**」タブに移動します。[115 ページの「アップデート」タブ](#)を参照してください。
3. リリースするアップデートを選択します。
4. 「**リリース**」をクリックします。リポジトリマネージャからダイアログが開き、選択したアップデートのリリースの確認を求められます。
5. 「**はい**」をクリックしてリリースを確定します。ダイアログボックスが閉じて、値「**はい**」がすべての選択されたアップデートの「**リリース済**」列に表示されます。

6.2.5 ユーザ定義グループの管理(ユーザ定義)

以下の手順を使用して、ユーザ定義グループを管理できます。

6.2.5.1 ユーザ定義グループの作成

ユーザ定義グループを作成するには、以下の手順に従います。

1. リポジトリマネージャの「**ユーザ定義**」タブに移動します。[117 ページの「ユーザ定義」タブ](#)を参照してください。
2. 「**作成**」をクリックします。
「**ユーザ定義の作成**」ダイアログボックスが開きます。
3. 「**名前**」で、新しいグループに名前を割り当てます。
4. 「**説明**」で、グループを説明するコメントを割り当てます。
5. 「>>」をクリックして、すべてのコンポーネントグループを「**コンポーネントの一覧**」リストから「**選択されたコンポーネント**」リストにコピーします。
6. すべてのコンポーネントグループをコピーしない場合は、新しいグループに追加するコンポーネントグループを「**コンポーネントの一覧**」で選択して、
「>」をクリックします。
7. 「**OK**」をクリックして、カスタマイズしたグループを作成します。ダイアログボックスが閉じて、新しいグループが作成されます。選択されたコンポーネントグループは、ServerView データベースの新しいグループに割り当てられます。

6.2.5.2 ユーザ定義グループの編集

ユーザ定義グループを編集するには、以下の手順に従います。

1. リポジトリマネージャの「**ユーザ定義**」タブに移動します。[117 ページの「ユーザ定義」タブ](#)を参照してください。
2. 編集するグループを選択します。
3. 「**編集**」をクリックします。
「**ユーザ定義の編集**」ダイアログボックスが開きます。
4. 必要に応じて、「**説明**」でグループに関するコメントを変更します。

5. グループを編集します。
6. 「OK」をクリックして変更を確定します。ダイアログボックスが閉じて、変更が選択されたコンポーネントグループと ServerView データベース内のコンポーネントに割り当てられます。

6.2.5.3 ユーザ定義グループでのアップデートのリリース

ユーザ定義グループのコンポーネントでテストアップデートが正常な結果で完了したら、アップデートをリリースできます。

 このコマンドは元に戻せません。リリースを元に戻すには、各アップデートを編集する必要があります。

1. ツリービューで、「**ユーザ定義**」で1つ以上のグループを選択するか、グループ自体を選択します。
2. リポジトリマネージャの「**ユーザ定義**」タブに移動します。[117 ページの「ユーザ定義」タブ](#)を参照してください。
3. アップデートをリリースするグループを1つまたは複数選択します。
4. 「**リリース**」をクリックします。リポジトリマネージャからダイアログが開き、「**はい**」をクリックしてアップデートのリリースの確認を求められます。
5. 「**はい**」をクリックしてリリースを確定します。
ダイアログボックスが閉じて、値「**はい**」がグループ内のコンポーネントのすべてのアップデートに対する「**リリース済**」列に表示されます。

6.2.5.4 ユーザ定義グループの削除

ユーザ定義グループを削除するには、以下の手順に従います。

1. ツリービューで、「**ユーザ定義**」で1つ以上のグループを選択するか、グループ自体を選択します。
2. リポジトリマネージャの「**ユーザ定義**」タブに移動します。[117 ページの「ユーザ定義」タブ](#)を参照してください。
3. 削除するグループを1つまたは複数選択します。
4. 「**削除**」をクリックします。
リポジトリマネージャからダイアログボックスが開き、「**はい**」を選択して削除を確定します。

5. 削除を確定するには、「はい」をクリックします。
ダイアログボックスが閉じて、グループが削除されます。リポジトリマネージャによって ServerView データベースに入力されたすべての割り当ても削除されます。

6.2.6 アップデートリポジトリの再初期化

Firmware ファイルディレクトリを ServerView Suite DVD 1(バージョン 7.812以降) または Update DVD からインポートし、管理用サーバのアップデートリポジトリをアップデートすることができます。



DVD をインポートするとアップデートリポジトリが初期化され、既存のすべてのエントリが上書きされます。インポートの後は、アップデートリポジトリを以前のステータスに戻すことはできなくなります。

1. リポジトリマネージャの「アップデート」タブに移動します。[115 ページの「アップデート」タブ](#)を参照してください。
2. 「インポート」をクリックします。
「リポジトリのインポート」ダイアログボックスが開きます。
3. DVD のファイルディレクトリの絶対パスを、「メディアのパス」に入力します。
4. 「OK」をクリックしてインポートを確定します。ダイアログボックスが閉じて、アップデートリポジトリが再初期化されます。
5. インポートの後、ダウンロードサービスを開始して、富士通Webサーバのダウンロードサイトから最新のアップデートをダウンロードします。

6.3 ダウンロードマネージャ

ダウンロードマネージャにより、お使いのサーバのファームウェア、BIOS、ドライバ、ServerView エージェントの最新バージョンを簡単に入手することができます。ダウンロードマネージャは、適切なアップデート情報の検索という手間のかかる作業を、ユーザの代わりに実行します。

サーバアップデートの情報とアップデートファイルは、富士通Web サーバ上にあります。ダウンロードマネージャは、まず情報ファイルをダウンロードディレクトリにロードします。これらの情報ファイル内のデータを使用して、ダウンロードマネージャおよび PRIMERGY ServerView Suite のその他のコンポーネントは利用できるアップデートの概要を取得します。

次のステップでは、必要なアップデートファイルが Web サーバから取得されます。これには、ファームウェア、BIOS、ドライバ、または ServerView エージェントのアップデート情報が含まれており、アップデートマネージャはこれに関連するサーバに配布できます。この段階的な手順により、ダウンロードの時間が短縮されます。

ユーザインターフェースにより、選択したサーバで利用できるアップデートを、指定した間隔で検索するダウンロードタスクを定義します。ダウンロードマネージャのダウンロードサービスは、必要なファイルを Web サーバから管理サーバ上のディレクトリに自動的にロードします。

(注意記号)

サーバリスト上の管理対象サーバのうち、アップデート対象外のサーバ(Update エージェント未サポート)は、ダウンロードマネージャ画面に表示されません。

6.3.1 ダウンロードサービスの設定

6.3.1.1 ダウンロードサービスのユーザ ID の設定

ダウンロードサービスの実行に使用するユーザ ID を指定します。

ServerView インストールがメニュー形式の場合

対話的なメニュー形式の ServerView インストールを使用している場合、インストールダイアログ中にユーザ ID を指定します。この場合、同時にパスワードも入力できます。

ServerView インストールがコマンドライン方式の場合

ServerView を対話的ではない ServerView インストール(サイレントインストール)を使用してインストールしている場合、*vendor.ini* ファイルのデフォルトユーザ ID **Administrator** が使用されます。

別のユーザ ID を使用するには、*vendor.ini* ファイルのデフォルトユーザ ID **Administrator** を、選択したユーザ ID (UserName=<userID>) に置き換えてください。

この方式では、インストールの後、ダウンロードサービスを開始する前にのみパスワードを入力できます。

vendor.ini ファイルは、自己解凍ファイル *SV_Setup.EXE* から作成される「*Internal*」ディレクトリにあります。

6.3.1.2 ダウンロードサービスの開始

ServerView インストールがメニュー形式の場合

対話的なメニューを使用して ServerView Update Management をインストールした場合、ダウンロードサービスは、インストールの終了後に、指定したユーザ ID を使用して自動的に起動します。

ServerView インストールがコマンドライン方式の場合

ServerView Update Management をコマンドラインでインストールした(サイレントインストール)場合は、定義したユーザ ID にパスワードを割り当てて、インストール後に**ダウンロードサービス**を起動する必要があります。



ServerView Operations Manager をサイレントインストールでアップデートするたびに、パスワードを入力する必要があります。

1. Windows 2003 の場合は、次のように選択します。
スタート - プログラム - 管理ツール - サービス
または
Windows 2008 の場合は、次のように選択します。
スタート - コントロールパネル - システムとメンテナンス - 管理ツール - サービス
2. **ダウンロードサービス**が実行されている場合は、**ダウンロードサービス**を停止する必要があります。サービスを選択して、コンテキストメニューから「**停止**」コマンドを選択します。

3. 「**ダウンロードサービス**」を選択して、コンテキストメニューから「**プロパティ**」コマンドを選択します。
4. 表示されたダイアログで、「**ログオン**」タブを選択します。
5. 必要なユーザ ID と、現在有効なパスワードを 2 回入力します。



パスワードを入力したことがなくても、アスタリスクが入力フィールドに表示されます。

6. 「**OK**」をクリックして設定を確定します。
7. 「**ダウンロードサービス**」を選択し、コンテキストメニューから「**開始**」コマンドを選択してサービスを再起動します。

6.3.1.3 並行ダウンロードタスクの数の調整

並行して実行できるダウンロードタスク(並行ジョブ) の数を制限できます。

1. ダウンロードタスクが実行されていないことを確認してください。「**タスク**」タブのステータスアイコンを確認してください。
2. **ダウンロードサービスを停止します。** [181 ページの ダウンロードサービスの開始](#)を参照してください。
3. 以下のディレクトリにある *DownloadServer.ini* ファイルを編集します。
`<scripts>/ServerView/Download`
このディレクトリは管理用サーバ上にあります。

ConcurrentJobsAllowed パラメータの値を変更します。

デフォルト値は 30 です。

最大値は 99 です。

値 0 は推奨されません。使用できる並行ダウンロードタスク数が無限になるためです。

並行アクセス数が少ない、小規模データベースシステムを使用している場合、値は 5 に設定してください。

4. **ダウンロードサービスを開始します。** [181 ページの ダウンロードサービスの開始](#)を参照してください。



ダウンロードマネージャソフトウェアをアップグレードすると、**ConcurrentJobsAllowed** パラメータの値はデフォルト値にリセットされます。

6.3.2 ダウンロードマネージャの一般情報

ダウンロードマネージャを使用して、1 台以上のサーバのダウンロードタスクを定義し、ダウンロードタスクを実行する日時と頻度を指定します。すでに実行したダウンロードタスクについての情報も表示できます。

少なくとも月に 1 度はダウンロードタスクを実行することを推奨します。これによって、最新のアップデートマネージャ情報ファイルとバージョン情報管理データベースが毎月ロードされます。

ダウンロードマネージャのダウンロードサービスは、定義されたダウンロードタスクを以下のようにして自動的に実行します。

1. 富士通Web サーバで新しい情報ファイルを検索します。
2. すべての新しい情報ファイルをデフォルトのダウンロードディレクトリにロードします。
3. ダウンロードマネージャはロードされた情報ファイルを使用して、ダウンロードタスクが有効になっている各サーバでアップデートを実行する必要があるかどうかを確認します。
4. すべての必要なアップデートファイルを Web サーバからリポジトリディレクトリにロードします。
5. 定義された各サーバの結果がグラフィカルユーザインターフェースで表示されます。

6.3.3 ダウンロードマネージャを開く

ダウンロードマネージャを ServerView Operations Manager で開く方法は 2 つあります。

- 「ServerView Suite」の開始ページで、「アップデート管理」の「ダウンロードマネージャ」を選択します。
- ServerView メニューバーで、「アップデート管理」の「ダウンロードマネージャ」を選択します。

ダウンロードマネージャのメインウィンドウが表示されます。

6.3.4 ダウンロードマネージャを閉じる

ブラウザウィンドウの「閉じる」アイコンを使用して、ダウンロードマネージャのメインウィンドウを閉じます。

6.3.5 新しいダウンロードタスクの作成

最初の手順として、自分の要件に適したダウンロードタスクを作成します。このダウンロードタスクにサーバを割り当て、それらのサーバに対して指定した時刻にアップデートの検索を実行します。

1. 「スケジュール」タブに移動します。
2. 「追加...」をクリックします。
3. ダウンロードタスクの実行日時を「開始日時選択」で指定します。
4. ダウンロードタスクを実行する頻度を「実行間隔」で指定します。
5. 保存するログファイルの数を「ログデータの履歴」で指定します。
「サマリ」出力フィールドには、指定した値の概要が表示されます。
6. 「作成」をクリックすると、新しいダウンロードタスクが保存されます。ダイアログボックスが閉じ、ダウンロードタスクが作成されます。
「閉じる」をクリックすると、処理がキャンセルされ、すべてのエントリは破棄されます。

6.3.6 ダウンロードタスクへのサーバの割り当て

ダウンロードタスクを使用するには、必要なサーバを割り当てます。

1. 「スケジュール」タブに移動します。
2. テーブルで、サーバに使用するダウンロードタスクを選択します。
3. 「有効...」をクリックします。
サーバを割り当てるためのダイアログボックスが表示されます。
4. 左側のリストで、ダウンロードタスクに割り当てるサーバを選択します。
5. 「>」をクリックします。左側のリストで選択したサーバが、右側のリストに表示されます。
6. ステップ 4 と 5 を繰り返して、必要なすべてのサーバを右側のリストに表示させます。

7. 「適用」をクリックすると、ダウンロードタスクへのサーバの割り当てが保存されます。
「閉じる」をクリックすると、処理がキャンセルされ、すべての変更内容は破棄されます。

6.3.7 ダウンロードタスクの編集

1. 「スケジュール」タブに移動します。
2. 編集するダウンロードタスクをテーブルから選択します。
3. 「編集...」をクリックします。
 - ダウンロードタスクの実行日時を「開始日時選択」で変更できます。
 - 必要なログファイルの数を「ログデータの履歴」で変更できます。ダウンロードタスクを実行する頻度を表す「実行間隔」は変更できません。
4. 「作成」をクリックするとダウンロードタスクが保存されます。
「閉じる」をクリックすると、処理がキャンセルされ、すべての変更内容は破棄されます。

6.3.8 ダウンロードタスクの削除

設定した日時でのダウンロードタスクの実行が不要になった場合は、ダウンロードタスクを削除できます。ただし、サーバが割り当てられていない場合のみ、ダウンロードタスクを削除できます。

1. 「スケジュール」タブに移動します。
2. 削除するダウンロードタスクをテーブルから選択します。
3. サーバがまだダウンロードタスクに割り当てられている場合は、「無効」をクリックしてこの割り当てを解除します。
ダウンロードタスクに割り当てられているすべてのサービスが停止します。
4. 次に「削除」をクリックします。

テーブルで選択したダウンロードタスクが削除されます。

6.3.9 ダウンロードタスクの監視

「タスク」タブには、ドメイン内の使用できるサーバの概要が表示されます。

必要なサーバまたはサーバグループをツリー構造(左側)から選択すると、このタブに表示するサーバ数を制限できます。

サービスの開始

- サーバに対するアップデートを即座に検索するには、テーブルでサーバを選択して「**直ちに一度だけ**」をクリックします。

サービスの停止

- サーバに対するアップデートの検索を停止するには、テーブルでサーバを選択して「**無効**」をクリックします。ダウンロードタスクへのサーバの割り当てが解除されます。

6.3.10 ログファイルの管理

「ログ」タブには、すでに完了したダウンロードタスクの情報が表示されます。

ログファイルの表示

- ログファイル全体を表示するには、テーブルでログファイルを選択して「**表示**」をクリックします。

ログファイルの削除

- ログファイルを削除するには、テーブルで選択して「**削除**」をクリックします。
- すべてのログファイルを削除するには、「**全て削除**」をクリックします。

6.4 設定

「設定」ウィンドウでは、アップデート管理アプリケーションのグローバル設定、オプション設定および必須の設定を指定できます。現行の設定は「**一般設定**」タブ、「**メール設定**」タブ、「**ダウンロード設定**」タブに表示されます。

これらの設定を変更するには、**設定ウィザード**を使用します。

6.4.1 設定を開く

設定を ServerView Operations Manager で開く方法は 2 つあります。

- ServerView Operations Manager の開始ページで、「**アップデート管理**」の「**設定**」を選択します。
- ServerView メニューバーで、「**アップデート管理**」の「**設定**」を選択します。

メインウィンドウに設定が開きます。

6.4.2 設定を閉じる

設定を閉じるには、メインウィンドウを閉じます。

- 設定のメインウィンドウを閉じるには、ブラウザウィンドウの「閉じる」アイコンをクリックします。

6.4.3 グローバルパラメータの設定

この手順を使用して、アップデート管理のグローバルパラメータを設定します。**設定ウィザード**を使用してこの操作を実行できます。設定ウィザードは、アップデート管理に最初にアクセスしたときに自動的に開きます。

1. 「**設定変更**」をクリックします。設定ウィザードの「**開始**」ダイアログが開きます。[153 ページの「開始」ステップ\(設定ウィザード\)](#)を参照してください。
2. 「**リポジトリ**」で、新しいリポジトリを作成するか、既存のリポジトリを使用するかを指定します。
3. 「**次へ**」をクリックします。「**リポジトリ**」ステップが開きます。新しいリポジトリを設定するか、既存のリポジトリを設定するかによって、異なるパラメータが表示されます。



リポジトリがローカルの管理用サーバ上にある場合のみ、富士通Webサーバからアップデートをダウンロードできます。

リポジトリを新規作成

4. 新しいリポジトリをロードする場所を指定します。
 - ServerView Suite DVD 1 または Update DVD(DVDからインポート)
 - Web サーバ(**Webサーバからのダウンロード**)
5. リポジトリを DVD からインポートする場合は、「**DVDからインポート**」を選択して、「**インポート元のパス**」フィールドにDVD上のリポジトリの絶対パスを入力します。

例:

Windows : E:\Firmware

Linux : /media/Firmware

リポジトリをWebサーバからロードする場合は、「**Webサーバからのダウンロード**」を選択します。

6. 「**リポジトリの場所**」フィールドに、管理用サーバ上のリポジトリの絶対パスを入力します。

指定したディレクトリが存在しない場合は、作成されます。

既存のリポジトリを使用

4. リポジトリの場所を入力します。
 - ローカルの管理用サーバ(**管理用サーバ上のリポジトリ**)
 - ネットワーク内のシステム(**ネットワークドライブ上のリポジトリ**)
5. 「**リポジトリの場所**」フィールドに、リポジトリの絶対パスをUNC 形式で入力します。
6. リポジトリがネットワーク上の別のシステム上にある場合 : 「**ユーザ**」および「**パスワード**」フィールドに、システム上のユーザの名前とパスワードを入力します。
7. 「**次へ**」をクリックします。「**その他**」ステップが開きます。

8. 使用するワークディレクトリの名前とパスを「**ワークディレクトリ**」フィールドに入力します。
既存のワークディレクトリを入力することも、新しいディレクトリを作成することもできます。
ワークディレクトリの名前を以下の形式で入力します。
 - Windows :<ドライブ文字>:\[<ディレクトリパス>][<ディレクトリ名>
 - Linux :/[<ディレクトリパス>]/[<ディレクトリ名>
9. TFTP サーバの IP アドレスを「**デフォルトTFTPアドレス**」フィールドに入力します(マネジメントプレードなど、TFTP サーバ経由でアップデートされるコンポーネントの場合)。
10. アップデートマネージャが、アップデートされたサーバがリブートするまでに待機する時間を「**デフォルトブート完了時間**」フィールドに入力します。ここに入力した時間は、アップデート中にサーバを使用できなくなる時間に加算されます。
11. 「**次へ**」をクリックします。「**ダウンロード設定**」ステップが開きます。ダウンロードサービスが使用するプロトコルを選択します。(HTTP/HTTPS)次に、ダウンロードサービスの Web サーバの URL を「**Webサーバ**」に入力します。
12. 新規ダウンロードに対して通知機能を設定するには、「**メール設定**」を選択します。
13. 「**次へ**」をクリックします。「**メール設定**」オプションを選択した場合は「**メール設定**」ステップが開き、選択しなかった場合は、「**適用**」ステップが開きます。この場合は、以降のステップを飛ばして 23 に進みます。
14. 「**宛先**」フィールドに受信者のアドレスを入力します。複数のアドレスがある場合には、名前をカンマ(,) で区切って指定します。
15. 必要に応じて、その他の受信者アドレスを「**同報**」フィールドに入力します。
16. 送信者のメールアドレスを「**差出人**」フィールドに入力します。
17. SMTP サーバの IP アドレスを「**SMTPサーバ**」フィールドに入力します。
18. SMTP サーバのポート番号を「**ポート番号**」フィールドに入力します。
19. メールサーバへのログオンに使用するユーザ ID を「**ユーザ**」フィールドに入力します。
20. メールサーバへのログオンに使用するパスワードを「**パスワード**」フィールドに入力します。

21. セキュリティのため、「パスワード確認」フィールドにパスワードをもう一度入力します。
22. 「次へ」をクリックします。「適用」ダイアログボックスが開きます。
23. 「適用」をクリックして、データベース内の新しい設定を有効にします。デフォルトのリポジトリを変更した場合は、すべてのサーバのインベントリデータが再作成されます。

6.5 テーブルのフィルタリング

特定の列で値または値範囲を使用して、テーブル内のエントリをフィルタリングできます。テーブルヘッダーの右側のフィルタアイコンは、フィルタリングできる

列を示しています。 

テーブル内のエントリをフィルタするには、以下の手順に従います。

1. 列の横のフィルタアイコンをクリックします。「列のフィルタ」ダイアログボックスが開き、「標準」タブが表示されます。164 ページの [標準\(フィルタダイアログボックス\)](#)
2. 1 つの値に基づいて列をフィルタするには、対応するテーブル行に表示する値を「標準」タブで選択します。
3. 値範囲に基づいて列をフィルタするには、「カスタム」タブを選択します。
4. 「カスタマイズ」タブで、この列に表示する値に対する条件を作成します。
5. 「OK」を選択してエントリを確認します。ダイアログボックスが閉じ、選択内容に従ってテーブルエントリが表示されます。フィルタされた列に表示されるフィルタアイコンが、濃い青に変わります。

7 コマンドラインインターフェース

アップデートマネージャのコマンドラインインターフェース (CLI) は、システムコンポーネントをアップデートするスクリプト環境を提供する、ServerView Operations Manager の一機能です。CLI はアップデートマネージャとともに自動的にインストールされます。

CLI はユーザが操作することなく実行され (quiet モード)、必要な場合はログファイルを作成し、さまざまな戻り値を返します。これらの戻り値をテストする必要があります。たとえば、`%errorlevel%` システム変数 (Windows) または `$?` (Linux)、または同様のスクリプトおよび言語要素をチェックします。

個々のコマンドの構造は、以下の形式に従います。

`GFCLI <コマンド> <パラメータ>`

各コマンドは、定型の `GFCLI` とこれに続く `<コマンド>` パラメータから構成され、コマンドと後続のコマンド依存のパラメータを定義します。

パラメータ	説明
-S(StartFlash)	バージョンチェックとアップデートを開始します。 このオプションは、新しいバージョンが見つかったシステムコンポーネントのみをアップデートします。
-O(StartFlash)	バージョンチェックなしでアップデートを開始します。
-W(WaitForDone)	アップデートジョブの終了を待機します。
-R(Reboot)	明示的なリブートを開始します。
-C(Cleanup)	すべてのアップデートジョブが終了したかどうかをチェックします。終了している場合、アップデートジョブは削除されます。
-A(Cancel)	終了していないアップデートジョブを削除します。
-H(Help)	コマンド構文を表示します。

管理対象サーバがアクセス制御で保護されている場合、CLI を使用するとき、パラメータ `-L` と `-P` を指定する必要があります。これらのパラメータは `StartFlash`、`Cleanup` および `Cancel` コマンドについてのみ使用され、ステータスを変更します。

CLI は詳細な結果を結果ファイルに書き込み、これによってアップデート手順を再現できます。コマンドが呼び出されたときに結果ファイルのパラメータがなかった場合、デフォルトの `logfile.txt` ファイルが使用されます。

さらに、受け取った戻り値を使用して、さまざまな結果に対応するアップデートサイクルのプログラムを作成することができます。

7.1 呼び出しパラメータ

-S (StartFlash コマンド)

バージョンチェックとアップデートを開始します。

このオプションは、新しいバージョンが見つかったシステムコンポーネントのみをアップデートします。

-O (StartFlash コマンド)

バージョンチェックなしでアップデートを開始します。



この場合、すべてのシステムコンポーネントが指定されたアップデートトリポジトリの最新バージョンでアップデートされます。バージョンが同じ、またはインストールされたバージョンが新しい場合(ダウングレード対象となる)でも、バージョンチェックは実行されません。このため、このパラメータの使用にはリスクがあります。指定されたアップデートトリポジトリと、インストールされたバージョン間の依存関係について、詳細な知識を持つ担当者のみが使用してください(品質テストまたはサポート担当者など)。

-W (WaitForDone コマンド)

アップデートジョブの終了を待機します(ジョブステータス = READY または REBOOT)。

-R (Reboot コマンド)

明示的なリブートを開始します。

-C (Cleanup コマンド)

すべてのアップデートジョブが終了したかどうかをチェックします(ジョブステータス = READY)。終了している場合、アップデートジョブは削除されず。

-A (Cancel コマンド)

終了していないアップデートジョブを削除します。

-H

コマンド構文を表示します。

-D

StartFlash は標準 Microsoft 認定システムコンポーネントのみをアップデートします。このパラメータでは、認定されていないコンポーネントもアップデートできます。

-N <システム>

管理対象 PRIMERGY サーバの DNS 名または IP アドレス。

-U <パス>

アップデートリポジトリの絶対パス。

-F <結果ファイル>

アップデート手順の結果が書き込まれるファイル。

デフォルト : logfile.txt

-L <ユーザ>

アクセス制御のログインユーザ ID。

-P <パスワード>

アクセス制御のログインパスワード。

-S

強制バリエーションの Cancel コマンド。

-M

管理対象システムがマネジメントブレードサーバであることを指定します。パラメータ-T および-I も指定して、TFTP サーバとの通信を有効にする必要があります(後者のパラメータはStartFlashコマンドでのみ必要です)。

-T <IP-addr>

TFTP サーバによるアップデートに使用する、TFTP サーバの IP アドレス(マネジメントブレードの場合など)。

-I {<IP-addr> | NO_ADDR}

TFTP サーバによるアップデートに使用する、マネジメントブレードのアップデート IP アドレス。このアドレスはネットワーク全体で一意にする必要があります。新しいバージョンのマネジメントブレードの場合(MMBS3 など) で IP アドレスの指定が不要の場合は、NO-ADDR をここで指定する必要があります。

-Y <パス>

管理対象システムのインベントリファイル「VersionView.sav」の絶対パス。

管理対象システムがマネジメントブレードの場合、Linux では必須です。

SVOM がインストールされている場合、インベントリファイルはアップデートマネージャのワークディレクトリのサブディレクトリ「versionviewsav/<MMB の名前>」内にあります。

7.2 StartFlash(コマンド)

構文

```
GFCLI {-S|-O} [-D] -N <システム> -U <パス>
[-F 結果ファイル>] [-L <ユーザ> [-P <パスワード>]]
[-M -T <IP-addr> -I {<IP-addr>|NO_ADDR}| -T <IP-addr>]
```

説明

-S パラメータが使用されると、StartFlash は PRIMERGY サーバのインベントリを読み取り、すべてのコンポーネントを指定されたアップデトリポジトリのバージョンと比較します。アップデトリポジトリは、新しいバージョンがアップデトリポジトリで見つかった場合にのみ開始されます。このパラメータではダウングレードは実行できません。

-O パラメータが使用された場合、バージョンチェックは実行されず、すべてのコンポーネントが指定されたりポジトリで見つかった最新バージョンでアップデトリポジトリされます。



パラメータ-O の使用にはリスクがあります。このパラメータは、使用されるアップデトリポジトリとインストールされたバージョン間の依存関係についての詳細な知識を持つユーザのみが使用してください。たとえば、アップデトリポジトリ内のコンポーネントのバージョンがインストールされたバージョンよりも古い場合、インストールされたバージョンはダウングレードされます。

コマンドは、アップデトリポジトリを開始するすべてのステップが完了すると直ちに終了します。コマンドはアップデトリポジトリ手順の完了まで待機しません。

以前のアップデトリポジトリ手順が Cleanup コマンドで完了していない、または Cancel コマンドでキャンセルされていない場合、コマンドは SequenceError で終了します。この場合、上記で指定したジョブステータスのいずれかを持つアップデトリポジトリジョブはまだ存在します。

接続が確立できない場合、コマンドはタイムアウトで即座に終了します。

戻り値

0	アップデートはエラーなしで開始されました。
1	OK、古いコンポーネントは見つかりませんでした。
2	タイムアウト(管理対象サーバへの接続なし)
3	SequenceError - この段階ではコマンドは許可されません
4	アップデート段階が開始したときにエラーが発生しました。
5	GFI エラー
6	アクセス制御に必要なパラメータが存在しません。
7	アクセスが拒否されました。
10	パラメータエラー
11	メモリボトルネック
12	複数の CLI の開始が拒否されました。
13	結果ファイル(オプション-F またはlogfile.txt)を開けませんでした。
14	GFILog.txt ログファイルを開けませんでした。

7.3 WaitForDone(コマンド)

構文

```
GFCLI -W -N <システム> [-F <結果ファイル>]  
[-M -T <IP-addr>]
```

説明

WaitForDone は、すべてのアップデートジョブが処理されたとき(エラーありまたはエラーなし)、戻り値として 0、4、8、または 9 を返します。

Cleanup コマンドとは異なり、このコマンドを実行したときにアップデート結果は管理対象サーバから削除されません。WaitForDone は複数回実行でき、そのたびに結果ファイルはアップデートされます。

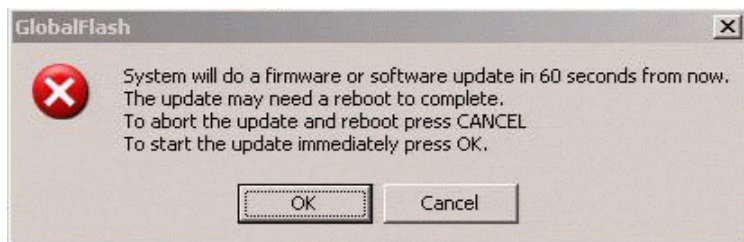
接続を確立できない場合、コマンドは最大 60 秒後にタイムアウトを返します。この場合、コマンドを再実行してステータスを問い合わせることができます。

戻り値

0	アップデート OK(ジョブステータスはREADY) すべてのアップデートジョブはエラーなしで実行されました。
1	現在ジョブはありません(接続は確立済み)
2	タイムアウト(管理対象サーバへの接続なし)
3	SequenceError - コマンドはこの段階では許可されません(ジョブステータスはPREPARED) GlobalFlash Agent V 4.71 またはそれ以前がシステムにインストールされている場合は、以下の追加説明を参照してください。
4	アップデートでエラー(ジョブステータスはREADY) 少なくとも 1 つのジョブがエラーなしで実行できませんでした。
5	GFI エラー
8	アップデート OK(ジョブステータスはREBOOT) ジョブはリブートの実行を待機しています。
9	アップデートでエラー(ジョブステータスはREBOOT) ジョブはリブートの実行を待機しています。ただし、エラーなしで正常に実行されてリブートが必要になったジョブの他に、エラーが発生したジョブもあります。管理対象サーバを再起動するか、または Reboot CLI コマンドを使用して、リブートを明示的に実行する必要があります。
10	パラメータエラー
11	メモリボトルネック
12	複数の CLI の開始が拒否されました。
13	結果ファイル(オプション-F またはlogfile.txt)を開けませんでした。
14	GFILog.txt ログファイルを開けませんでした。

GlobalFlash Agent V 4.71 またはそれ以前を使用したアップデートジョブ

アップデートジョブを開始するときに、管理対象サーバに以下のダイアログが表示されます。



ダイアログで「キャンセル」をクリックすると、コマンド `GFCLI -W(=WaitForDone)` から値 **3** が返されます。

<結果ファイル> に、メッセージ「**Flash Cancelled by User**」が記録されます。

管理対象サーバをクリーンアップするには、以下のコマンドを使用する必要があります。

`GFCLI -A -S (=Cancel、強制バリエント)`

7.4 Reboot(コマンド)

構文

```
GFCLI -R -N <システム> [-F <結果ファイル>]
[-L <ユーザ> [-P <パスワード>]]
```

説明

Reboot は、少なくとも 1 つのジョブ(ジョブステータス REBOOT で示される)で必要なリブートを開始します。リブートが実行されると、これらのジョブのステータスは自動的に READY に変更されます。

接続を確立できない場合、コマンドは最大 60 秒後のタイムアウトで返されます。

戻り値

0	リブートを直ちに開始しました
1	現在ジョブはありません(接続は確立済み)
2	タイムアウト(管理対象サーバへの接続なし)
3	SequenceError – この段階ではコマンドは許可されません。 – Flash 起動ステータスがOnline Reboot required ではないか、または – ステータス REBOOT のジョブが見つかりません
5	GFI エラー
6	アクセス制御に必要なパラメータが存在しません。
7	アクセスが拒否されました。
10	パラメータエラー
11	メモリボトルネック
12	複数の CLI の開始が拒否されました。
13	結果ファイル(オプション-F またはlogfile.txt)を開けませんでした。
14	GFLog.txt ログファイルを開けませんでした。

7.5 Cleanup(コマンド)

構文

```
GFCLI -C -N <システム> [-F <結果 ファイル>]
[-L <ユーザ> [-P <パスワード>]] [-M -T <IP-addr>]
```

説明

Cleanup はWaitForDone と同じステップを実行しますが、管理対象サーバのアップデート結果を削除し、アップデート手順を完了します。管理対象サーバは元のステータスに戻り、アップデート結果はサーバ上からなくなります。

接続を確立できない場合、コマンドは最大 60 秒後のタイムアウトで返されます。

クリーンアップは、ジョブステータス = Ready のときのみ許可されます。

クリーンアップは、ジョブが転送され、実行を待機中の場合(**ジョブステータス = Prepared**)、または現在実行中の場合(**ジョブステータス = Working**) は、許可されません。

このコマンドが実行された後、アップデート結果は結果ファイルに 1 回だけ書き込まれます。最終アップデート結果を結果ファイルに複数回書き込むことはできません。この点で、WaitForDone コマンドとは異なります。

Cleanup はWaitForDone の後にも実行して(必要に応じて続けてReboot を実行)、アップデート手順を完了する必要があります。

戻り値

0	アップデート OK(ジョブステータスはREADY) すべてのアップデートジョブはエラーなしで実行されました。
1	現在ジョブはありません(接続は確立済み)
2	タイムアウト(管理対象サーバへの接続なし)
3	SequenceError - コマンドはこの段階では許可されません(ジョブステータスはPREPARED)
4	アップデートでエラー(ジョブステータスはREADY) 少なくとも 1 つのジョブがエラーなしで実行できませんでした。
5	GFI エラー
6	アクセス制御に必要なパラメータが存在しません。
7	アクセスが拒否されました。
10	パラメータエラー
11	メモリボトルネック
12	複数の CLI の開始が拒否されました。
13	結果ファイル(オプション-F またはlogfile.txt)を開けませんでした。
14	GFIlog.txt ログファイルを開けませんでした。

7.6 Cancel(コマンド)

構文

```
GFCLI -A -N <システム> [-F <結果ファイル>]
[-L <ユーザ> [-P <パスワード>]] [-M -T <IP-addr>] [-S]
```

説明

Cancel は、管理対象サーバにすでに転送されたアップデートジョブの実行をキャンセルし、PREPARED アップデートステータスを削除します。PREPARED ステータスは、別のユーザが GUI を使用して Prepare Updates を実行したが、まだ Execute Updates を実行しない場合、またはエラーが発生した場合にのみ生じる例外的な場合に、存在することがあります。

接続を確立できない場合、コマンドは最大 60 秒後のタイムアウトで終了します。

戻り値

0	エラーなし
1	アップデートステータスなし
2	タイムアウト(管理対象サーバへの接続なし)
3	SequenceError、この段階ではコマンドは許可されません - ジョブステータス PREPARED が存在しない、または - ジョブステータス READY/REBOOT が存在する(オプション -S が設定されていない場合のみ)
5	GFI エラー
6	アクセス制御に必要なパラメータがありません
7	アクセスが拒否されました
10	パラメータエラー
11	メモリボトルネック
12	複数の CLI の開始が拒否されました
13	結果ファイル(オプション -F または logfile.txt)を開けませんでした
14	GFI Log.txt ログファイルを開けませんでした

7.7 結果ファイル

アップデート手順のすべての結果は、指定された結果ファイルに書き込まれます。この場合、結果が追加されるため、ファイルサイズが増加します。これらの結果ファイルの管理(削除または名前変更)はユーザ自身が行う必要があります。情報はファイル内にイベントブロックの形式で格納されています。

 StartFlash、Cleanup、および Cancel コマンドの場合、結果はGFLog.txt ログファイルにも書き込まれます。このファイルは以下のディレクトリにあります。

Windows :

<ServerView インストールディレクトリ>\UpdateManager

Linux :

<ServerView インストールディレクトリ>/UpdateManager/log

イベント	追加のサブイベント
StartFlash	Count
Ready	Result
Cancel	GFI Error
SequenceError	Timeout
ParamError	
LogonError	
MemoryError	

コマンドの戻り値と同様に、結果ファイルにもアップデートされたオブジェクトと結果についての情報が含まれています。

ジョブステータス

以下のステータスが、各結果ファイル内の個々のジョブについて記録されます。

PREPARED	アップデートジョブはサーバに転送されました。
WORKING	アップデートジョブは現在実行中です。

REBOOT	アップデートジョブは正常に処理されました。 ジョブステータス = READY にするには、リブートが必要です。
READY	アップデートジョブが処理されました(正常またはエラーあり)。

7.7.1 StartFlash(イベント)

StartFlash イベントには通常、Count サブイベントがあります。このサブイベントは常にヘッダーとして入力されます。このエントリで指定された数値は、アップデート対象に選択されたオブジェクトの合計数を示します(新しいバージョンが利用可能)。各オブジェクトには、Result サブイベントを伴う、固有の StartFlash イベントがあります。

Event.0=StartFlash	イベント:StartFlash
SubEvent.0=Count	サブイベント:Count
CompCount.0=1	コンポーネント数(0 の場合もあります)
NoError.0=0	エラー数
Event.1=StartFlash	イベント:StartFlash
SubEvent.1=Result	サブイベント:Result
ObjTypeName.1=MAH3091MC	オブジェクトタイプ(コンポーネント)
ObjName.1=Disk:PCI1.11.1.SCSI0.0.0	関連オブジェクト
OldVersion FW.1=5207	オブジェクトの古い FW/BIOS バージョン
NewVersion FW.1=5208	オブジェクトの新しい FW/BIOS バージョン
LastCommand.1=	CLI の最後のコマンド
Error.1=0	エラーイベントのエラー数
ErrorText.1=ERROR[0]] faultless execution	戻り値の説明

コマンドの実行中に SVUMI.dll でエラーが発生した場合、結果ファイル内のエントリは StartFlash プロセスの現在の段階に依存します。LastCommand.# フィールドには、以下のエントリが含まれます。

- AddJob
- GetUpdatableComponentsS
- StartUpdate
- WaitForPreparedStatus
- DoFlashBoot

例：

AddJob の実行中にエラーが発生しました。リストには各コンポーネントのエラーコードが含まれます。

```
Event.0=StartFlash
SubEvent.0=Count
CompCount.0=1
NoError.0=1
Event.1=StartFlash
SubEvent.1=Result
ObjTypeName.1=MAH3091MC
ObjName.1=Disk:PCI1.11.1.SCSI0.0.0
OldVersion FW.1=5207
NewVersion FW.1=5208
LastCommand.1=AddJob
Error.1=91
ErrorText.1=ERROR[91] couldn't build control file
name
```

StartUpdate の実行中にエラーが発生しました。エラーは StartUpdate GFI 要求を参照しているため、コンポーネントリストはありません。

7 コマンドラインインターフェース

```
Event.0=StartFlash
SubEvent.0=Error
CompCount.0=2
LastCommand.0=StartUpdate
Error.0=12
ErrorText.0=ERROR[12] flash file missing (can not
copy file)
```

古いコンポーネント(アップデトリポジトリと比較した場合)が存在していない場合、ヘッダーのみが表示されます。

```
Event.0=StartFlash
SubEvent.0=Count
CompCount.0=0 number of obsolete FW versions = 0
NOERROR.0=0
```

7.7.2 Ready(イベント)

起動した後に CLI がREADY ジョブステータスを検出すると、すべてのアップデートされたコンポーネントの戻り値が次のように表示されます。

Event.0=Ready	イベント:Ready
SubEvent.0=Count	サブイベント:Count
CompCount.0=2	コンポーネント数(0 の場合もあります)
NoError.0=0	エラー数
Event.1=StartFlash	イベント:Ready
SubEvent.1=Result	サブイベント:Result
ObjTypeName.1=DAC1164P	オブジェクトタイプ(コンポーネント)
ObjName.1=SCSIController:PCI6.8.1	関連オブジェクト
Type.1=0	

Status.1=5	Status (5) = READY
Error.1=0	ジョブの戻り値
ErrorText.1=ERROR[0] faultless execution	戻り値の説明
Event.2=Ready	エラーの説明
SubEvent.2=Result	
ObjTypeName.2=ST336704LC	
ObjName.2=Disk:PCI1.15.1.SCSI0.0.0	
Type.2=0	
Status.2=5	
Error.2=0	
ErrorText.2=ERROR[0] faultless execution	

7.7.3 Cancel(イベント)

Event.0=Cancel	イベント:Cancel
Error.0=0	エラーイベントのエラー数
ErrorText.0=ERROR[0] faultless execution	戻り値の説明

7.7.4 SequenceError(イベント)

このイベントにはサブイベントはありません。このイベントは、アップデートマネージャのステータスが正しくないため、コマンドを実行できないことを示します。

例

- アップデートステータスは、StartFlash が呼び出されたときには存在することはできません。
- Cleanup は、ステータスがREADY の場合にのみ可能です。
- Cancel (パラメータ-Sなし) は、ステータスがPREPARED の場合にのみ可能です

Event.0=SequenceError	コマンドが正しくない段階で呼び出されました(不正なアップデートステータス)。
-----------------------	---

7.7.5 ParamError(イベント)

このイベントにはサブイベントはありません。このイベントは、指定されたコマンドで不正なパラメータが使用されたことを示します。すべてのパラメータは、CLI が呼ばれるたびにチェックされます。不正なパラメータが使用された場合、それぞれの問題が発生した箇所を示すために 1 行が使用されます。

Event.0=ParamError	パラメータの数または組み合わせが正しくないか、アップデートパスが不正です。
--------------------	---------------------------------------

7.7.6 LogonError(イベント)

このイベントにはサブイベントはありません。このイベントは、管理対象サーバへのログオン試行が失敗したことを示します。

Event.0=LogonError	アクセスが拒否されました。
--------------------	---------------

7.7.7 MemoryError(イベント)

Event.0=MemoryError	メモリが足りません。
---------------------	------------

7.8 バッチファイル(例)

以下の例は、Windowsの場合です。

Linux シェルを使用している場合、CLI コマンドの戻り値をテストするためにはLinux 変数 \$?がWindows 変数%errorlevel%の代わりにクエリされなければなりません。以下に例を示します。

```
GFCLI -S -N <システム名> -U <パス名>
if [ $?= 0 ]; then ....
```

ファイル1

```
@echo off

rem *****
rem * cli-exa.bat *****
rem *****
rem * Batch file to flash all components of PRIMERGY servers, supported
rem * by
rem * GlobalFlash to their newest version.
rem * All servers have to be listed in a ServerList.The firmware must be
rem * available in local GlobalFlash FirmwareTree.
rem * Two other batch files are called:
rem * cli-init.bat:Check states and availability of a server and execute
rem * StartFlash for the server
rem * cli-work.bat:Wait for completion of the flash for each server
rem * -----
rem * Input-parameters:
rem * The actual directory has to contain 2 Control-files for this batch:
rem * 1.)ServerList-file "serverls.txt"
rem * Each line consists of 3 fields:Server,user,password
rem * If the line begins with ";" in ServerList, the line will be
rem * ignored
rem * 2.)File "fwpath.txt" with the absolut path of the FirmwareTree
rem * Output-parameters:
rem * 1.)File "oklist.txt" with the list of servers, which are updated
rem * with-
rem * out any errors or which are not flashed because they are actual
rem * 2.)Result-Files <servername>.txt for each server
rem *****
```

7 コマンドラインインターフェース

```
rem
:start
rem
rem *****
rem * WaitServerlist initialisation
rem * (WaitServerList:temporary subset of Serverlist)
rem *****
rem
if exist svwaitls.txt del svwaitls.txt
if exist oklist.txt del oklist.txt
rem
rem *****
rem * Check actual states of all server of the ServerList and StartFlash
rem * Only State "No Flash states" expected - other states will be
cleaned
rem * or aborted first
rem * Only for servers with "No flash states" "StartFlash" is executed
rem * These servers were added to WaitServerlist (WaitForDone-cycle)
rem * StartFlash is executed with Path of FirmwareTree contained
rem * in file fwpath.txt
rem * Batch-File cli-init.bat is called for each server with the param-
eters
rem * of the fields in ServerList
rem *****
rem
for /F "eol=; tokens=1-3 delims=, " %i in (serverls.txt) do call cli-
init %i %j %k
rem
rem *****
rem * WaitForDone cycle
rem * The flashes are running
rem * Now is time to WaitForDone (status ready - hopefully without any
error)
rem * All servers in flashingmode are listed in svwaitls.txt
rem * Each server, returns with timeout is set in svtmps and WaitForDone
rem * is started again
rem * Each server, which returns without errors, is set to oklist.txt
rem * (After CleanUp)
rem * Each server, which finished with errors will left be in error state
```

```
rem * all information in the speziell result-file
rem * Batch-File cli-work.bat is called for each server with the param-
eters
rem * of the fields in WaitServerList (subset of ServerList)
rem *****
rem
if not exist svwaitls.txt goto doneall
:waitnxt
if exist del svtmppls.txt
for /F "eol=; tokens=1-3 delims=, " %i in (svwaitls.txt) do call cli-
work %i %j %k
if not exist svtmppls.txt goto doneall
copy svtmppls.txt svwaitls.txt
goto waitnxt
:doneall
@echo All activities done.Listed servers have returned flash without any
error!
@echo -----
type oklist.txt
```

7 コマンドラインインターフェース

ファイル2

```
rem *****
rem * cli-init.bat *****
rem * *****
rem * Batch File to check states of a special server
rem * and to execute StartFlash if states are ok
rem * -----
rem * Input-parameters:
rem * - cli-init server(%1) user(%2) Password(%3)
rem * - File "fwpath.txt" with the absolut path of the FirmwareTree
rem *****
rem
:start
@echo off
rem
rem *****
rem * Return-File initialisation
rem *****
rem
@echo off >%1.txt
:start1
rem
rem *****
rem * "WaitForDone" to check wether there are old flashes
rem * (prepared, ready) or not
rem * If there are states, they are canceled or ceaned
rem * If server is not "online" Timeout occurred
rem * Only a server without flash-states will be token for flash
rem * Means returncode 1 is the only one to go on for flash!
rem *****
rem
gfccli -W -N %1 -L %2 -P %3 -F %1.txt
if %errorlevel%==1 goto nostates
if %errorlevel%==2 goto timeout
if %errorlevel%==3 goto statenok
if %errorlevel%==4 goto errors
if %errorlevel%==5 goto gfiererror
if %errorlevel%==6 goto nologop
```

```
if %errorlevel%==7 goto noaccess
if %errorlevel%==10 goto parerror
if %errorlevel%==11 goto memerror
if %errorlevel%==0 goto old-ok
@echo.
@echo Undefined returncode!
goto endchk
rem
rem *****
rem * Old Flashs (prepared) detected Cancel them
rem *****
rem
:statenok
@echo.
@echo Unknown Flash States or flash states "prepared" for server %1 available
@echo Who has started them ?Please check!
@echo After continue the old flashs are canceled
pause
@echo Cancel flash states for server %1
gfccli -A -N %1 -L %2 -P %3 -F %1.txt
if %errorlevel%==1 goto nothtdo
if %errorlevel%==2 goto timeout
if %errorlevel%==3 goto statenok
if %errorlevel%==5 goto gfiererror
if %errorlevel%==6 goto nologop
if %errorlevel%==7 goto noaccess
if %errorlevel%==10 goto parerror
if %errorlevel%==11 goto memerror
if %errorlevel%==0 goto cancok
@echo.
@echo Undefined returncode!
goto chkend
:cancok
@echo.
@echo All jobs canceled for server %1
goto start1
rem
```

7 コマンドラインインターフェース

```
rem *****
rem * Old Flashes (ready) detected CleanUp them
rem *****
rem
:old-ok
@echo.
@echo Flash States "ready"(without errors) for server %1 available
rem
:old-nok
@echo.
@echo Flash States "ready"(with errors) for server %1 available
goto cleanall
rem
:cleanall
@echo Who has started them ?Please check!
@echo After continue the old flashes are reseted
pause
@echo CleanUp flash states for server %1
gfccli -C -N %1 -L %2 -P %3 -F %1.txt
if %errorlevel%==1 goto nothtdo
if %errorlevel%==2 goto timeout
if %errorlevel%==3 goto statenok
if %errorlevel%==4 goto c-oldnok
if %errorlevel%==5 goto gfiererror
if %errorlevel%==6 goto nologop
if %errorlevel%==7 goto noaccess
if %errorlevel%==10 goto parererror
if %errorlevel%==11 goto memerror
if %errorlevel%==0 goto c-oldok
@echo.
@echo Undefined returncode!
goto chkend
rem
:c-oldok
@echo.
@echo CleanUP - Jobs detected all ok
goto start1
rem
```

```
:c-oldnok
@echo.
@echo CleanUP - Jobs detected not all ok
goto start1
rem
rem *****
rem * Errors in Check phase
rem *****
rem
:nottodo
@echo.
@echo CleanUp or cancel- No flash states ?????
goto endchk
rem
:timeout
@echo.
@echo - Timeout
goto endchk
rem
:statenok
@echo.
@echo CleanUp, cancel or StartFlash- Wrong state
goto endchk
rem
:gfierror
@echo.
@echo Wait for done, CleanUp or Cancel - gfi error
goto endchk
rem
:sferror
@echo.
@echo StartFlash - generic error
goto endchk
rem
:gfierrol
@echo.
@echo StartFlash - gfi error
goto endchk
```

7 コマンドラインインターフェース

```
rem
:nologon
@echo.
@echo - No logon parameters
goto endchk
rem
:noaccess
@echo.
@echo - access denied
goto endchk
rem
:parerror
@echo.
@echo - Parameter error
goto endchk
rem
:memerror
@echo.
@echo - Memory error
goto endchk
rem
:nostates
for /F %i in (fwpath.txt) do set fwp=%i
rem
rem *****
rem * "StartFlash" for the server
rem *****
rem
gfccli -S -N %1 -L %2 -P %3 -U %fwp% -F %1.txt
if %errorlevel%==1 goto nothtdo
if %errorlevel%==2 goto timeout
if %errorlevel%==3 goto statenok
if %errorlevel%==4 goto sferror
if %errorlevel%==5 goto gfierrol
if %errorlevel%==6 goto nologon
if %errorlevel%==7 goto noaccess
if %errorlevel%==10 goto parerror
if %errorlevel%==11 goto memerror
```



```
if %errorlevel%==0 goto stflok
@echo.
@echo Undefined returncode!
goto endchk
rem
:nothtdo
rem
rem *****
rem * "StartFlash"- nothing to do !- All componentsare up to date
rem *****
rem
@echo Server %1:"StartFlash"- nothing to do !- All components are up to
date
@echo %1 -Nothing to do - Actual Firmware already installed >>oklist.txt
goto endchk
rem
:stflok
rem
rem *****
rem * "StartFlash"- ok -Flash process running - wait for done for this
server
rem * Server is added to WaitServerList
rem *****
rem
@echo Server %1:"StartFlash"- ok -Flashprocess running - Please wait for
done
@echo %1,%2,%3 >>svwaitls.txt
rem
endchk
```

ファイル3

```
rem *****
rem * cli-work.bat *****
rem * *****
rem * Batch File to check states after flash of a special server
rem * If WaitForDone returned timeout, the server will be added to
rem * tmp-list (=WaitServerlist for next schedule)
rem * if WaitForDone returned with ready and no error the server will be
rem * to oklist
rem * -----
rem * Input-parameters:
rem * - cli-work server(%1) user(%2) Password(%3)
rem *****
rem
:start
@echo off
echo off >%1.txt
gfccli -W -N %1 -L %2 -P %3 -F %1.txt
if %errorlevel%==1 goto nothtdo
if %errorlevel%==2 goto timeout
if %errorlevel%==3 goto statenok
if %errorlevel%==4 goto readynok
if %errorlevel%==5 goto gfiererror
if %errorlevel%==6 goto nologop
if %errorlevel%==7 goto noaccess
if %errorlevel%==10 goto parerror
if %errorlevel%==11 goto memerror
if %errorlevel%==0 goto ready-ok
@echo.
@echo Undefined returncode!
goto endwk
rem
rem *****
rem * Timeout in this phase is normal
rem * - during Flash there will be more Timeouts
rem * Server is set in tmplist to be scheduled next time
rem *****
rem
```

```
:timeout
@echo.
@echo - Timeout Server %1 - Go on waiting for a minute
@echo %1,%2,%3 >>svtmppls.txt
goto endwk
rem
rem *****
rem * In case of error after flash, no Cleanup is done
rem * Error situation has to be analyzed (see return-file)
rem *****
rem
:readynok
@echo.
@echo - Ready Server %1 - errors detected - Analysing necessary
goto endwk
rem
rem *****
rem * Great!Flashes are ready (without error) CleanUp them
rem *****
rem
rem *****
rem * All component of the server were flashed without error
rem * The jobs have to CleanUp
rem *****
rem
:ready-ok
@echo.
@echo Flash States "ready"(without errors) for server %1 available
@echo CleanUp flash states for server %1
gfccli -C -N %1 -L %2 -P %3 -F %1.txt
if %errorlevel%==1 goto nothtdo
if %errorlevel%==2 goto timeoutc
if %errorlevel%==3 goto statenok
if %errorlevel%==4 goto c-oldnok
if %errorlevel%==5 goto gfiererror
if %errorlevel%==6 goto nologop
if %errorlevel%==7 goto noaccess
if %errorlevel%==10 goto parerror
```

7 コマンドラインインターフェース

```
if %errorlevel%==11 goto memerror
if %errorlevel%==0 goto cu-ok
@echo.
@echo Undefined returncode!
goto endwk
rem
rem *****
rem * All component of the server were flashed without error
rem * Clean up is done - the Server is set to OK-list
rem *****
rem
:cu-ok
@echo.
@echo Server %1:All components are flashed without errors
@echo %1 -All components are flashed without errors >>oklist.txt
goto endwk
rem
:c-oldnok
@echo.
@echo CleanUP - Jobs detected not all ok
goto start
rem
rem *****
rem * Errors in Wait phase
rem *****
rem
:nothtodo
@echo.
@echo CleanUp or WaitForDone- No flash states ?????
goto endwk
rem
:timeoutc
@echo.
@echo CleanUp, - Timeout???
goto endwk
rem
:statenok
@echo.
```

```
@echo CleanUp or WaitForDone- Wrong state ???
goto endwk
rem
:gfierror
@echo.
@echo CleanUp or WaitForDone - gfi error ???
goto endwk
rem
:nologop
@echo.
@echo CleanUp or WaitForDone - No logon parameters ???
goto endwk
rem
:noaccess
@echo.
@echo CleanUp or WaitForDone - access denied ???
goto endwk
rem
:parerror
@echo.
@echo CleanUp or WaitForDone - Parameter error ???
goto endwk
rem
:memerror
@echo.
@echo CleanUp or WaitForDonep - Memory error ???
goto endwk
rem
:endwk

Input File "ServerList (serverls.txt)":
aster,Administrator,Password
tulip,Administrator,Password
rose,Administrator,Password
carnation,Administrator,Password

Input File "FirmwarePath (fwpath.txt)":
H:\GlobalFlash\GF_Primergy_Firmware
```

7.9 CLI スタンドアロン

別製品として「UpdateManagerCLI」があり、これは ServerView Operations Manager がない環境用です。

ただしSVOM がないため、Linux環境でマネジメントブレードをアップデートしようとする場合、大きな制約が1つあります。

呼び出しパラメータ(Y オプション)の説明にあるように、マネジメントブレードのインベントリはファイル(VersionView.sav)として存在し、Y オプションを使用して渡される必要があります。

ところが、SVOM がないため、実行されているインベントリサービスがなく、システム上にインベントリファイルが作成されません。

このため、その他の手段でインベントリファイルを提供しなければ、Linux ではMMB をアップデートすることはできません。

8 トラブルシューティング

8.1 アップデートマネージャのエラーメッセージ

以下は、「[ジョブ詳細](#)」ダイアログの「エラーテキスト」フィールドに表示されるエラーメッセージの概要です([110 ページの「ジョブ詳細」ダイアログボックス](#)を参照)。

各メッセージについて、エラーを解決するためのアクションの説明があります。

APPL_CURRENTLY_RUNNING

プログラム実行の内部的重複

アクション

- 「[ジョブ詳細](#)」ダイアログで、「[ログファイルを表示](#)」をクリックします。
開いたログファイルには、選択したジョブの診断ファイルを含む zip ファイルへのハイパーリンクがあります。
- zip ファイルを保存して、弊社サポート担当者に送付します。

add job failed

ジョブの初期化エラー

cleanup failed

ジョブを削除できません

flash failed

管理対象サーバのアップデート中のエラー

flash timeout

ジョブ完了中のタイムアウト

manager timeout

アップデートマネージャの時間超過

prepare update failed

ジョブ転送エラー

reboot failed

管理対象サーバのブート中のエラー

アクション

- 「**ジョブ詳細**」ダイアログで、「**ログファイルを表示**」をクリックします。
開いたログファイルには、選択したジョブの診断ファイルを含む zip ファイルへのハイパーリンクがあります。
- zip ファイルを保存して、弊社サポート担当者に送付します。

could not transfer job(s)

ジョブの初期化エラー

pending jobs

ジョブが進行中、またはクリーンアップされていない

update process aborted

CMS がブートされたため、アップデートプロセスが中止された

アクション

- CLEANUP 機能を実行してください([71 ページの クリーンアップウィザード](#)を参照)。
- エラーが発生したジョブをコピーして、再起動します。

boot timeout

ブートプロセス中のタイムアウト

timeout wait for boot inactive

Update エージェントのブート中のエラー

アクション

- BIOS のブートシーケンスを確認し、必要に応じて修正します。
BIOS セットアップで、LAN/PXE をブートシーケンスの最初のエントリにしてください。
- 管理対象サーバをリブートします。

agent offline

Update エージェントが見つからない

アクション

- 接続の問題を修正します。
- これで解決しない場合は、Update エージェントを再インストールします。

8.2 シングルサインオンの問題

AccountCheck で設定されている ServerView Operations Manager V5.0 以降および ServerView Update エージェント V5.0 以降の場合

管理対象サーバ上のマネージャ証明書を検証する手順のいずれかが失敗すると(要求元とリモートコネクタサービス間の通信)、管理対象サーバのアクセスステータスは「不許可」に設定され、ログオン(ユーザ/パスワード)による認証が使用されます。

9 Help のヘルプ

Help の情報を表示します

9.1 Help の呼び出し

Help の呼び出しにはいくつか方法があります。

- ダイアログボックスの情報: F1 キーまたは **Help** ボタン
- 画面エリアの情報: 選択している画面で F1 キー
- メイン画面の情報: **Help/Help**

9.2 ウィザード

ウィザードはタスクを通じたアシスタントです。

通常、ウィザードは連続して処理する複数のセクションから成ります。各項目は画面の左にツリー構造で表示されています。

画面右下のボタンでウィザードを進めることができます。

次へ

次のウィザードへ進みます。

戻る

前のウィザードに戻ります。

キャンセル

設定を保存せずにウィザードをキャンセルします。

インストール開始

インストールを開始します。

9.3 Help の検索

以下にしたがって Help を検索できます。

1. Help 画面から「**検索**」タブを開きます。
2. 検索する文字列を入力します。
3. 「**検索**」をクリックします。
関連性のあるトピックが表示されます。
4. エントリをクリックします。
トピックが右のウィンドウに表示されます。検索用語は強調表示されます。

9.4 お気に入りへ保存

ServerView Update Management V5.0 helpでは2種類のお気に入りを保存できます。

- トピック
- 検索結果

9.4.1 トピックをお気に入りへ保存

1. 保存したいトピックを表示します。
2. Help画面でツールバーの  アイコンをクリックします。そのトピックへのリンクが「お気に入り」タブの「Favorite topics」に保存されます。

9.4.2 検索結果をお気に入りへ保存

1. Help画面で「**検索**」タブを開きます。
2. 検索する文字列を入力します。
3. **検索**をクリックします。関連性のあるトピックが表示されます。
4. 検索ボックス右の  アイコンをクリックします。そのトピックへのリンクが「**お気に入り**」タブの「**Favorite searches**」に保存されます。

10 後付け

10.1 GlobalFlash エージェント V4.71 のインストール

- Update エージェントをインストールする前に、管理対象サーバ上でどのようにアップデートを実行するか決定しておく必要があります。希望するアップデート手順によっては、異なる Update エージェントをインストールする必要があります。
- サービスパーティションによるアップデートでは、OS をインストールしたときに管理対象サーバ上にサービスパーティションが設定してある必要があります。サービスパーティションは後で作成することはできません。
- 異なる OS を交互に起動するためにサーバ上で複数のディスクが使用され、設定されたブートディスクに Linux とサービスパーティションが格納されている場合は、その他のディスク上にサービスパーティションを設定しないでください。

Linux システムの Update エージェントは、ブートディスクがどれであるか識別できません。Update エージェントが誤って別のディスク上の正しくないサービスパーティションを検出してしまう可能性があります。この場合、以降のアップデート手順は失敗します。

Windows を起動した場合、この問題は発生しません。

10.1.1 Windows でのインストール

以下の手順を使用してインストールできます。

- メニュー形式のインストール
- コマンドラインインターフェースによるインストール

10.1.1.1 メニュー形式のインストール

FTSetup.exe プログラムを開始してライセンス条件を確認した後、以下のパラメータを設定する必要があります。

インストールするエージェントのタイプ

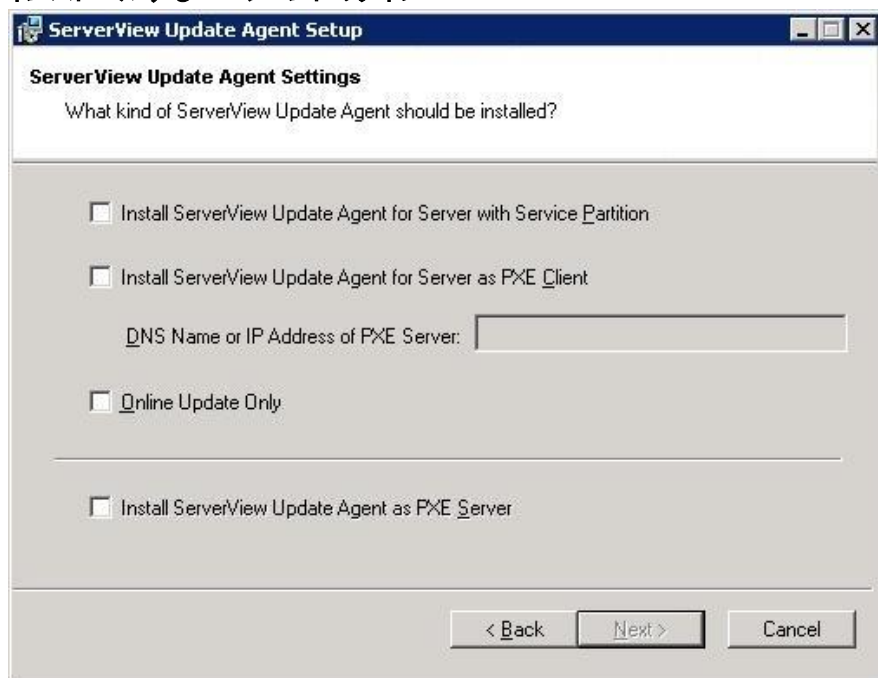


図 63: Update エージェントの選択



インストール可能なエージェントの選択は、該当するサーバモデルによって異なります。

Install ServerView Update Agent for Server with Service Partition

サービスパーティションを持つサーバの Update エージェント。



このモードは、ブートディスク上にサービスパーティションがある場合にのみ選択できます。

Install ServerView Update Agent for Server as PXE Client

PXE クライアントとしてのサーバの Update エージェント。

Online Update Only

オンラインアップデートの Update エージェント。

Install ServerView Update Agent as PXE Server

このモードは、PXE サーバがインストールされているときに追加で選択できます。

初期インストールの場合、内部アップデートマネージャテーブル(ServerView Suite Software CD の「Supported PRIMERGYs」を参照)に従ってこのアップデート手順を実行できる場合にのみ、対応するエージェントが事前設定されます。3つの手順のうちの2つ以上が可能な場合は、エージェントは事前設定されません。

アップデートインストールの場合、サーバに以前インストールされたエージェントが事前設定されます。

PXE サーバの名前(PXE サーバによるアップデートの場合のみ)

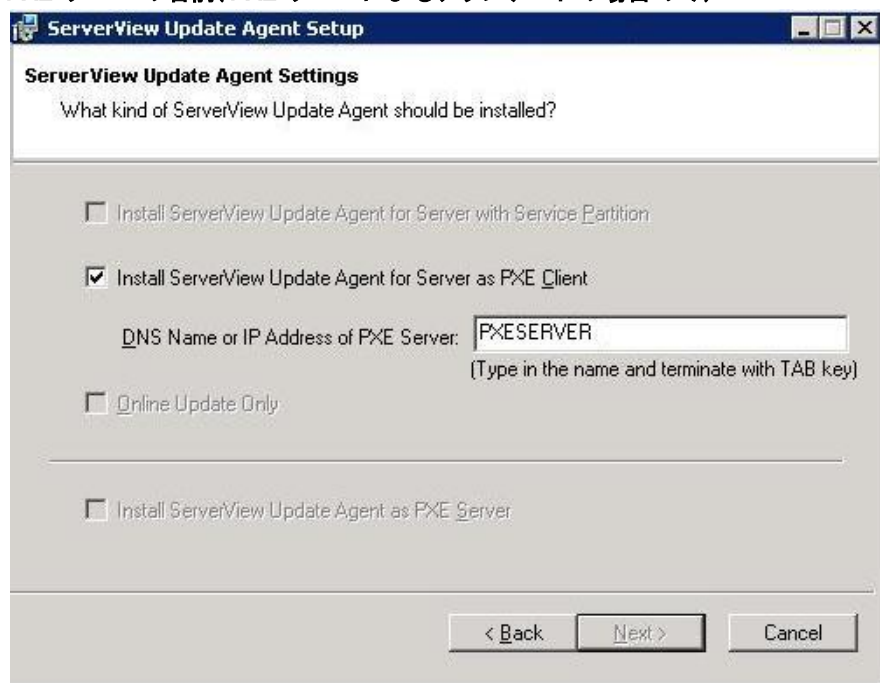


図 64: 割り当てられた PXE サーバの指定

 割り当てられた PXE サーバは、指定された PXE サーバへの接続を設定できない場合にのみ、アップデートマネージャのグラフィカルユーザインターフェースで後で指定できます。

TFTP サーバは、グラフィカルユーザインターフェース、またはアップデートマネージャの CLI(-T オプション) によってのみ、管理対象サーバに割り当てることができます。

その他のエージェント設定

ServerView Update Manager Service Setup

ServerView Update Additional Agent Settings
Set the ServerView Update agent settings for security, reboot action and abort control.

Security Settings

☒ Account Check
Flash User Group:
(Type in name of group and terminate with TAB key)

Reboot Control

☒ Automatic Reboot
☐ Suppress Reboot

Flash Abort Control

☐ No Abort
☒ Abort via Dialog

< Back Next > Cancel

図 65: その他のエージェント設定

Security Settings

Account Check

サーバにアクセスするときにアクセス権限を確認するかどうかを指定します。このオプションを有効にする場合、「フラッシュユーザグループ」も指定する必要があります。

Flash User Group

ローカルユーザグループの名前。

このグループ内のすべてのユーザは、アップデート手順を実行する権限があります。ユーザグループ「*GFUSER*」が事前設定されています。*GFUSER*グループを使用するには、Windows でこのグループを設定する必要があります。

ただし、別のユーザグループを使用することもできます。

Reboot Control

Automatic Reboot

リブートが必要な場合、すべての保留中のアップデートジョブが処理された後に自動的に開始します。

Suppress Reboot

自動リブートが抑制されます。リブートが必要な場合、PRIMERGY サーバをリブートするか、または管理サーバの CLI で Reboot コマンドを使用して、明示的に実行する必要があります。

Flash Abort Control

No Abort

アクティブなアップデートプロセスは中断できません。

Abort via Dialog

アクティブなアップデートプロセスをダイアログで中断できます。

Windows 2003

以下のオプションを選択すると、コンソールウィンドウにダイアログが表示されます(直接接続、リモートデスクトップなどによる接続)。

スタート - [設定 -] コントロールパネル - 管理ツール - サービス - OfflineFlash - プロパティ - ログオン

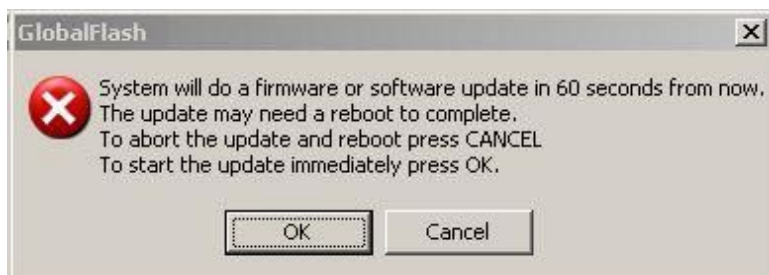
ローカルシステムアカウント

デスクトップとの対話をサービスに許可

その後、OfflineFlash サービスをリブートします。

Windows 2008

ダイアログがコンソールウィンドウに表示されます(直接接続のみ)。



管理対象サーバのユーザには、以下のオプションがあります。

1. 「OK」ボタンを使用して、アップデート手順を即座に開始できます。
2. アップデート手順が自動的に開始されるまで待機します。

3. 「キャンセル」ボタンを使用して、アップデート手順を停止できません。

使用しているインターフェース(GUI または CLI)に応じて、以下のいずれかの状況になります。

- GUI を使用した場合、管理用サーバで **ジョブステータス = エラー** とフラッシュ結果 = **「ユーザによりフラッシュ中断」** が表示されます。

アップデートするサーバのユーザと相談した後、アップデートをリブートします(「**ジョブの作成**」または「**ジョブのコピー**」を使用)。

- CLI を使用した場合、管理用サーバで、コマンド `GFCLI-W` (=WaitForDone) で値 **3** が返され、**〈結果ファイル〉** にメッセージ「**ユーザによりフラッシュ中断**」が記録されます。

以下のコマンドを使用して管理対象サーバをクリーンアップします。

`GFCLI-A -S` (=Cancel、強制バージョン)

アップデートするサーバのユーザと相談した後、コマンド `GFCLI-S/-O` (=StartFlash) を使用してアップデートをリブートします。



アップデートインストールの場合、デフォルト値が既存の設定値に割り当てられます。

10.1.1.2 コマンドラインインターフェースによるインストール

Update エージェントは以下のコマンドを使用してコマンドレベルでインストールできます。

```
FTAsetup -noaccountcheck {0|1}
        [-flashusergroup <ユーザグループ>]
        [-pxeservername <サーバ名>|-onlineupdateonly]
        [-rebootcontrol {AutomReboot | SuppressReboot}]
        [-flashabortcontrol {Dialog | NoAbort}]
```

```
FTAsetup -GFAU
```

onlineupdateonly オプション(下記を参照) が指定されず、内部アップデートマネージャテーブル(ServerView Suite Software CD の「Supported PRIM-ERGYs」を参照) に従ってサービスパーティションによるアップデートを実行できる場合、サービスパーティションが存在するかどうか確認されます。サービスパーティションが存在する場合、サービスパーティションを持つサーバの Update エージェントがインストールされます。サービスパーティションが存在しない

か、PXE サーバによるアップデートのみが可能な場合、サーバの Update エージェントは PXE クライアントとしてインストールされます。

オプションの意味は以下のとおりです。

`-noaccountcheck { 0 | 1 }`

このオプションを使用して、パスワードクエリを有効(0)または無効(1)にします。

`-flashusergroup <ユーザグループ>`

パスワードクエリを有効にした場合、このオプションを使用してローカルユーザグループの名前を指定できます。このユーザグループ内のすべてのユーザは、アップデート手順を実行する権限があります。このオプションを省略すると、*GFUSER*がデフォルトになります。

`-pxeservername <サーバ名>`

このオプションを使用して、割り当てられたPXE サーバの名前を指定します。Update エージェントがPXE クライアントとしてサーバにインストールされ、このオプションを指定しない場合、インストール後にPXE サーバはPRIMARY サーバに割り当てられません。この場合、後でPXE サーバの名前を指定する必要があります。



TFTP サーバによるアップデートの場合、インストール時にTFTP サーバを管理対象サーバに割り当てることはできません。この割り当ては、グラフィカルユーザインターフェースか、またはアップデートマネージャのCLI(-T オプション)を使用して指定する必要があります。

`-onlineupdateonly`

上記で説明した自動的な方法とは別に、このオプションを使用して、サービスパーティションとPXE サーバのないオンラインアップデートのUpdate エージェントをインストールします。

`-rebootcontrol { AutomReboot | SuppressReboot }`

このオプションを使用して、管理対象サーバの自動リブートを制御します。**AutomReboot**を使用すると自動リブートが許可され、**SuppressReboot**を使用すると抑制されます。このオプションを指定しない場合、デフォルトで**AutomReboot**が設定されます。



このオプションは、**onlineupdateonly**との併用のみ指定できません。

```
-flashabortcontrol {NoAbort | Dialog}
```

このオプションを使用して、アップデートプロセスをダイアログによって中断できるか(**Dialog**)、できないか(**NoAbort**)を定義します。このオプションを指定しない場合、デフォルトで **Dialog** が設定されます。

```
-GFAU
```

このオプションを使用して、エージェントのアップデートインストールを開始します。まったく新規のインストール(このオプションなし)とは異なり、Update エージェントに設定済みのパラメータは維持されます。

10.1.2 Linux でのインストール

Update エージェントは以下のコマンドを使用してコマンドレベルでインストールできます。

```
rpm {-i | -U --nopreun --nopostun}
```

```
SMAWgfa-<リリース>-<バージョン>.rpm
```

オプションの意味は以下のとおりです。

```
-i
```

このオプションを使用して、初期インストールを開始します。

```
-U
```

このオプションを使用して、アップデートインストールを開始します。

```
--nopreun --nopostun (アップデートインストールの場合のみ)
```

これらのオプションは常に一緒に指定されますが、指定すると、アップデートインストールが実行されたときにアンインストールルーチンが実行されません。アップデートマネージャで設定済みのパラメータは維持されます。

コマンドを実行した後、パラメータには `/opt/SMAW/SMAWgfa/cfg/LinuxFwuAgent.cfg` ファイルのデフォルト値が割り当てられ、これらを要件に応じて変更できます。

AgentMode=<n>

n = 1(PXE/TFTP サーバでアップデート)

n = 2(サービスパーティションでアップデート)

サービスパーティションがインストール中に検出された場合、**AgentMode** は自動的に 2 に設定されます。サービスパーティションが検出されなかった場合、**AgentMode** は自動的に 1 に設定されます。



TFTP サーバでのアップデートは、Linux では現在サポートされていません。

RebootControl=<n>

n = 0(リブート抑制が無効)

n = 1(リブート抑制が有効)

このオプションを使用して、リブート抑制を有効にします(デフォルト :n= 0)。



リブート抑制は、オンラインアップデートの場合のみ指定されます。

PxeServer=<サーバ>

サーバ= PXE サーバの名前または IP アドレス

サーバ= "?????" (オンラインアップデートのみ)

名前または IP アドレスは、**AgentMode** = 1 の場合にのみ評価されます。

FlashUserGroup=<ユーザグループ>

ユーザの /etc/passwd に入力された、プライマリユーザグループの名前。このグループ内のすべてのユーザは、アップデート手順を実行する権限があります(デフォルト GFUSER)。

存在しない場合は、ユーザ **globalflash** とパスワード **globalflash** の **GFUSER** グループがインストール中に自動的に設定されます。

このパラメータは、**NoAccountCheck** = 0 の場合にのみ評価されます。

NoAccountCheck=<n>

n = 0(パスワードクエリが有効、デフォルト値)

n = 1(パスワードクエリが無効)

TraceFile=<ファイル>

TraceLevel > 0 のときにエージェントのアクションが記録されるファイル。

TraceLevel=<n>

n = 0(トレースなし)

n = 2(エラーのトレース)

n = 3(コマンドのトレース)

n = 5(詳細トレース)

パラメータの変更は、*/etc/init.d/globalflash restart* コマンドが実行された後に反映されます。

アンインストールは **rpm -e SMAWgfa** コマンドを使用して実行されます。

